

研修開催要領等（平成29年度）

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員及び事務職員等に対する研修（学校経営研修）

1. 教職員等中央研修	
第1回 校長研修	1
第2回 校長研修	3
第1回 副校長・教頭等研修	5
第2回 副校長・教頭等研修	7
第3回 副校長・教頭等研修	9
第4回 副校長・教頭等研修	11
第1回 中堅教員研修	13
第2回 中堅教員研修	15
第3回 中堅教員研修	17
第4回 中堅教員研修	19
第5回 中堅教員研修	21
第1回 事務職員研修	23
第2回 事務職員研修	25

各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者の養成等を目的とする研修（指導者養成研修）

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	27
第2回	29
2. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	31
3. 生徒指導指導者養成研修	33
4. 教育相談指導者養成研修	35
5. いじめの問題に関する指導者養成研修	
中央指導者研修	37
仙台会場	39
大阪会場	41
福岡会場	43
6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	45
日本語指導者用コース	49

7. 小学校における外国語教育指導者養成研修	53
8. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	55
9. 英語教育海外派遣研修	59
10. 体力向上マネジメント指導者養成研修	61
11. 健康教育指導者養成研修	63
12. 食育指導者養成研修	65
13. 学校安全指導者養成研修	67
14. 言語活動指導者養成研修	69
15. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	72
北海道・東北ブロック	76
関東・甲信越ブロック	78
東海・北陸ブロック	80
近畿ブロック	82
中国・四国ブロック	84
九州・沖縄ブロック	86
16. 学校教育の情報化指導者養成研修	88
17. 人権教育指導者養成研修	90
18. キャリア教育指導者養成研修	
第1回	92
第2回	95
19. 幼児教育指導者養成研修	98

地方公共団体からの委託等により共益的事業として実施する研修（委託研修）
--

1. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A-1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	100
工業：B-1（教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～）	102
商業：C-1（主体的・対話的で深い学びの実現を目指した教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	104
水産：D-1（水産物の品質管理と衛生管理に関する講義と演習）	106
家庭：E-1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習）	108
看護：F-1（保健医療福祉の変化に対応し、生徒の基礎的・基本的看護実践力を育成する授業に関する講義と演習）	110
情報：G-1（次期学習指導要領に対応したプログラミング及び教科「情報」の授業改善に関する講義と実習）	112
福祉：H-1（実践的介護の知識及び技能の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習））	114
技術・家庭（技術）：I-1（技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導）	116
技術・家庭（技術）：I-2（技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導）	118
技術・家庭（家庭）：J-1（技術・家庭科における食育、幼児理解に関する講義と実習）	120
2. 産業教育実習助手研修	
教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習	122
3. 産業・理科教育教員派遣研修	124

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回校長研修【第417回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長を育成する。						
受講対象	主として小学校・中学校の校長等 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者						
開催期日	平成29年6月12日（月）～平成29年6月16日（金）				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	106	参加率	132.5%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	81	19	0	0	2	4	106
割合 (%)	79.4	18.6	0.0	0.0	1.9	3.8	
	100	98.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの意義や魅力を存分に味わうことができました。そして、全ての活動を目標に向けていかにマネジメントしていくか、使命と責任を感じました。 ・最新の教育に対する国の施策や考え方、個々の課題に対する具体的な方策等、とても有意義であった。 ・事前課題の作成が自身の研修に役立ったり、文科省の先生の解説が直接聞けたり、各講師の講演は大変参考になった。また、他の道府県の校長方との情報交換は、この研修ならではの利点である。 ・どの講座も大変理解しやすく、有意義な話ばかりでした。一つ一つがとても重要なポイントを示して頂き、全てが繋がっていることが分かりやすかったのだと思いました。 ・校長は一人職場である。弱音を吐きだす場がない。この研修により、校長としての自覚が高まったと共に、他県の方々と交流することで、本県の強みと弱み、自校の強みと弱み、自分の強みと弱みを見つめ直すことができました。 ・（事務職員研修との合同開催のため）事務長さんともお話する機会があり、学校経営において、大変役立ちましたし、自分の認識不足も明確になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進した。 ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主たる研修の内容を「教育政策の諸動向」、「スクール・マネジメントの理論と実践課題」、「研修プログラムの開発と実践的応用」、「校内研修の組織化」等とし、都道府県等、地域レベルの研修指導者に相応しい資質能力の充実を図る。 ・校長として保有する知識、経験を踏まえ、さらに指導者として修得すべき新たな知見の獲得を目指し、「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れる。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第1回校長研修

6月12日(月)	6月13日(火)	6月14日(水)	6月15日(木)	6月16日(金)
8:30~8:50 受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 講義 カリキュラム・ マネジメント	9:00~12:15 講義・演習 道徳教育の マネジメント	9:00~12:15 講義・演習 教職員のメンタル ヘルス・マネジメン ト	9:00~12:15 講義・演習 マネジメントの実践 に向けて
10:10~10:30 開講式	岐阜大学 准教授 田村 知 子	大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	早稲田大学 教授 河村 茂雄	国士舘大学 教授 北神 正行
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省				
事務職員研修と合同開催				
13:15~16:30 講義 学校ビジョンと戦略 国士舘大学 教授 北神 正行	13:15~16:30 講義・演習 新しい学びの推進 ～主体的・対話的 で深い学び～ 玉川大学 教授 森山 賢一	13:15~16:30 講義・演習 リスク・マネジメント 鳴門教育大学大学院 教授 阪根 健二	13:15~17:15 (休憩:10分×2回 を含む) 演習・協議 スクール・ コンプライアンス 文部科学省	13:15~14:45 特別講義 奈良市立 一条高等学校校長 藤原 和博 事務職員研修と合同開催
事務職員研修と合同開催				15:00~15:15 閉講式
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②		

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回校長研修【第423回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長を育成する。							
受講対象	主として高等学校・特別支援学校の校長等 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成29年10月16日（月）～平成29年10月20日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	67	人	参加率	83.8%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	58	6	0	0	1	2	67
割合 (%)	89.2	9.2	0.0	0.0	1.5	3.0	
	64						
	98.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・一流の講師陣から最新の情報を聞くことができたこと、日常の校長としての業務について理論的に学び直すことができたこと、全国から集う校長先生方とネットワークができ情報交換ができたことなど、貴重な機会となりました。 ・今まさに学校で取り組もうとしている内容についてアドバイスをふんだんにいただいた。 ・学習指導要領改定に向けての最新情報や、重要性が叫ばれるマネジメントについて、詳細に学ぶことができました。 ・これまで見落としてしまっていたような学校経営上の視点が認識できて、大変参考になった。 ・日頃、校長室で一人で抱え込むことが、多くの校長先生と共有できたことが一番の財産です。 ・グループによる協議・演習を多く取り入れていただいたので、他県の校長や事務長と意見や情報を交換することができました。 ・学校の経営・運営や組織作りに関する研修を、事務職員と合同で実施することは意義のあることである。職務内容の違いから出てくる意見が新鮮で、大変ためになった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進した。 ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主たる研修の内容を「教育政策の諸動向」、「スクール・マネジメントの理論と実践課題」、「研修プログラムの開発と実践的応用」、「校内研修の組織化」等とし、都道府県等、地域レベルの研修指導者に相応しい資質能力の充実を図る。 ・校長として保有する知識、経験を踏まえ、さらに指導者として修得すべき新たな知見の獲得を目指し、「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れる。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第2回校長研修

10月16日(月)	10月17日(火)	10月18日(水)	10月19日(木)	10月20日(金)
8:30~8:50 受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~10:30 講義 カリキュラム・ マネジメント 岐阜大学 准教授 田村 知子	9:00~10:30 講義・演習 道徳教育のマネジメント 大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	9:00~10:30 講義・演習 教職員のメンタル ヘルス・マネジメント 早稲田大学 教授 河村 茂雄	9:00~10:30 講義・演習 マネジメントの実践 に向けて 国土館大学 教授 北神 正行
10:10~10:30 開講式 事務職員研修と合同開催			事務職員研修と合同開催	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省	10:45~12:15 講義 カリキュラム・ マネジメント 岐阜大学 准教授 田村 知子	10:45~12:15 講義・演習 道徳教育のマネジメント 大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	10:45~12:15 講義・演習 教職員のメンタル ヘルス・マネジメント 早稲田大学 教授 河村 茂雄	10:45~12:15 講義・演習 マネジメントの実践 に向けて 国土館大学 教授 北神 正行
事務職員研修と合同開催			事務職員研修と合同開催	
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~14:45 講義 学校ビジョンと戦略 国土館大学 教授 北神 正行	13:15~14:45 講義・演習 新しい学びの推進 ～主体的・対話的で 深い学び～ 國學院大学 教授 田村 学	13:15~14:45 講義・演習 リスク・マネジメント 鳴門教育大学大学院 教授 阪根 健二	13:15~14:45 演習・協議 スクール・ コンプライアンス 文部科学省	13:15~14:45 特別講義 奈良市立一条高等学校 校長 藤原 和博
事務職員研修と合同開催				事務職員研修と合同開催
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
15:00~16:30 講義 学校ビジョンと戦略 国土館大学 教授 北神 正行	15:00~16:30 講義・演習 新しい学びの推進 ～主体的・対話的で 深い学び～ 國學院大学 教授 田村 学	15:00~16:30 講義・演習 リスク・マネジメント 鳴門教育大学大学院 教授 阪根 健二	14:55~16:25 演習・協議 スクール・ コンプライアンス 文部科学省	15:00~15:15 閉講式 事務職員研修と合同開催
事務職員研修と合同開催				/
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:35~17:15 スクール・ コンプライアンス	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修【第420回】						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる						
開 催 期 日	平成29年7月24日（月）～平成29年8月4日（金）				10日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	123	参加率	123.0%
開 催 場 所	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	110	11	0	0	2	0	123
割合 (%)	89.4	8.9	0.0	0.0	1.6	0.0	
	121	98.4					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・教頭としてどんな力が必要か、どんな力を期待されているのか、普段、目の前の用務に追われがちだが、学んだ内容をさらに自分のものとして理論立てて確立していきたい。 ・知らないことだけでなく、知っていることも観点を変えて見ることができるようになり、実践に生かすとともに、他に広めたいという気持ちになった。 ・同様の立場にある人が志高く協議し合える場であり、大変になった。講義の内容ももちろんだが、教育への使命感を再認識できたことが大きい。 ・管理職として、今後必要な資質を身につけておくべき内容の研修で、私にとっては大変有意義なものであった。講義の中にある演習やグループ協議は特に有効で、今後もぜひ演習を多く入れていただきたい。 ・現在の教育課題の多くについて素晴らしい講師の指導を受け、演習の時間も設けられ、集中して取り組むことで、学校運営力が確かに高まった。また、管理職としてのモチベーションが大いに向上した。 ・自分の学校について、また管理職として、学校をどのように運営していくのか考える貴重な機会をいただいた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修(東京開催)

7月24日(月)	7月25日(火)	7月26日(水)	7月27日(木)	7月28日(金)
9:00~9:30 受付	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング
9:30~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
10:10~10:30 開講式	講義 カリキュラム・マネジメント	講義 安全管理	講義 道徳教育のマネジメント	講義 特別支援教育の充実
休憩				
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省	甲南女子大学 教授 村川 雅弘	東京大学大学院 特任教授 片田 敏孝	香川大学 教授 七條 正典	早稲田大学 教授 梅永 雄二
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)
講義 学校ビジョンと戦略 (マネジメント概論)	講義 新しい学びの推進 ~主体的・対話的で深い学び~	講義 教育法規	講義・演習 人材育成とコーチング	講義 生徒指導
岐阜大学 教授 篠原 清昭	信州大学大学院 教授 伏木 久始	日本女子大学 教授 坂田 仰	別府大学 教授 佐藤 敬子	国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
7月31日(月)	8月1日(火)	8月2日(水)	8月3日(木)	8月4日(金)
8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~9:30 ユニットミーティング	8:45~12:00 (休憩:15分を含む)
9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~16:30 (休憩:15分×2回、昼休憩を 含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	休憩	講義・演習 研修の企画・運営・評価
講義 メンタルヘルス・マネジメン ト	講義・演習 マネジメントの実践に向け て	講義・演習 リスクマネジメント (危機の未然防止方策)	9:45~12:00 (休憩:15分を含む)	
早稲田大学 教授 河村 茂雄	宮城教育大学大学院 教授 本図 愛実	高崎経済大学 講師 飯野 真幸	演習・協議 スクールコンプライアンス	独立行政法人 教職員支援機構 研修特別研究員
12:15~13:15 昼休憩		12:15~13:30 昼休憩	12:00~13:30 昼休憩・準備	12:00~13:15 昼休憩
13:15~17:15 (休憩:15分×2回を含む)		13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を含む)	13:15~14:45 特別講義 奈良市立一条高等学校 校長 藤原 和博
講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル		演習・協議 スクールコンプライアンス	演習・協議 スクールコンプライアンス	14:50~15:10 閉講式
	16:45~17:15 学校運営演習⑤		17:00~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修【第422回】						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。						
受 講 対 象	高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる						
開 催 期 日	平成29年9月25日（月）～平成29年10月6日（金）				10日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	146	参加率	121.7%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	10	1	0	0	2	146
割合 (%)	92.4	6.9	0.7	0.0	0.0	1.4	
	143	99.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・管理職としてマネジメントを行っていくためのたくさんの学びやヒントとなりました。 ・今まで、学校の多くのことを変革していこうと思う中で、マネジメントの進め方に不安がありました。今回の研修を通して、現場に戻って活用していき、活気ある学校づくりに頑張っていきたい。 ・どの講座も専門性の高い、濃いものでした。学校の管理職としてステップアップする上で、大変意義がありました。 ・組織マネジメントからリスクマネジメント、学校運営演習まで、あらゆる学校現場が抱える場面のプログラムが受講できて良かった。 ・講義だけでなく、グループワーク等が適度に散りばめられており、意見交換の中で良い刺激を得ることができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 日程表

9月25日(月)	9月26日(火)	9月27日(水)	9月28日(木)	9月29日(金)
	8:30~8:45	8:30~8:45	8:30~8:45	8:30~8:45
受付	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
8:30~8:50	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分
9:00~10:10	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
オリエンテーション				
10:10~10:30 閉講式	講義 カリキュラム・ マネジメント	講義 安全管理	講義 道徳教育の マネジメント	講義 特別支援教育の充実
休憩 15分	明星大学 教授 吉富 芳正	文部科学省初等中等教育局 安全教育調査官 吉門 直子	京都産業大学 教授 柴原 弘志	FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省				
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)
講義 学校ビジョンと戦略	講義・演習 新しい学びの推進 ~主体的・対話的で 深い学び~	講義 教育法規	講義・演習 人材育成とコーチング	講義 メンタルヘルス・ マネジメント
筑波大学大学院 教授 浜田 博文	岡山大学 教授 高旗 浩志	日本女子大学 教授 坂田 仰	神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	早稲田大学 教授 河村 茂雄
休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
10月2日(月)	10月3日(火)	10月4日(水)	10月5日(木)	10月6日(金)
8:30~8:45	8:30~8:45	8:30~8:45	8:30~9:30	8:30~11:45 (休憩:15分を含む)
ミーティング	ミーティング	ミーティング	ユニットミーティング	
休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	
9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む)	講義・演習 研修の 企画・運営・評価
講義 生徒指導	講義・演習 マネジメントの実践に 向けて	講義・演習 リスク・マネジメント	演習・協議 スクール・ コンプライアンス	教職員支援機構
関西外国語大学 教授 新井 肇	兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	高崎経済大学 講師 飯野 眞幸		
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:30 昼食・休憩	12:00~13:30 昼食・休憩	休憩 15分
13:15~17:15 (休憩:15分×2を含む)	13:15~14:45 講義・演習 マネジメントの実践に 向けて	13:30~17:15 (休憩:15分×2を含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2を含 む)	12:00~12:15 閉講式
講義・演習 コミュニケーションカ	兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	演習・協議 スクール・ コンプライアンス	演習・協議 スクール・ コンプライアンス	
音楽座ミュージカル	休憩 15分			
	15:00~16:30 特別講義			
	株式会社Indigo Blue 代表取締役会長 柴田 励司			
	休憩 15分			
	16:45~17:15 学校運営演習⑤		17:00~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修【第425回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。						
受講対象	幼稚園・小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる						
開催期日	平成29年11月6日（月）～平成29年11月17日（金）				10日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	148	参加率	92.5%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	146	2	0	0	0	0	148
割合 (%)	98.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	148						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自校や自らが活動する地域の教育のあり方について深く考え、今後の展望を持つことができた。 ・教頭という立場でなすべき仕事について、様々な視点から考えることができた。特に学校の存在意義というものに立ち返って考えることで、学校に与えられた役割について考え、これからの教職に生かしていけると感じた。 ・研修全体が2週間後（ゴール）を見据えた流れになるよう配置されており、これから研修を計画するにあたり、とても参考になった。一流の講師陣による講義・演習で、現場だけではわからない点を理解することができた。 ・普段活動していることについて見直す視点をたくさん示していただいた。一つ一つの教育活動に多くの法令が関係していることを感じる事ができた。 ・一斉での講義・演習・ワークショップ等、様々な手法があり、よかった。研修の在り方として考えた場合も、大変参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

11月6日(月)	11月7日(火)	11月8日(水)	11月9日(木)	11月10日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
受付 8:30~8:50	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
10:10~10:30 開講式	講義 カリキュラム・マネジメント 岐阜大学 准教授 田村 知子	講義 安全管理 多賀城市教育委員会 学校教育課長 身崎 裕司	講義 道徳教育のマネジメント 香川大学 教授 七條 正典	講義 特別支援教育の充実 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
休憩 15分				
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省				
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)
講義 学校ビジョンと戦略 筑波大学大学院 教授 浜田 博文	講義・実践発表 新しい学びの推進~主体的・対話的で深い学び~ 玉川大学 教授 森山 賢一	講義 教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	講義・演習 人材育成とコーチング 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	講義 メンタルヘルス・マネジメント 早稲田大学 教授 河村 茂雄
休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
11月13日(月)	11月14日(火)	11月15日(水)	11月16日(木)	11月17日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~11:45 (休憩:15分を含む)
休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	講義・演習
9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:45~12:00 (休憩:15分を含む)	研修の企画・運営・評価 独立行政法人 教職員支援機構
講義 生徒指導 文教大学 教授 松田 素行	講義・演習 マネジメントの実践に向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	講義・演習 リスク・マネジメント 淑徳大学 准教授 黒川 雅子	演習・協議 スクール・コンプライアンス	
保育的関係 國學院大學 教授 神長 美津子				休憩 15分
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:30 昼食・休憩	12:00~13:30 昼食・休憩	12:00~12:15 閉講式
13:15~17:15 (休憩:15分×2を含む)	13:15~14:45 講義・演習 マネジメントの実践に向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2回を含む)	
講義・演習 コミュニケーション力 音楽座ミュージカル	休憩 15分 特別講義 大谷大学 教授 荒瀬 克己	演習・協議 スクール・コンプライアンス	演習・協議 スクール・コンプライアンス	
	休憩 15分			
	16:45~17:15 学校運営演習⑤		17:00~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修【第428回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。						
受講対象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる						
開催期日	平成30年2月5日（月）～平成30年2月16日（金）				10日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	169	参加率	93.9%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	158	5	0	0	0	6	169
割合 (%)	96.9	3.1	0.0	0.0	0.0	3.6	
	163						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習が机上のものとしてでなく、具体的・実践的なものだった。 ・講義の順序が素晴らしかった。初日から最終日までの並べ方、当日の午前と午後の組み合わせなど、受講者が知識を獲得する配慮を感じました。 ・この研修を通して、学校全体や地域との関係からの視野を強くもち、国をはじめとする教育施策の動向や、地域の将来像を鑑みた学校組織・運営について理解することができた。 ・社会・保護者の学校に対する期待・要望が大きく変わる中、この研修ではその中で学校が押さえてはならないポイントがほぼ網羅されていた。特に、学習指導要領に伴う新しい学び・カリキュラムマネジメント・学校ビジョン等は時宜を得ていた。 ・まさにアクティブ・ラーニングでした。頭をフル回転させなければならないような方法（講義のみならず、演習・協議・発表…etc.）だった。講義のスピードにもついていこう！と必死になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営力の育成、高度専門職としての資質能力の向上を目的とする研修プログラム・モデルの構築を企図し、学校経営の主要分野に関する理論の修得および「演習」、「ワークショップ」等のアクティブ・ラーニング型研修方法を豊富に取り入れた研修内容とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 日程

2月5日(月)	2月6日(火)	2月7日(水)	2月8日(木)	2月9日(金)	2月10日(土)
受付 8:30~8:50	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
10:10~10:30 開講式	講義 カリキュラム・ マネジメント	講義 安全管理	講義 道德教育の マネジメント	講義 特別支援教育の充実	講義 メンタルヘルス・マネジ メント
休憩 15分	奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	富谷市立東向陽台小学校 校長 麻生川 敦	京都産業大学 教授 柴原 弘志	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 明官 茂	早稲田大学 教授 河村 茂雄
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~16:30 (休憩:15分を含む)	13:15~17:15 (休憩時間を含む)
講義 学校ビジョンと戦略 岐阜大学 教授 篠原 清昭	講義・演習 新しい学びの推進 ~主体的・対話的で 深い学び~ 國學院大學 教授 田村 学	講義 教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	講義・演習 人材育成とコーチング 別府大学 教授 佐藤 敬子	講義 生徒指導 東京成徳大学 教授 石隈 利紀	講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル
休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	休憩 15分	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④	
2月12日(月)	2月13日(火)	2月14日(水)	2月15日(木)	2月16日(金)	
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~11:45 (休憩:15分を含む)	
	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	休憩 15分 9:45~12:00 (休憩:15分×1回を 含む)	講義・演習 研修の 企画・運営・評価 教職員支援機構	
	講義・演習 マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	講義・演習 リスク・マネジメント 淑徳大学 教授 黒川 雅子	演習・協議 スクール・ コンプライアンス	休憩 15分	
	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:30 昼食・休憩	12:00~13:30 昼食・休憩	12:00~12:15 閉講式	
	13:15~14:45 講義・演習 マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	13:30~17:15 (休憩:15分×2を含む)	13:30~17:00 (休憩:15分×2を含 む)		
	休憩 15分	演習・協議 スクール・ コンプライアンス	演習・協議 スクール・ コンプライアンス		
	15:00~16:30 特別講義 株式会社佐々木常夫マネージメント・リ サーチ 代表取締役 佐々木 常夫				
	休憩 15分				
	16:45~17:15 学校運営演習⑤		17:00~17:15 ユニットミーティング		

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修【第416回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。							
受講対象	主として高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者							
開催期日	平成29年5月22日（月）～平成29年6月9日（金）					15日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	92	人	参加率	92.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	85	7	0	0	0	0	92
割合 (%)	92.4	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	92	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・今の教育改革の社会的背景と法的な根拠を学ぶとともに、それを実践していくための考え方や具体的な方法を、講義と体験的な取組を通してしっかりと学ぶことができた。学校や授業を見る視点が変わったと思います。 ・現在、学校の運営等に必要ながとともよく分かりました。聞く講義・演習・話し合いのバランスが本当に綿密な計画の下、運営されていると感じました。学校に戻ってすぐ生かせること、自分でさらに勉強したいことのバランスも非常に良かったです。 ・自身が教務主任という立場で、様々な課題を所属校で抱えており、そうしたものの改善に取り組む糸口を与えてくれる講義・演習が多かった。いくつかのものについては、今年度早速取り組める内容のものもあり、とても良かった。 ・カリキュラムマネジメント・学校運営・コーチング・メンタルヘルスマネジメント、現場で活用できる内容が多く、戻りましたら、ぜひ取り組んでいきたいと思いました。何よりも全国の先生方と知り合いになり、いろいろと勉強できたことが良かったです。 ・自校を客観的な目で見たり、自分自身の教育活動を振り返ることができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

5月22日(月)	5月23日(火)	5月24日(水)	5月25日(木)	5月26日(金)
受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 講義 地方教育行財政制度	9:00~16:30 講義 教育法規Ⅱ	9:00~12:15 講義・演習 カリキュラム・マネジメント	9:00~12:15 講義 ESD 持続可能な開発のための教育
10:10~10:30 開講式	国立青少年教育振興機構 前理事長 田中 壮一郎	弁護士 清水 幹裕	甲南女子大学 教授 村川 雅弘	文部科学省 教科調査官 濱野 清
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省				
13:15~16:30 講義 学校ビジョンと戦略 九州大学大学院 教授 元兼 正浩	13:15~16:30 講義 教育法規Ⅰ 筑波大学 教授 徳永 保		13:15~16:30 講義・演習 新しい学びの推進～主体的・ 対話的で深い学び～ 國學院大學 教授 田村 学	13:15~16:30 講義 道徳教育のマネジメント 兵庫教育大学 教授 谷田 増幸
16:45~17:15 実践研究①	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
5月29日(月)	5月30日(火)	5月31日(水)	6月1日(木)	6月2日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
9:00~12:15 講義 キャリア教育 新潟大学 教授 松井 賢二	9:00~12:15 講義 特別支援教育の充実 新潟大学 教授 長澤 正樹	9:00~12:15 講義 生徒指導 鹿児島大学 教授 大坪 治彦	9:00~12:15 講義 安全管理 多賀城市教育委員会 学校教育課長 身崎 裕司	9:00~17:15 講義・演習 リスク・マネジメント ～危機の未然防止方策～ SOMPOリスクアマネジメント 株式会社
13:15~17:15 講義・演習 コミュニケーション力 音楽座ミュージカル	13:15~16:30 講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	13:15~16:30 講義・演習 コーチング 東京聖栄大学 教授 有村 久春	13:15~16:30 講義 ミドル・リーダーの役割 大阪市立大空小学校 元校 木村 泰子 10年後の学校づくりの リーダーとして	
	16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 実践研究②	16:45~17:15 実践研究③	
6月5日(月)	6月6日(火)	6月7日(水)	6月8日(木)	6月9日(金)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ミーティング	8:30~9:30 ミーティング	8:30~11:45 講義・演習 研修の企画・運営・評価
9:00~12:15 講義 グローバル時代の教育の推進	9:00~16:30 講義・演習 マネジメントの実践に向けて	9:45~17:00 演習・協議 スクール・コンプライアンス	9:45~17:00 演習・協議 スクール・コンプライアンス	教職員支援機構
金沢学院大学 教授 多田 孝志	群馬大学 准教授 高橋 望	文部科学省	文部科学省	
13:15~14:45 特別講義 大谷大学 教授 荒瀬 克己				12:00~12:15 閉講式
15:00~16:30 教育と芸術 清水 良一 清水 知子 伊坪 淑子				
16:45~17:15 実践研究④	16:45~17:15 実践研究⑤	ユニットミーティング 17:00~17:15	ユニットミーティング 17:00~17:15	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修【第419回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。						
受講対象	主として小学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者						
開催期日	平成29年7月18日（火）～平成29年8月4日（金）				15日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	220	人	受講者数	240	参加率	109.1%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	224	12	1	0	1	2	240
割合 (%)	94.1	5.0	0.4	0.0	0.4	0.8	
	236						
	99.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営者の視点で学校の課題を捉えることがなかったので、新たな視点が広がった。学校の課題を多面的に捉える見方・考え方の視点をもつことが、ミドルリーダーとしてとても大切だと感じた。 ・現在、ミドルリーダーとして、またこれから管理職を目指していく中で、学校が抱える課題や必要なことについて、専門的かつ高度な知識や技能を学ぶことができた。 ・学校マネジメントをするにあたって、様々な角度からご講話をいただき、自分の中で地域や学校の実態に合わせて整理したり、組み合わせたりしながら構想を練ることができた。他県の先生たちとの交流が多くとられており、『「井の中の蛙」にならないように外にも目を向けなさい』とアドバイスをいただいた諸先生方の想いを実現する機会が得られた。 ・今の社会状況を鑑みた内容が盛り込まれた研修ばかりで有益であった。新しい指導要領に向けて、改訂された点を中心にどの講義も内容がよく考えられていたので、学校に戻ってから、自分だけでなく他の先生方にも正確に伝達して役立てていきたい。 ・スクール形式、グループ形式、ワークショップ、シュミレーションなど、いろいろな方法で対話したり体験したりすることで学びが深まった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道德教育の充実」を「道德教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

7月17日(月)	7月18日(火)	7月19日(水)	7月20日(木)	7月21日(金)	7月22日(土)
	受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 講義 地方教育行財政制度	9:00~16:30 講義 教育法規Ⅱ	9:00~12:15 講義・演習 カリキュラム・マネジメント	9:00~12:15 講義 ESD 持続可能な開発のための教育
	10:10~10:30 開講式	明星大学 教授 樋口 修資	弁護士 清水 幹裕	甲南女子大学 教授 村川 雅弘	東洋大学食環境科学部 教授 後藤 顕一
	10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
	12:15~13:15 昼食・休憩	13:15~16:30 講義 学校ビジョンと戦略	13:15~16:30 講義 教育法規Ⅰ	13:15~16:30 講義・演習 新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～	13:15~16:30 講義 メンタルヘルス・マネジメント
	13:15~16:30 講義 学校ビジョンと戦略	広島大学大学院 教授 菅余田 浩史	日本女子大学 教授 坂田 仰	弁護士 清水 幹裕	兵庫教育大学大学院 副学長 米田 豊
	16:45~17:15 実践研究①	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
7月24日(月)	7月25日(火)	7月26日(水)	7月27日(木)	7月28日(金)	7月29日(土)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	
9:00~12:15 講義 キャリア教育	9:00~12:15 講義 特別支援教育の充実	9:00~12:15 講義 生徒指導	9:00~12:15 講義 「あの日学校でおきたこと」～改めて学校の備えと災害時の対応について考える～	9:00~17:15 講義・演習 リスク・マネジメント ～危機の未然防止方策～	
新潟大学 教授 松井 賢二	新潟大学 教授 長澤 正樹	国立教育政策研究所 総括研究員 藤平 敦	富谷市立東向陽台小学校 校長 麻生川 敦	SOMPOリスクアマネジメント 株式会社	
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	
13:15~17:15 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル	13:15~16:30 講義・演習 道徳教育のマネジメント	13:15~16:30 講義・演習 コーチング	13:15~16:30 講義 ミドル・リーダーの役割	13:15~16:30 講義 東京教育カウンセラー協会 代表 藤川 章	
	16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 実践研究②	16:45~17:15 実践研究③	講義・演習 リスク・マネジメント ～危機の未然防止方策～ SOMPOリスクアマネジメント 株式会社	
7月31日(月)	8月1日(火)	8月2日(水)	8月3日(木)	8月4日(金)	8月5日(土)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~11:45 講義・演習	
9:00~12:15 講義 グローバル時代の教育	9:00~16:30 講義・演習 マネジメントの実践に向けて	9:45~17:00 演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省	9:45~17:00 演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省	研修の企画・運営・評価	
目白大学 学長 佐藤 郡衛	九州大学大学院 教授 元兼 正浩				
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:30 昼食・休憩・準備	12:15~13:30 昼食・休憩・準備	12:00~12:15 閉講式	
13:15~14:45 特別講義	講義・演習 マネジメントの実践に向けて	演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省	演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省		
九州大学大学院 教授 元兼 正浩					
15:00~16:30 教育と芸術	16:45~17:15 実践研究⑤	17:00~17:15 ユニットミーティング	17:00~17:15 ユニットミーティング		
声楽家、ピアニスト 村上 敏明 土屋 麻美					
16:45~17:15 実践研究④					

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修【第421回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。						
受講対象	主として中学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者						
開催期日	平成29年8月7日（月）～平成29年8月25日（金）				15日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	204	参加率	113.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	183	18	0	0	2	1	203
割合 (%)	90.1	8.9	0.0	0.0	1.0	0.5	
	201	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・中堅教員とよく言われるが、具体的に何をすればいいか、よくわからなかった。この研修のおかげで、役割や方法がよくわかった。 ・学校（当校）からは、20年先の社会情勢と教育の姿を考えるヒントを見つけるように言われましたが、見つかりました。 ・学校経営マネジメント等、研修の前半で学んだことを、後半（最終週）に演習を行うようプログラムされており、3週間の研修で学んだことを生かすことができた。広い視野からマネジメントの演習を行うことができ、大変有意義に感じた。 ・管理職としてでなく、一教員として若いうちに参加させていただけたことが何より有難いことでした。日々の実践を通して、若い教員をはじめとする同僚に対して「背中では語る」ことが務めだろと思うています。 ・普段の勤務ではじっくり自分の学校について見つめ直す時間がとれないので、自校について考える演習がとてもよかった（組織マネジメントやカリキュラムマネジメント・リスクマップ等）。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

8月6日(日)	8月7日(月)	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)	8月11日(金)	
	受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング		
	9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 地方教育行財政制度	9:00~16:30 (休憩:15分×2回を含む) 講義 教育法規Ⅱ	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント		
	10:10~10:30 開講式					
	10:45~12:15 新しい時代の教育	学習院女子大学 教授 大桃 敏行	弁護士 清水 幹裕	奈良教育大学 准教授 赤沢 早人		
	文部科学省					
	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩		
	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 学校ビジョンと戦略	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 教育法規Ⅰ	講義 教育法規Ⅱ	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～		
16:45~17:15 実践研究①	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③			
8月13日(日)	8月14日(月)	8月15日(火)	8月16日(水)	8月17日(木)	8月18日(金)	
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	
9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 キャリア教育	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 ESD 持続可能な開発のための教育	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 特別支援教育の充実	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 生徒指導	9:00~17:15 (休憩時間を含む) 講義・演習 リスク・マネジメント ～危機の未然防止方策～	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 安全管理	
筑波大学 教授 藤田 晃之	文部科学省 教科調査官 濱野 清	FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	大津市教育委員会 教育長 桶谷 守	SOMPOリスクアマネジメント株式会社	慶應義塾大学 准教授 大木 聖子	
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	11:40~12:40 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 道徳教育のマネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ミドル・リーダーの役割	13:30~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 コーチング	講義・演習 リスク・マネジメント ～危機の未然防止方策～	13:15~17:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習 コミュニケーション力	
武庫川女子大学 教授 押谷 由夫	明治大学 教授 諸富 祥彦	岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇	神田外語大学 教授 武田 明典	SOMPOリスクアマネジメント株式会社	音楽座ミュージカル	
16:45~17:15 学校運営演習④	16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 実践研究②	16:45~17:15 実践研究③			
8月20日(日)	8月21日(月)	8月22日(火)	8月23日(水)	8月24日(木)	8月25日(金)	
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ミーティング	8:30~9:30 ミーティング		
	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 グローバル時代の教育	9:00~16:30 (休憩:15分×2回を含む) 講義・演習 マネジメントの実践に向けて	9:45~17:00 (休憩:15分×3回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス	9:45~17:00 (休憩:15分×3回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス		8:30~11:45 (休憩:15分を含む) 講義・演習 研修の企画・運営・評価
	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:00~13:30 昼休憩	12:00~13:30 昼休憩		12:00~12:15 閉講式
	13:15~14:45 特別講義	講義・演習 マネジメントの実践に向けて	演習・協議 スクール・コンプライアンス	演習・協議 スクール・コンプライアンス		
	15:00~16:30 教育と芸術	茨城大学 准教授 加藤 崇英	文部科学省	文部科学省		
	16:45~17:15 実践研究④	16:45~17:15 実践研究⑤	17:00~17:15 ユニットミーティング	17:00~17:15 ユニットミーティング		
	金沢学院大学 教授 多田 孝志	茨城大学 准教授 加藤 崇英	文部科学省	文部科学省		
	佐藤商会 執行役員 黒岩 禪					
	15:00~16:30 教育と芸術	茨城大学 准教授 加藤 崇英	文部科学省	文部科学省		
	16:45~17:15 実践研究④	16:45~17:15 実践研究⑤				
	声楽家 腰越 満美 ピアニスト 丸山 和範					

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修【第426回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者							
開催期日	平成29年11月20日（月）～平成29年12月8日（金）				15日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	144	人	参加率	120.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	10	0	0	0	1	144
割合 (%)	93.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.7	
	143	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つの講義の質が非常に高い。実際に法律作成に関わった方々や、現在、中教審の中身について検討されている方から直接内容や、その背景について聞ける機会はなく、大変勉強になった。 ・管理職として必要な学校経営力・学校運営力を学ぶことができた。また、ミドルリーダーとして管理職と一般教員をつなぐ役割も学ぶことができた。やはり、地域の中核として教育に取り組むためには、あらゆることにマネジメント力を発揮しなければならないと感じた。特に法規については、知識としてもっておく必要性を感じた。 ・教育の諸問題について、他国との比較や過去・現在の流れ、将来を見据えてあるべき方向性を、一流の講師陣から学ぶことができた。また、意識の高い先生方とともに過ごしたことにより、自分自身を振り返り、今後、どのような教員となり、どのような学校運営をしていくのかを考えることができました。 ・5つの領域20の講義をバランスよく配置され、徐々に演習の内容を上げたり、補完するような形で講義内容に重なりがあるなど、工夫が見られた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

11月20日(月)	11月21日(火)	11月22日(水)	11月23日(木)	11月24日(金)	11月25日(土)	
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	/	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	
受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 地方教育行財政制度	9:00~16:30 (休憩:15分×2回を含む) 講義 教育法規Ⅱ		9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 ESD 持続可能な開発のための教育	
9:00~10:10 オリエンテーション						
10:10~10:30 開講式						
休憩						
10:45~12:15 新しい時代の教育	国立青少年教育振興機構 前理事長 田中 壮一郎	弁護士 清水 幹裕		明星大学 教授 吉富 芳正	国立教育政策研究所 総括研究官 松原 憲治	
文部科学省						
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩		12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 学校ビジョンと戦略	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 教育法規Ⅰ	講義 教育法規Ⅱ		13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 新しい学びの推進~主体的・対話的で深い学び~	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 道徳教育のマネジメント	
九州大学大学院 教授 元兼 正浩	明星大学 教授 樋口 修資	弁護士 清水 幹裕		信州大学大学院 教授 伏木 久始	文部科学省 調査官 澤田 浩一 金沢工業大学 教授 白木 みどり	
16:45~17:15 実践研究①	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④		
11月27日(月)	11月28日(火)	11月29日(水)	11月30日(木)	12月1日(金)	12月2日(土)	
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	/	
9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 キャリア教育	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 特別支援教育の充実	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 生徒指導	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 安全管理	9:00~17:15 (休憩時間を含む) 講義・演習 リスク・マネジメント ~危機の未然防止方策~		
一般社団法人CEEジャパン 代表理事専務 中許 善弘	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 棟方 哲弥	愛媛大学 教授 平松 義樹	文部科学省 安全教育調査官 吉門 直子	SOMPOリスクアマネジ メント株式会社		
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	11:40~12:40		
13:15~17:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習 コミュニケーションカ	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 コーチング	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ミドル・リーダーの役割	講義・演習 リスク・マネジメント ~危機の未然防止方策~		
音楽座ミュージカル	明治大学 教授 諸富 祥彦	ユマニテック短期大学 副学長 鈴木 建生	東京教育カウンセラー協会 代表 藤川 章	SOMPOリスクアマネジ メント株式会社		
	16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 実践研究②	16:45~17:15 実践研究③			
12月4日(月)	12月5日(火)	12月6日(水)	12月7日(木)	12月8日(金)		12月9日(土)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~11:45 (休憩:15分を含む) 講義・演習		/
9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 グローバル時代の教育 の推進	9:00~16:30 (休憩:15分×2回を含む) 講義・演習 マネジメントの実践に向 けて	ミーティング 9:45~17:00 (休憩:15分×3回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス	ミーティング 9:45~17:00 (休憩:15分×3回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス	研修の企画・運営・評価 教職員支援機構		
金沢学院大学 教授 多田 孝志	茨城大学 准教授 加藤 崇英	文部科学省	文部科学省			
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:00~13:30 昼食・休憩	12:00~13:30 昼食・休憩	12:00~12:15 閉講式		
13:15~14:45 特別講義	講義・演習 マネジメントの実践に向けて	演習・協議 スクール・コンプライアンス	演習・協議 スクール・コンプライアンス			
島根県教育庁 岩本 悠 海士町役場 濱中 香理	茨城大学 准教授 加藤 崇英	文部科学省	文部科学省			
15:00~16:30 教育と芸術 市川 和彦 岩河 智子 竹澤 嘉明						
16:45~17:15 実践研究④	16:45~17:15 実践研究⑤	17:00~17:15 ユニットミーティング	17:00~17:15 ユニットミーティング			

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修【第427回】						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる中堅教員を育成する。						
受講対象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者						
開催期日	平成30年1月9日（火）～平成30年1月26日（金）				15日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	78	参加率	97.5%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	76	2	0	0	0	0	78
割合 (%)	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	78	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの教育について多くのことを学ぶことができたとともに、勤務校の課題や自分の役割を見つめ直すことができた。 ・ 3週間宿泊しながらの研修で、学校経営力という多くの内容の講義を受講できて、本当に良かった。今までにはなかった学校全体を俯瞰的な視点で見えていく機会となった。また、全国の先生方と交流することができ、新しいネットワークを作ることができた。 ・ とにかく突っ走って生きてきたが、3週間自分を客観的に見つめ直し、何ができるか考える機会となったこと ・ 法令等の学習から、新しい指導要領の変更の要点まで、近年、新しくなった内容がとて多く含まれていて、日頃疑問に思っていた点が明らかになって、とてもありがたかった。 ・ ミドルリーダーとして、管理職としての知識を向上させることができました。それらに必要な人間力も養うことができました。 ・ 実践的な学びと演習が多く、大変勉強になりました。特に、現場で即役に立つ実例が多くあり、常に学校現場を意識した講義を受講することができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とした。 ・ 「道德教育の充実」を「道德教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営の中核人材として期待される教職経験概ね10年～20年の中堅教員が、中央研修への参加がより容易になる方策として、「中堅教員研修」の研修期間を15日間から10日間に短縮するとともに、研修の実施回数を5回から6回に拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第5回中堅教員研修

1月8日(月)	1月9日(火)	1月10日(水)	1月11日(木)	1月12日(金)	1月13日(土)
	受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 地方教育行財政制度	9:00~16:30 (休憩:15分×2回を含む) 講義 教育法規Ⅱ	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 ESD 持続可能な開発のための教育 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 濱野 清
	10:10~10:30 閉講式 休憩	10:45~12:15 新しい時代の教育	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
	12:15~13:15 昼食・休憩	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 学校ビジョンと戦略 岐阜大学 教授 篠原 清昭	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 教育法規Ⅰ 国立青少年教育振興機構 前理事長 田中 壮一郎	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 教育法規Ⅱ 講義 新しい学びの推進~主体的・対話的で深い学び~ 弁護士 清水 幹裕	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 道徳教育のマネジメント 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威
	16:45~17:15 実践研究①	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
		12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
1月15日(月)	1月16日(火)	1月17日(水)	1月18日(木)	1月19日(金)	1月20日(土)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	
9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 キャリア教育 筑波大学 教授 藤田 晃之	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 特別支援教育の充実 新潟大学 教授 長澤 正樹	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 生徒指導 文教大学 教授 柳生 和男	9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 安全管理 文部科学省初等中等教育局 安全教育調査官 吉門 直子	9:00~17:15 (休憩時間を含む) 講義・演習 リスク・マネジメント ~危機の未然防止方策~ SOMPOリスクアマネジメント株式会社	
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	11:40~12:40 昼食・休憩	
13:15~17:15 (休憩:15分を含む) 講義・演習 コミュニケーション力 音楽座ミュージカル	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 コーチング ユマニテク短期大学 副学長 鈴木 建生	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 ミドル・リーダーの役割 ~10年後の学校づくり のリーダーとして~ 大阪市立大空小学校 元校長 木村 泰子	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 リスク・マネジメント ~危機の未然防止方策~ SOMPOリスクアマネジメント株式会社	
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 実践研究②	16:45~17:15 実践研究③		
1月22日(月)	1月23日(火)	1月24日(水)	1月25日(木)	1月26日(金)	1月27日(土)
8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~9:30 ミーティング	8:30~9:30 ミーティング	8:30~11:45 (休憩:15分を含む) 講義・演習 研修の企画・運営・評価 独立行政法人 教職員支援機構	
9:00~12:15 (休憩:15分を含む) 講義 グローバル時代の教育の推進 金沢学院大学 教授 多田 孝志	9:00~16:30 (休憩:15分×2回を含む) 講義・演習 マネジメントの実践に向けて 東京学芸大学 講師 末松 裕基	9:45~17:00 (休憩:15分×3回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省	9:45~17:00 (休憩:15分×3回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省	12:00~12:15 閉講式	
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:00~13:30 昼食・休憩・準備	12:00~13:30 昼食・休憩・準備		
13:15~14:45 特別講義 佐藤商会 執行役員 黒岩 禎	13:15~14:45 特別講義 講義・演習 マネジメントの実践に向けて 東京学芸大学 講師 末松 裕基	13:15~14:45 特別講義 演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省	13:15~14:45 特別講義 演習・協議 スクール・コンプライアンス 文部科学省		
15:00~16:30 教育と芸術 家田 紀子 金井 紀子	15:00~16:30 教育と芸術 東京学芸大学 講師 末松 裕基	15:00~16:30 教育と芸術 文部科学省	15:00~16:30 教育と芸術 文部科学省		
16:45~17:15 実践研究④	16:45~17:15 実践研究⑤	17:00~17:15 ユニットミーティング	17:00~17:15 ユニットミーティング		

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回事務職員研修【第418回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の事務職員 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成29年6月12日（月）～平成29年6月16日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	171	人	参加率	106.9%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	134	24	1	0	5	7	171
割合 (%)	81.7	14.6	0.6	0.0	2.9	4.1	
	158	96.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方向から学校について考えるいい機会となりました。いくつもの講座がありましたが、すべてが「チーム学校」につながっていました。 ・日頃、頭の中ではマネジメントに関する取組を考えても、日常業務に忙殺されて実行できていない現実を反省する機会を得られて、有難いと思いました。事務職員らしさを追い求めるための前向きな考え方をできるよう、道筋をつけていただきました。 ・校長と同じ講義が受講できたのはとても良かった。事務職員側の意識改革にも良いと思う。 ・いずれの講義でも資料に入っていた、教育改革とチーム学校を1枚で現したポンチ絵について、これまでは全く頭に入らなかったが、この5日間で少しは自分のものにできたのでは、と思う。研修に参加しないと見えてこないものが多々あった。 ・最後にユニットミーティングがあることで、その日の講義を整理でき、よかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営参画職としての位置づけを明確にするとともに、マネジメント力の育成をめざす研修内容を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第1回事務職員研修

6月12日(月)	6月13日(火)	6月14日(水)	6月15日(木)	6月16日(金)
	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
受付	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~10:30 講義・演習 スクールコンプライアンスとリスクマネジメント 福岡教育大学 准教授 河内 祥子	9:00~10:30 講義・演習 地域とともにある学校を推進する学校運営事務 東京家政大学 特任教授 貝ノ瀬 滋	9:00~10:30 講義・演習 求められる事務職員像 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	9:00~10:30 ケース・スタディ 学校運営事務の統括者としての学校運営への参画 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
10:10~10:30 開講式				
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
10:45~12:15 新しい時代の教育	10:45~12:15 講義・演習 スクールコンプライアンスとリスクマネジメント 福岡教育大学 准教授 河内 祥子	10:45~12:15 講義・演習 地域とともにある学校を推進する学校運営事務 東京家政大学 特任教授 貝ノ瀬 滋	10:45~12:15 講義・演習 求められる事務職員像 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	10:45~12:15 ケース・スタディ 学校運営事務の統括者としての学校運営への参画 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~14:45 講義 学校ビジョンと戦略(1) 国土館大学 教授 北神 正行	13:15~14:45 講義・演習 財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント 日本大学 教授 末富 芳	13:15~14:45 講義・演習 教育委員会と連携した業務改善 茨城大学 准教授 加藤 崇英	13:15~14:45 実践報告・演習 学校事務職員の実践のフロンティア 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	13:15~14:45 特別講義 奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
15:00~16:30 講義 学校ビジョンと戦略(2) 国土館大学 教授 北神 正行	15:00~16:30 講義・演習 財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント 日本大学 教授 末富 芳	15:00~16:30 講義・演習 教育委員会と連携した業務改善 茨城大学 准教授 加藤 崇英	15:00~16:30 実践報告・演習 学校事務職員の実践のフロンティア 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	15:00~15:15 閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回事務職員研修【第424回】							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、副校長・教頭、中堅教員及び事務職員等を育成する。							
受講対象	高等学校・特別支援学校の事務職員 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成29年10月16日（月）～平成29年10月20日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	112	人	参加率	93.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,800 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	85	26	1	0	0	0	112
割合 (%)	75.9	23.2	0.9	0.0	0.0	0.0	
	111	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・（校長との合同講義は）学校経営計画への係り方、メンタルヘルスマネジメントなど、管理者および補助者が知っておくべき事項について情報共有できたことがよかった。 ・自分の中でわかった気になってやっていた業務もあったが、この研修において、自分の仕事ぶりについて振り返りができ、改善すべき点は改善していこうと思えたこと、事務長としての業務を再確認できた。 ・国の政策について、深く知ることができた。全ての事務職員がどのような位置づけで何を期待されているのか理解して、仕事に取り組みなければいけないと思った。 ・ワークショップなどの参加型が多く取り入れられており、自分にはない発想や考え方を知ることができた。 ・（校長との合同講義は）学校経営計画への係り方、メンタルヘルスマネジメントなど、管理者および補助者が知っておくべき事項について情報共有できたことがよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営参画職としての位置づけを明確にするとともに、マネジメント力の育成をめざす研修内容を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 教職員等中央研修 第2回事務職員研修 日程表

10月16日(月)	10月17日(火)	10月18日(水)	10月19日(木)	10月20日(金)
8:30~8:50 受付	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング	8:30~8:45 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~10:10 オリエンテーション	9:00~10:30 講義・演習 スクールコンプライアンスとリスクマネジメント	9:00~10:30 講義・演習 地域とともにある学校を推進する学校運営事務	9:00~10:30 講義・演習 教職員のメンタルヘルス・マネジメント	9:00~10:30 ケース・スタディ 学校運営事務の統括者としての学校運営への参画
10:10~10:30 開講式	日本女子大学 教授 坂田 仰	大谷大学 教授 荒瀬 克己	早稲田大学 教授 河村 茂雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
校長研修と合同開催			校長研修と合同開催	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
10:45~12:15 新しい時代の教育 文部科学省	10:45~12:15 講義・演習 スクールコンプライアンスとリスクマネジメント	10:45~12:15 講義・演習 地域とともにある学校を推進する学校運営事務	10:45~12:15 講義・演習 教職員のメンタルヘルス・マネジメント	10:45~12:15 ケース・スタディ 学校運営事務の統括者としての学校運営への参画
	日本女子大学 教授 坂田 仰	大谷大学 教授 荒瀬 克己	早稲田大学 教授 河村 茂雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
校長研修と合同開催			校長研修と合同開催	
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~14:45 講義 学校ビジョンと戦略	13:15~14:45 講義・演習 財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント	13:15~14:45 講義・演習 教育委員会と連携した業務改善	13:15~14:45 講義・演習 求められる事務職員像	13:15~14:45 特別講義
国土館大学 教授 北神 正行	日本大学 教授 末富 芳	学校マネジメント コンサルタント 妹尾 昌俊	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
校長研修と合同開催				校長研修と合同開催
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
15:00~16:30 講義 学校ビジョンと戦略	15:00~16:30 講義・演習 財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント	15:00~16:30 講義・演習 教育委員会と連携した業務改善	15:00~16:30 実践報告・演習 学校事務職員の実践のフロンティア	15:00~15:15 閉講式
国土館大学 教授 北神 正行	日本大学 教授 末富 芳	学校マネジメント コンサルタント 妹尾 昌俊	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	校長研修と合同開催
校長研修と合同開催				
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修を担当する指導主事、及びそれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>							
開催期日	平成29年9月4日（月）～平成29年9月8日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	220	人	参加率	183.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 326 人、参加率 135.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	212	7	0	0	1	0	220
割合 (%)	96.4	3.2	0.0	0.0	0.5	0.0	
	219	99.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「現状の把握」から「指導者」としてまで、スモールステップの中で目的を持って学ぶことができた。研修前にぼんやりとしていた課題が明確になるとともに、学校組織マネジメントの重要性を広げていきたいという意欲が湧いてきた。 ・40代でこの研修を受けることができ、本当に良かった。これからミドルリーダーとして学校を動かすことも増えると思う。その時に必要なことばかりだった。とても有意義な研修だった。 ・学校長が年度初めに示される学校経営目標にそって自学級の学級経営を行ってきたが、本研修を受講することで、学校ビジョンと戦略をもって学校運営を行うことの重要性を確認することができた。マネジメントの考えを常に意識することが、これからの学校運営では要求される資質ということが認識できた。 ・経験上、なんとなくやっていたことが理論的に整理でき、やるべき意味・理由等がしっかりとつかめた。 ・知りたいこと、知っておかなければならないことなど、次の学習指導要領の完全実施に向けて気になるところが盛り込まれていたのが良かった。これがニーズを踏まえた研修なのだと思う。計画書を作成してみて、本研修はいろいろなことが考えられ、含まれているものだと初めて知った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修企画書の作成等、個人での演習ができる時間も設定した。 ・希望校種別グループ編成に努め、情報交換が有効にできるようにした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修期間を5日間から4日間に短縮するとともに、8月27日（月）～8月31日（金）の間、月曜日開始のA日程と、火曜日開始のB日程に受講者を振り分け、演習における受講者人数の適正化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度学校組織マネジメント指導者養成研修日程表

第1回 平成29年9月4日(月)～9月8日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:15
月	受付 (30分) 9:00-9:30	オリエンテーション (40分) 9:30-10:10	休憩 15分 10:25-10:45	開講式 (20分) 10:45-11:05	政策に見る新しい学校経営の動向 文部科学省 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	経営理念の構築とリーダーシップ ～人と組織を活かした学校経営～ 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑英紀 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	学校組織マネジメント上の課題 協議 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第1日 9/4					
火	休憩 10分 8:30-8:50	実践発表・協議 学校ビジョンと戦略(1) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	実践発表・協議 ア 学校組織の活性化 実践発表 (30分) 協議(45分) 講評 (15分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	実践発表・協議 イ 学校と地域の連携・協働 実践発表 (30分) 協議(45分) 講評 (15分) 13:15-14:45	休憩 15分	学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第2日 9/5					
水	休憩 10分 8:30-8:50	実践発表・協議 学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	実践発表・協議 学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	実践発表・協議 ウ 学校と地域の連携・協働 実践発表 (30分) 協議(45分) 講評 (15分) 13:15-14:45	休憩 15分	学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第3日 9/6					
木	休憩 10分 8:30-8:50	実践発表・協議 特色ある学校づくりのためのカ リキュラム・マネジメント(1) 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	実践発表・協議 特色ある学校づくりのためのカ リキュラム・マネジメント(2) 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	実践発表・協議 エ 学校と地域の連携・協働 実践発表 (30分) 協議(45分) 講評 (15分) 13:15-14:45	休憩 15分	学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	やる気を引き出すヒューマンリ ソース・マネジメント(2) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第4日 9/7					
金	休憩 10分 8:30-8:50	実践発表・協議 学校組織マネジメントの推進 教職員支援機構 研修プロ フェッショナル (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	実践発表・協議 学校組織マネジメントに関する 研修の企画・運営・評価(1) 実践発表「研修成果の活用」 協議(30分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	実践発表・協議 学校組織マネジメントに関する 研修の企画・運営・評価(2) 教職員支援機構 研修プロ フェッショナル (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	学校組織マネジメントの実践に 向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	やる気を引き出すヒューマンリ ソース・マネジメント(1) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第5日 9/8					

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。</p> <p>本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>						
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修を担当する指導主事、及びそれに準ずる者</p> <p>幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>						
開催期日	平成29年10月23日（月）～平成29年10月27日（金）				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	106	参加率	88.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 326 人、参加率 135.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	100	4	0	0	1	1	106
割合 (%)	95.2	3.8	0.0	0.0	0.9	0.9	
	104	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・教諭の立場として参加したが、管理職のみならずミドルリーダー、それ以外の教職員を含めた「チーム」の様々な立場のことに触れられており、今からできそうなこと、これから必要なことを多く学べた。 ・新学習指導要領の主旨を踏まえた内容が盛り込まれており、来年度の教育課程編成に向けて、とても参考になった。 ・年齢構成のアンバランスからミドルリーダー・管理職候補者の育成が急務であり、本研修を活かして、人材育成・組織の活性化に取り組んでいきたい。 ・講義と演習のバランスがよかった。 ・アクティブ・ラーニング形式で大変適切であった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修企画書の作成等、個人での演習ができる時間も設定した。 ・希望校種別グループ編成に努め、情報交換が有効にできるようにした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修期間を5日間から4日間に短縮するとともに、8月27日（月）～8月31日（金）の間、月曜日開始のA日程と、火曜日開始のB日程に受講者を振り分け、演習における受講者人数の適正化を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度学校組織マネジメント指導者養成研修日程表

第2回 平成29年10月23日(月)～10月27日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:15																																								
第1日 10/23	月	受付 (30分) 9:00-9:30	オリエンテーション (40分) 9:30-10:10	休憩 15分 10:10-10:25	開講式 (20分) 10:25-10:45	講義 政策に見る新しい学校経営の動向 文部科学省初等中等教育局 参事官 木村 直人 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	講義 経営理念の構築とリーダーシップ ～人と組織を活かした学校経営～ 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑英紀 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	講義 学校組織マネジメント上の課題 の分析 教職員支援機構 研修特別研究員 神林 寿幸 (120分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第2日 10/24	火	ミーティング (20分) 8:30-8:50	講義 学校ビジョンと戦略(1) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	実践発表・協働 イ 学校と地域の連携・協働 実践発表(30分) 佐世保市立永田台小学校 校長 住田 昌治 協議(45分) 講評(15分) 国士館大学 教授 北神正行 13:15-14:45	休憩 15分	講義 学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第3日 10/25	水	ミーティング (20分) 8:30-8:50	講義・演習 学校組織マネジメントの実践に 向けて ～学校の戦略マップを作る(1)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	講義・演習 学校組織マネジメントの実践に 向けて ～学校の戦略マップを作る(2)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	講義・演習 学校組織マネジメントの実践に 向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	講義・演習 学校組織マネジメントの実践に 向けて ～学校の戦略マップを作る(4)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第4日 10/26	木	ミーティング (20分) 8:30-8:50	講義・演習 特色ある学校づくりのためのカ リキュラム・マネジメント(1) 岐阜大学教職大学院 准教授 田村 知子 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	講義・演習 特色ある学校づくりのためのカ リキュラム・マネジメント(2) 岐阜大学教職大学院 准教授 田村 知子 (90分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリ ソース・マネジメント(1) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリ ソース・マネジメント(2) 早稲田大学 教授 河村茂雄 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	ミーティング 30分	第5日 10/27	金	ミーティング (20分) 8:30-8:50	講義・演習 学校組織マネジメントの推進 教職員支援機構 研修プログラムデューサー 小真 香織 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	講義・実践発表 学校組織マネジメントに関する研 究の企画・運営・評価(1) 講義(30分) 教職員支援機構 チーフ研修プロ デューサー 堀内 瑞 実践発表「研修成果の活用」 岡山県総合教育センター 指導主事 鳥越 昭正(30分) 協議(30分) 10:45-12:15	屋食・休憩 (60分)	講義・協働 学校組織マネジメントに関する 研修の企画・運営・評価(2) 教職員支援機構 チーフ研修プログラムデューサー 堀内 瑞 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	閉講式 20分 15:00-15:20	休憩 15分

I 研修概要

研修名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	学校において、校長のリーダーシップの下、組織的、計画的に「カリキュラム・マネジメント」を展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、「カリキュラム・マネジメント」を円滑に行うために必要となる知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生						
開催期日	平成29年12月11日（月）～平成29年12月15日（金）				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	256	参加率	182.9%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	238	18	0	0	0	0	256
割合 (%)	93.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	256						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義と演習が様々な形で盛り込まれていて、今回は研修を受ける側だけでなく、研修する側としても学びが大変大きかったです。 ・ 全職員にカリキュラム・マネジメント力をつけていかなければならないとき、そこに向かう必要性や情熱をもっていたため「カリキュラム・マネジメント力の意義」「何が外せないのか」「どこから始めるか」といった視点を自分自身が学び、整理することができたためです。事例や演習があったことで、理論と実践の両輪を学ぶことができたことも貴重な財産となりました。 ・ 不十分だったカリキュラム・マネジメントに対する考えを深めることができました。「カリキュラム・マネジメントとは」から始まり、「実際の運用にあたって」「実践に向けた計画」と、研修の流れにもストーリーがあり、毎日ワクワクしながら学ぶことができました。 ・ 共通認識→課題提示→実践報告（課題解決へのヒント）→実演→振り返り（整理）と、プログラムの流れがまさにPDCAサイクルになっており、体感を持って修得できた。これを持ち帰って教育委員会や各校に、子供の資質・能力を伸ばすため、また、学校経営を円滑にする為にもカリキュラム・マネジメントの重要性を伝えていきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに「学校ビジョンと戦略」、「校長のリーダーシップと学校組織」の講義を加えた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ別の部会で行っていた演習について、校種別に変更し、「小学校・中学校・高等学校・特別支援学校」の4部会とすることを検討。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程表

12月11日(月)

10:00	10:30	11:10	12:00	13:00	17:00
第1日	オリエンテーション	講義1 新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント—学習指導要領総則の記述を中心に— 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室 専門官 石田 有記	屋食・休憩	講義・演習 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開—新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠 茂	休憩
	受付	◎目的:「カリキュラム・マネジメント」の意義と必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する		◎目的:「カリキュラム・マネジメント」におけるその役割と方法について具体的な理解を深める。また、各地域の取組を知るとともに、課題を共有する	

12月12日(火)

8:30	10:00	10:15	11:45	12:45	14:15	14:30	15:45	17:00
第2日	事例発表・協議・指導助言 小学校の部 事例発表: 新宿区立西新宿小学校 校長 清水 仁 指導助言: 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 岐阜大学 准教授 田村 知子	休憩	講義2 「カリキュラム・マネジメント」による評価と改善 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 岐阜大学 准教授 田村 知子 筑波大学 准教授 根津 朋実	屋食・休憩	屋食・休憩	休憩	移動	全体発表 (引き続き演習1)
	◎目的: 先行事例をおいて、学校の資源・特色を生かしたカリキュラムの編成とそその適切な組織マネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、課題をもつ		◎目的:「カリキュラム・マネジメント」の実践と課題 尾道市立向島中学校 校長 濱本 かよみ	指導助言: 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	◎目的:「カリキュラム・マネジメント」の意義と必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する			◎目的: 各校の取組を踏まえ、進め方について学ぶ。

12月13日(水)

8:30	10:30	10:45	11:30	12:30	14:25	14:40	15:45	17:00
第3日	講義3 「カリキュラム・マネジメント」を促進するための研修の在り方 甲南女子大学 教授 村川 雅弘	休憩	演習1 協議 「カリキュラム・マネジメント」の実際 A【言語活動】奈良教育大学 准教授 赤沢 早人 B【環境に関する教育】金沢学院大学 教授 多田 孝志、 C【主権者に関する教育】(独)教職員支援機構 上席フェロー—大形 昭英 D【食に関する教育】甲南女子大学 教授 村川 雅弘	屋食・休憩	発表準備 (引き続き演習1)	休憩	移動	全体発表 (引き続き演習1)
	◎目的: 各学校において組織的に「カリキュラム・マネジメント」を実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る		◎目的: 各都県における事例検討をおいて、教育課題ごとの「カリキュラム・マネジメント」の意義を理解し、学校全体で組織的に取り組む方策を学ぶ。					

12月14日(木)

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:30	15:45	17:00
第4日	講義4 学校ビジョンと戦略 滋賀大学 教授 大野 裕己	休憩	講義5 校長のリーダーシップと学校組織 愛媛大学 教授 露口 健司	屋食・休憩	演習2—1 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修プランの作成 (独)教職員支援機構 チーフ・研修プロデューサー 堀田 竜次 (独)教職員支援機構 研修特別研究員 岡村 美由規 (独)教職員支援機構 研修特別研究員 神林 寿幸	休憩	
	◎学校の資源、特色を生かした学校ビジョンと戦略について理解を深める		◎校長のリーダーシップと学校組織について具体的な事例をもとに理解を深める		◎目的: 組織的に「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修の在り方について、具体的なプラン作成をおいて理解を深める		

12月15日(金)

9:00	10:15	10:30	12:00	12:10	17:00
第5日	演習2—2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修プランの作成—全体発表— (独)教職員支援機構 チーフ・研修プロデューサー 堀田 竜次	休憩	講義6 「カリキュラム・マネジメント」と組織化 千葉大学 特任教授 天笠 茂	閉講式	
	◎組織的に「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修の在り方について、発表をおいて理解を深める		◎本研修を振り返るとともに、「カリキュラム・マネジメント」の組織的な取組について理解を深める		

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室						
研 修 目 的	<p>生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、各学校においては、生徒指導の実践に際し教職員間の共通理解を図り、組織的・体系的生徒指導の取組をしている。</p> <p>しかし、社会の変化が著しい現代において、いじめ、暴力行為、自殺、不登校などは依然として相当数に上っており、学校教育推進上の大きな課題となっている。そのため学校や教育委員会等による、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期解決の推進が一層求められている。</p> <p>本研修では、「喫緊の課題を解決するための理論習得及び実践的力量的向上」、「生徒指導におけるマネジメント力の向上」を図り、生徒指導を核とした学校運営を推進する指導者の養成を図る。</p>						
受 講 対 象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で生徒指導を担当する指導主事及びこれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭、教諭であつて、各地域において本研修を踏まえた研修の企画・運営または講師等としての活動を行う（予定を含む）者</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>						
開 催 期 日	平成29年6月26日（月）～平成29年7月7日（金）				10日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	120	参加率	120.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	112	8	0	0	0	0	120
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	120	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地から集まった受講生と生徒指導を通してたくさんの意見交換ができたことで、自身の視野が広がりました。 ・”生徒指導”について、様々な視点から見つめ直すことができました。また、これまでの実践や自身の考えの方向性の確認をすることができました。 ・自分の知らない情報を知ることができたこと、グループ討議を行い、自分では思いつかない視点から意見を聞いたことが、とても2週間有意義だと感じました。 ・他府県の方、特に行政サイドの意見に触れることができ、貴重な経験となった。学校現場からの見方と行政側の見方があり、参考になる見方を教えて頂いた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者や有識者からのニーズの高い、特別支援教育と生徒指導の関連について学ぶコマを設定した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10日間連続開催を、7月に5日間、12月に3日間のインターバル開催とし、理論的講座の受講後に地域に戻り実践し、12月に事例研究や演習・協議等を行うことにより、研修成果の活用促進と研修の質の向上を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度生徒指導者養成研修日程表

平成29年6月26日(月)～7月7日(金)

<日程と講座内容>

期日(曜)	8:30	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
1	6月26日(月)	受付 (8:30～8:50)	オリエンテーション① (9:00～10:10)	開講式 (10:10～10:30)	休憩	生徒指導上の重要課題と対策 文部科学省	重要課題を踏まえた生徒指導の進め方(1) 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	重要課題を踏まえた生徒指導の進め方(2) 関西外国語大学 教授 新井 肇	ユニークミーティング①	
2	6月27日(火)	オリエンテーション②	自殺予防に向けた取組(1) 筑波大学 医学医療系 教授 高橋 祥友	自殺予防に向けた取組(2) 筑波大学 医学医療系 教授 高橋 祥友	休憩	自殺予防に関する非行の予防と対応(1) 京都大学 教授 平松 義樹	不登校の予防と対応(1) 鹿児島大学 教授 大坪 治彦	休憩	不登校の予防と対応(2) 鹿児島大学 教授 大坪 治彦	ユニークミーティング (課題討議①)	
3	6月28日(水)	ユニークミーティング (事例協議①)	生徒指導と教育法規(1) 日本女子大学 教授 坂田 仰	生徒指導と教育法規(2) 日本女子大学 教授 坂田 仰	休憩	特別支援教育と生徒指導(1) 国立特別支援教育総合研究所 総括研究官 藤平 敦	いじめの未然防止と対応(1) 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦	休憩	いじめの未然防止と対応(2) 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦	ユニークミーティング (課題討議②)	
4	6月29日(木)	ユニークミーティング (事例協議②)	ユニークミーティング (課題討議③)	ユニークミーティング (課題討議④)	休憩	特別支援教育と生徒指導(2) 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター総括研究員 横山 真一	特別支援教育と生徒指導(2) 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター総括研究員 横山 真一	休憩	特別支援教育と生徒指導(2) 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター総括研究員 横山 真一	ユニークミーティング (課題討議⑤)	
5	6月30日(金)	学校・家庭・外部機関との連携(1)	学校・家庭・外部機関との連携(1) (8:30～10:00) 神戸外国語大学 教授 嶋崎 政男	学校・家庭・外部機関との連携(2) (10:15～11:45) 神戸外国語大学 教授 嶋崎 政男	休憩	情報モラル教育の充実(1) (12:45～14:15) 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	情報モラル教育の充実(2) (14:30～16:00) 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	特別講義 (16:15～17:15) 株式会社佐藤商会 執行役員 黒岩 禎			
6	7月1日(土)										
7	7月2日(日)										
8	7月3日(月)	オリエンテーション③	児童虐待防止に向けた取組(1) 大正大学 教授 玉井 邦夫	児童虐待防止に向けた取組(2) 大正大学 教授 玉井 邦夫	休憩	性・薬物に関する非行の予防と対応(1) 京都大学 准教授 木原 雅子	性・薬物に関する非行の予防と対応(2) 京都大学 准教授 木原 雅子	休憩	特別活動における生徒指導(2) 愛媛大学大学院 教授 平松 義樹	ユニークミーティング (課題討議⑥)	
9	7月4日(火)	ユニークミーティング (事例協議③)	1ユニーク(小中学校) 2ユニーク(小中学校) 3ユニーク(小中学校) 4ユニーク(小中学校) 5ユニーク(高等学校) 6ユニーク(高等学校)	1ユニーク(小中学校) 2ユニーク(小中学校) 3ユニーク(小中学校) 4ユニーク(小中学校) 5ユニーク(高等学校) 6ユニーク(高等学校)	休憩	兵庫教育大学 特任教授 池島 徳大 愛媛大学大学院 教授 平松 義樹 東京教育カレッジ 代表 藤川 章 大津市教育委員会 教育長 補 谷 守 文教大学 教授 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇	兵庫教育大学 特任教授 池島 徳大 愛媛大学大学院 教授 平松 義樹 東京教育カレッジ 代表 藤川 章 大津市教育委員会 教育長 補 谷 守 文教大学 教授 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇	特別活動事例研究(2)	ユニークミーティング (課題討議⑦)		
10	7月5日(水)	ユニークミーティング (事例協議④)	1ユニーク(小中学校) 2ユニーク(小中学校) 3ユニーク(小中学校) 4ユニーク(小中学校) 5ユニーク(高等学校) 6ユニーク(高等学校)	1ユニーク(小中学校) 2ユニーク(小中学校) 3ユニーク(小中学校) 4ユニーク(小中学校) 5ユニーク(高等学校) 6ユニーク(高等学校)	休憩	兵庫教育大学 特任教授 池島 徳大 愛媛大学大学院 教授 平松 義樹 東京教育カレッジ 代表 藤川 章 大津市教育委員会 教育長 補 谷 守 文教大学 教授 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇	兵庫教育大学 特任教授 池島 徳大 愛媛大学大学院 教授 平松 義樹 東京教育カレッジ 代表 藤川 章 大津市教育委員会 教育長 補 谷 守 文教大学 教授 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇	特別活動事例研究(3)	ユニークミーティング (課題討議⑧)		
11	7月6日(木)	ユニークミーティング (課題討議⑩)	研修成果の発表・指導講評(1) 関西外国語大学 教授 新井 肇	研修成果の発表・指導講評(2) 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	研修成果の発表・指導講評(3) 関西外国語大学 教授 新井 肇	研修成果の発表・指導講評(3) 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	指導講評 関西外国語大学 教授 新井 肇	研修企画書作成	
12	7月7日(金)	ユニークミーティング②	生徒指導に関するマネジメントの推進(1) 文教大学 教授 松田 業行	生徒指導に関するマネジメントの推進(2) 文教大学 教授 松田 業行	休憩	生徒指導に関する研修の企画・運営・評価 (13:15～14:45) 教職員支援機構 研修プロフェッサー	生徒指導に関する研修の企画・運営・評価 (13:15～14:45) 教職員支援機構 研修プロフェッサー	閉講式 (15:00～15:20)			

I 研修概要

研修名	教育相談指導者養成研修							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。さらに、虐待や貧困など新しい形の問題が顕在化し、生徒指導上の問題は一層多様化、深刻化している。</p> <p>これらの問題に適切に対応するためには、教員個人が問題を抱え込むことなく、「チームとしての学校」の観点から学校全体で組織的に取り組むことや、外部機関や家庭、地域との連携・協働を促進して、効果的に教育相談を推進することが求められている。</p> <p>本研修では、「チーム学校」として組織的な教育相談体制を構築し、効果的に教育相談を実践する力を高め、教育相談の組織的な取組をマネジメントする力を身に付けて、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で教育相談を担当する指導主事及びこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭、教諭等であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営または講師等としての活動を行う（予定を含む）者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生 							
開催期日	平成29年8月22日（火）～平成29年8月25日（金）			4日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	90	人	参加率	150.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	78	10	0	0	2	0	90
割合 (%)	86.7	11.1	0.0	0.0	2.2	0.0	
	88	97.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 教育相談に係る国の施策から、チーム学校としての教育相談体制の先行事例、いじめ・不登校に対する考え方や具体的な対応のスキル、教育相談に係る者として、子どもへの働きかけや関わり方等、教育相談全般に係る内容を協議・演習を通して学ぶことができ、大変有意義な研修でした。 新しく知る内容が多く、勉強になりました。「チーム学校」の考え方がよく分かりました。また、すぐに教室で使えるような関係づくりのための手立てを学び、生かしていきたいと思います。子どもたちに会うのが楽しみになりました。 実践的な演習に取り組むことができ、実践力の向上につながると感じました。 恵まれた環境で4日間にわたり、教育相談のことだけに集中して研修できることは、都・区主催の上級の教育相談研修が縮小されてきている中で、貴重な機会でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修で身につけた知識を実践する力を高めるために、マネジメントに関する時間を増やした。 受講者からのニーズの高かった、教育相談とチーム学校との関わりをより詳しく結びつける内容を盛り込んだ。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講者等からのニーズが高い、「不登校児童・生徒の支援と教育相談」「特別支援教育と教育相談」に関する講義を追加する予定。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度教育相談指導者養成研修日程表

8:30	9:00	9:20	10:10	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00
第1日 (8/22)		受付	オリエンテーション	開講式	休憩	講義 「『チームとしての学校』の構築と教育相談」 文部科学省	昼食・休憩	協議 「教育相談の現状と課題」 ～事前レポートの協議による課題分析をする～(1) 教職員支援機構	休憩	協議 「教育相談の現状と課題」 ～事前レポートの協議による課題分析をする～(2) 教職員支援機構	休憩・準備	リフレクション
第2日 (8/23)	ユニットミーティング①	準備・休憩	講義・事例発表 「『チームとしての学校』の構築(1)(2)」 ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ 愛知県名古屋市教育委員会子ども応援委員会制度担当部 原 和輝 子ども応援室 主任指導主事 品川 陽一 大阪府堺市教育委員会スクワリアーカール 水流 綾 千葉県八千代市健康福祉部生活支援課社会福祉士 南 玲名 同 家庭・就学支援相談員/臨床心理士 花輪 敏男	FR教育臨床研究所 所長	花輪 敏男	途中休憩15分	昼食・休憩	講義・演習 「『チームとしての学校』の構築(3)」 ～チーム体制の構築を考える～ FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	休憩	講義・演習 「『チームとしての学校』の構築(4)」 ～チーム体制の構築を考える～ FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	休憩・準備	リフレクション
第3日 (8/24)	ユニットミーティング②	準備・休憩	講義 「教育相談の効果的な実践(1)」 ～教育相談の理論と実践を学ぶ～	高知大学准教授 鹿嶋 真弓	休憩	講義 「教育相談の効果的な実践(2)」 ～教育相談の理論と実践を学ぶ～	昼食・休憩	講義・演習 「教育相談の効果的な実践(3)」 ～具体的な手立ての方策を考える～	休憩	講義・演習 「教育相談の効果的な実践(4)」 ～具体的な手立ての方策を考える～	休憩・準備	リフレクション
第4日 (8/25)	ユニットミーティング③	準備・休憩	講義 「教育相談に関するマネジメントの推進(1)」 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～	神田外語大学教授 嶋崎 政男	休憩	講義 「教育相談に関するマネジメントの推進(2)」 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～	昼食・休憩	協議・講義 「教育相談に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構	閉講式			

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（中央指導者研修）						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>						
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>						
開催期日	平成29年5月8日（月）～平成29年5月12日（金）				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	113	参加率	94.2%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 406 人、参加率 112.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	109	2	0	0	2	0	113
割合 (%)	96.5	1.8	0.0	0.0	1.8	0.0	
	111	98.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 各講師が別の講師が講義した内容について把握できている上で講義を組み立ててくれていることがよくわかり、受けている側としても、つながりがある研修で理解が深まった。 講義の中に協議が入り、色々な先生方との交流を図ることができ、とてもよいものであった。自分が気づかなかった視点や方向性が多くあり、今後に生かせることが多くあった。また、1日の初めと終わりに行われるユニットミーティングは、1日の学びや前日の内容を振り返ること、どう今後に生かしていくか、貴重な時間であったと思う。 これまで自分の中で確認不足であった法の主旨・体系などを理解することができ、大変勉強になった。県教委の立場として、各市町村・各学校に伝達すべきこと、準備すべきこと、実行すべきことをしっかりと周知していきたい。 それぞれの講義内容が重なりながらも違う視点から「いじめ」を捉えていただき、幅広い知識を得ることができたと思う。最終日、それを生かすためのプログラムがあり、役立つものであった。様々な先生のお話・意見を聞くことができ、今後役に立ちたいと思う。 インシデント・プロセス法など、自分にとっては新しい討議法を学ぶことができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介した。 現場での伝達や活用に資するため、国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れた。 インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れた。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(5日間)

【つくば開催】 5月8日(月)～5月12日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00 12:15	13:00 13:15	14:30 14:45 15:00	16:15 16:30	17:15	
第1日	受付 (30分) 9:00-9:30	オリエンテー ション 30分 (9:30-10:00)	休 憩 10 分	開講式 20分	講義 いじめの問題に関する現状と取組 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長 坪田 知広 (90分) 10:30-12:00	昼食・休憩(60分)	講義 いじめの問題の捉え方 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (90分) 13:00-14:30	事例協議 いじめの問題への取組 (90分) 14:45-16:15	休 憩 15 分	ユニット ミー ティング (45分) 16:30-17:15
第2日	休 憩 1 0 分	いじめの問題 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 9:00-10:30	講義・協議 いじめの問題への組織的な取組の考 え 方と実践(1) 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 10:45-12:15	休 憩 15 分	講義・協議 いじめの問題への組織的な取組の考 え 方と実践(2) 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	講義・協議 いじめの問題への組織的な取組の考 え 方と実践(3) 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 13:15-14:45	事例協議 いじめの問題への取組 (90分) 15:00-16:30	休 憩 15 分	ユニット ミー ティング (30分) 16:45- 17:15
第3日	休 憩 1 0 分	法を踏まえたいじめの問題への対応(1) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 9:00-10:30	講義・協議 法を踏まえたいじめの問題への対応(2) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 10:45-12:15	休 憩 15 分	講義・協議 法を踏まえたいじめの問題への対応(3) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 13:15-14:45	昼食・休憩(60分)	講義・協議 法を踏まえたいじめの問題への対応(4) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 15:00-16:30	休 憩 15 分	ユニット ミー ティング (30分) 16:45- 17:15	
第4日	休 憩 1 0 分	ネットいじめの未然防止及び解決に向け た指導と対応(1) 鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二 (90分) 9:00-12:15	講義・協議 ネットいじめの未然防止及び解決に向け た指導と対応(2) 鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二 (90分) 10:45-12:15	休 憩 15 分	講義・協議 いじめの問題に関する保護者との連携、 信頼関係構築の在り方(1) 日本社会福祉士会副会長 粟沢 隆一 (90分) 13:15-14:45	昼食・休憩(60分)	講義・協議 いじめの問題に関する保護者との連携、 信頼関係構築の在り方(2) 日本社会福祉士会副会長 粟沢 隆一 (90分) 15:00-16:30	休 憩 15 分	ユニット ミー ティング (30分) 16:45- 17:15	
第5日	休 憩 1 0 分	いじめの問題に関するマネジメントの推進 国立教育政策研究所生徒指導・進路指 導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	講義・協議 いじめの問題に関するマネジメントの推 進 国立教育政策研究所生徒指導・進路指 導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	休 憩 15 分	講義・協議 いじめの問題に関するマネジメントの推 進 国立教育政策研究所生徒指導・進路指 導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 13:15-14:45	昼食・休憩(60分)	講義・協議 いじめの問題に関する保護者との連携、 信頼関係構築の在り方(1) 日本社会福祉士会副会長 粟沢 隆一 (90分) 15:00-16:30	休 憩 15 分	開 講 式 20 分	

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（仙台会場）							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>							
受 講 対 象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>							
開 催 期 日	平成29年5月16日（火）～平成29年5月19日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	63	人	参加率	78.8%
開 催 場 所	TKPガーデンシティ仙台匂当台（宮城県仙台市）							

※ 全体標準定員 360人、受講者数 406人、参加率 112.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	58	5	0	0	0	0	63
割合 (%)	92.1	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	63	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・個人的な職業倫理と経験則に委ねられることが多いと感じていた、いじめ生徒指導であるが、実はそうではないのだということを改めて感じる事ができた。文科からの通達、法の制定等相次いでいることも”仕事を面倒にしている”のではなく、実は現場（教師も生徒も）を守るためのものになっているという捉え方・見方ができるようになった。これまで蓄えてきた自分の中のいろんなものに、一本、串を通された感である。 ・1日目から4日目まで、現在の国の動向や全国の実態・好事例、上手くいかなかった例など、実際的な内容がふんだんに用意され、実りある研修となりました。 ・組織対応を、人の思いだけでなく、どうシステムとして作り上げるか、を課題として持っていたが、具体的な方策を考え始める事ができた。持ち帰り、細部を協議しながら形にしたい。 ・研修方法についても、今後研修運営をしていく立場の者として、大変参考になりました。 ・文科省の児童生徒課長をはじめ、国の最前線でいじめの問題に取り組んでおられる方々の話を直接いただくことができ、大いに刺激を受けた。また、学校現場に戻った時に、研修の行う際のヒントをいただくことができた。日程や時間の配分についても、配慮いただいていることがよく分かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介した。 ・現場での伝達や活用に資するため、国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れた。 ・インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(4日間)

【仙台】5月16日(火)～5月19日(金)

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	16:15	16:30	17:00
第1日		受付 (30分)	オリエンテーション (30分)	オリエンテーション (10分)	開講式 (20分)	「いじめの問題に関する現状と取組」 文科科学省 (90分) 10:30-12:00	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (90分) 13:00-14:30	休憩 15分	「いじめの問題への取組」 教職員支援機構 研修プロデューサー (90分) 14:45-16:15	休憩 15分		ミーティング 30分
第2日	受付	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(1)」 ～未然防止から重大事態まで～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 9:00-10:30	「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究員 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(2)」 ～未然防止から重大事態まで～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(3)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(4)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分		ミーティング 20分
第3日	受付	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 10:45-12:15	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究員 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(3)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(4)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(5)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分		ミーティング 20分
第4日	受付	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(4)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(5)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(6)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(7)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(8)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	「いじめの問題に関する取組の考え方と実践(9)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 関西外国語大学教授 新井肇 (90分) 15:00-16:30	休憩 15分	閉講式 20分	

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（大阪会場）						
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室						
研修目的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>						
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>						
開催期日	平成29年5月23日（火）～平成29年5月26日（金）				4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	140	参加率	175.0%
開催場所	大阪アカデミア（大阪府大阪市）						

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 406 人、参加率 112.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	120	15	0	0	2	3	140
割合 (%)	87.6	10.9	0.0	0.0	1.4	2.1	
	135						
	98.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・法的な視点、学校を組織する側の視点、一担任としての視点など、様々な視点からいじめ問題について考えるよい機会になった。 ・自分自身、現職でありながら十分に理解できていなかった部分について、詳しく学ぶことができました。また、法の裏にあるいじめのメカニズムや、これまでの動向などについても伺うことができ、これから研修会等で伝えるべき内容が明確になりました。 ・いじめ問題には組織として対応することの大切さはわかっていますが、なぜ大切なのかを法律や基本方針に基づいて説明頂いたこと、事例を基に検討を行ったことで、より理解することができました。 ・企画書作成は本研修のゴールとして、またそれを基にした次へのステップとして、良い取組だと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介した。 ・現場での伝達や活用資するため、国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れた。 ・インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(4日間)

【大阪】5月23日(火)～5月26日(金)

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	16:15	16:30	17:00
第1日		受付 (30分)	オリエンテーション (30分)	オリエンテーション (10分)	開講式 (20分)	休憩 (15分)	「いじめの問題に関する現状と取組」 文科科学省 (90分) 10:30-12:00	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (90分) 13:00-14:30	休憩 (15分)	「いじめの問題への取組」 (90分) 14:45-16:15	休憩 (15分)	ミーティング (30分)	
第2日	受付		「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(1)」 ～未然防止から重大事態まで～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(2)」 ～未然防止から重大事態まで～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 10:45-12:15	休憩 (15分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(3)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 13:15-14:45	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(4)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 15:00-16:30	休憩 (15分)	「いじめの問題への取組」 (90分) 15:00-16:30	休憩 (10分)	ミーティング (20分)	
第3日	受付		「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 9:00-10:30	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 10:45-12:15	休憩 (15分)	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修特別研究員 (90分) 13:15-14:45	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 大津市教育委員会 倉谷守 穂谷守 (90分) 13:15-14:45	休憩 (15分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 大津市教育委員会 倉谷守 穂谷守 (90分) 15:00-16:30	休憩 (10分)	ミーティング (20分)	
第4日	受付		「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	休憩 (15分)	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修特別研究員 (90分) 13:15-14:45	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 大津市教育委員会 倉谷守 穂谷守 (90分) 13:15-14:45	休憩 (15分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 大津市教育委員会 倉谷守 穂谷守 (90分) 15:00-16:30	閉講式 (20分)	休憩 (15分)	

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（福岡会場）							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>							
受 講 対 象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</p>							
開 催 期 日	平成29年6月6日（火）～平成29年6月9日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	90	人	参加率	112.5%
開 催 場 所	TKPガーデンシティ博多新幹線口（福岡県福岡市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 406 人、参加率 112.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	80	8	0	0	0	2	90
割合 (%)	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	2.2	
	88	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> いじめの問題に対する未然防止・初期対応など、基本的なことから具体的実践について詳しく説明して頂き、たくさんの学びがある、大変有意義な4日間であった。 他県の指導法や現状等も知ることができたのが良かった。全体を通して大切な考えや法が繰り返し出てきたので、内容をしっかりと理解することができた。いじめの問題についての具体的な対応の仕方や流れ、未然防止の方法等、他職員に伝えたい内容を多く得ることができた。 理解しているつもりでも、曖昧に覚えたり、理解していたことがよくわかりました。今回の研修で学んだことを自分だけのものにせず、他の教職員にも広めていき、全体での意識統一を図り、組織的に対応できる職場にしていきたいと思えます。 一流の講師陣の講義は当然素晴らしかったが、グループ協議で他県の先生から得られた意見・アイデアも大いに参考になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介した。 現場での伝達や活用に資するため、国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れた。 インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れた。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットいじめに関する内容に特化した講座を取り入れた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(4日間)

【福岡】6月 6日(火)～ 6月 9日(金)

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	16:15	16:30	17:00
第1日		受付 (30分)	オリエンテーション (30分)	休憩 10分	開講式 20分	休憩 15分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文科科学省 (90分) 10:30-12:00	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (90分) 13:00-14:30	休憩 15分	「いじめの問題への取組」 (90分) 14:45-16:15	休憩 15分	ミーティング 30分	
第2日	受付		「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(1)」 ～未然防止から重大事態まで～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(2)」 ～未然防止から重大事態まで～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(3)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(4)」 ～ネットいじめの指導と対応～ 愛媛大学大学院教授 平松義樹 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分		休憩 10分	ミーティング 20分	
第3日	受付		「法を踏まえたいじめの問題への対応(1)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「法を踏まえたいじめの問題への対応(2)」 弁護士 三ツ角直正 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 文教大学 教授 松田素行 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 文教大学 教授 松田素行 (90分) 15:00-16:30	休憩 10分		休憩 10分	ミーティング 20分	
第4日	受付		「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩 15分	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼食・休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修特別研究員 (90分) 13:15-14:45	休憩 15分	閉講式 20分					

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修【管理者用コース】							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課 調査企画係							
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年6月20日（火）～平成29年6月21日（水）					2日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	40	人	受講者数	51	人	参加率	127.5%
開 催 場 所	三重県総合教育センター（三重県津市）							

※ 全体標準定員 100 人、受講者数 121 人、参加率 121.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	42	9	0	0	0	0	51
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	51						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・先進的な行政の施策について多く学ぶことができた。市教委のイニシアティブの時には強引な仕かけが後に成果になると思った。紹介いただいた資料を帰って検索し、とり入れていきたいと思う。
 ・管理職として、NPO法人とつながり、委員会や保護者、学校教員と、生徒をつなげるコーディネーター役として、生徒の進路保障も考えながら日本語指導のシステムを構築していきたい。
 ・様々な状況の違う学校の様子を知ることができたが、状況が違いすぎて実際に生かせる情報かという点と難しいものの方が多かったように感じた。
 ・先進的な事例報告は、自校でも充分活用できる取り組みであり、多くの事を学べた。特に個別の指導計画の作り方や、日本語指導を進める上での考え方や、指導資料など具体的なものが多く大変有効であった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・地方創生の一環として、本年度から独立行政法人教職員支援機構と三重県教育委員会との主催にし、三重県総合教育センターで実施した。
- ・第2日目の講義4の内容について「特別の教育課程」の導入による体制整備の課題に触れるようにした。

次年度に向けて

- ・学校視察では、授業を行った担当者と受講者の交流の時間を設ける。
- ・特別の教育課程に取り組んでいる学校を紹介した内容を講義し、県、市、学校の管理者の事例発表協議につなげる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 日程表

1 日目	8:45	9:15	9:40	10:20	10:30	12:00	13:00	15:50	16:00	17:00	
6 月 20 日 (火)	受付	開講式・オリエンテーション	施策説明 「外国人児童生徒等に 対する文部科学省の施 策について」 文部科学省初等中等教 育国際教育課 日本語指導係長 木下 雅仁	休憩	講義1 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 目白大 学長 佐藤 郡衛	昼食	講義2・事例協議1 「学校における日本語教育プログラム～ 個別の指導計画を立てるために～」 【講義】 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 【事例発表】 広島市立基町小学校 日本語指導担当講師 中村 清夏 板橋区立板橋第二中学校 教諭 竹市 久美	休憩	班別演習1 「情報交換による課題の共有」	◎目的：班別に情報交換を行うこと で、外国人児童生徒等教育の課題の明 確化、共有化を図るとともに、本研修 での目的を明確にする。	
	2 日目	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:00	14:10	16:30	16:45	
6 月 21 日 (水)	管理者用コース 講義3 「『特別的教育課程』を踏まえ た指導・支援体制づくりの課題 と可能性」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	事例協議2 「～指導・支援体制における連携と協働～外国人児童生徒等 教育の先進的な取組」 【事例発表】 兵庫県教育委員会事務局 人権教育課長 村松 好子 元長野市教育委員会学校教育部 指導主事 塩澤 正男 大阪市立南小学校 校長 山崎 一人 【進行】 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美	休憩	昼食	班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 愛知淑徳大学 松本 一子 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美 兵庫県教育委員会事務局 人権教育課長 村松 好子 元長野市教育委員会学校教育部 指導主事 塩澤 正男 大阪市立南小学校 校長 山崎 一人	昼食	講義4 「外国人児童生徒等のためのJSL対話型ア セスメントDLA～日本語能力の評価の在り 方～」 東京外国語大学 副学長 伊東 祐郎 【DLAの取組事例発表】 箕面市教育委員会子ども未来創造局 人権施策課 参事 指導主事 五十嵐 直人	講義3 「日本語能力測 定方法の演習」	休憩	休憩	閉講式
	実践先進校視察 Aコース（四日市市立笹川東小学校） 8:30 四日市駅（集合） Bコース（三重県立飯野高等学校） 8:30 白子駅（集合） Cコース（初期適応支援教室「いっぽ」） 8:30 松阪駅（集合）	◎目的：三重県内の外国人児童生徒等教育に係る実践先進校や初期適応支援教室にお いて実施されている、JSLカリキュラムを活用した授業や日本語初期指導を参観 し、地域の実態に応じた取組や具体的な指導等について、フィールドワークを活用し た研修をとらえて学ぶ機会とする。	情報共有	◎目的：文部科学省開発の「JSL対話型ア セスメント」の考え方とその日本語測定方法 の概要を知り、日本語指導の内容や方法の決 定への生かし方について学ぶ。	◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への 糸口を探る。	◎目的：DLA（日本語能力測定方法）について、実際に体 験しながら理解を深める。					

8:30	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
初期指導プログラム [講義・演習]					
<p>講義 「日本語初期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」</p> <p>波多野フミアミスクール 愛知県豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 桑植 博子</p> <p>学監 大藏 守久 教授 齋藤 ひろみ 教授 今澤 悌 指導主事 大菅 佐紀子</p> <p>◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に対する初期段階の日本語プログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（文字表記・語彙・文型等）」の内容と指導方法について知り、事例をもとに授業計画の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	休憩	<p>演習 「日本語初期指導の活動計画の実践」</p> <p>◎目的：日本語初期指導のプログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（語彙・文型）」の学習指導計画を作成することを通して、初期段階の日本語指導について理解を深め、授業を実施する力を高める。</p>	屋食	休憩	各ユニットでブログラム内容の共有
中期・後期指導プログラム [講義・演習]					
<p>講義 「日本語中期・後期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」</p> <p>東京女子大学 教授 石井 恵理子 港区立築小学校 主任教諭 花島 健司</p> <p>◎目的：日常会話ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語プログラムの内容と指導方法について知り、事例をもとに授業の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	休憩	<p>演習 「日本語中期・後期指導（主に読む力、書く力を高める指導）の実践」</p> <p>◎目的：日本語の「読む」「書く」技能を中心にした活動の学習指導計画を作成し、中期・後期段階の日本語指導についての理解を深め、授業を実施する力を高める。</p>	屋食	休憩	各ユニットでブログラム内容の共有
教科指導実践プログラム [講義・演習]					
<p>講義 「JSLカリキュラムの授業づくり」</p> <p>東京学芸大学 甲府市立大国小学校 京都市教育委員会</p> <p>◎目的：日常会話ができる児童生徒を対象とした「JSLカリキュラム（教科と日本語の統合型の学習プログラム）」の内容と方法について知り、事例をもとに指導計画の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	休憩	<p>演習 「JSLカリキュラムの実践」</p> <p>◎目的：JSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実施する力を高める。</p>	屋食	休憩	各ユニットでブログラム内容の共有

4 日 目

8:30		12:00		13:00		14:45		15:00		
3 プログラム共通										
全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」										
全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」			休憩			休憩			講義 5 「外国人児童生徒等教育を推進するリーダーとして～研修成果の活用に向けて～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	各ユニットで プログラム内 容の共有
昼食										
◎目的：各プログラムの代表班の学習指導計画についての発表をもとに、子供たちの言語習得・認知発達・社会的等の側面から、日本語指導の内容と方法についての理解を更に深める。										
閉講式										

6 月 23 日 (金)

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修【日本語指導者用コース】							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課 調査企画係							
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年6月20日（火）～平成29年6月23日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	70	人	参加率	116.7%
開 催 場 所	三重県総合教育センター（三重県津市）							

※ 全体標準定員 100 人、受講者数 121 人、参加率 121.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	59	11	0	0	0	0	70
割合 (%)	84.3	15.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	70	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の内容を考える活動を通して、学んだことを整理していく機会となった。また、先生方と考えを共有し、創り上げていく活動は、今後の授業にもすぐやってみたいことばかりで、柔軟に考えていこうという思いになることができた。 ・通常学級の1年生のクラスでも言葉の指導を具体物→抽象につなげたり数につなげたりしており、とてもわかりやすかった。「つばさ」では、文型を意識しており、実践してみたいと思った。 ・子どもたちの「行動」に基づいて目標を設定することの大切さが分かった。また、認知的領域での目標は、6つのかたちで高次化していくことも分かり、目標設定の大切さを学ぶことができた。 ・3日目に、これまで学んだことをもとにグループで演習ができたことで、はじめて気づくことが多かった。 ・ポスターセッションの内容が充実していて、勉強になった。系統立てて、レベルに合った内容が考えるための参考になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の一環として、本年度から独立行政法人教職員支援機構と三重県教育委員会との主催にし、三重県総合教育センターで実施した。 ・全国の教員にとって参考となる実践を有している学校について、授業等の視察を実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校視察では、授業を行った担当者と受講者の交流の時間を設ける。 ・3日目は3プログラム共通で授業づくりに関する講義を入れ、その後、各プログラムに分かれての講義、演習を進める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 日程表

1日目	8:45	9:15	9:40	10:20	10:30	12:00	13:00	15:50	16:00	17:00
6月20日(火)	受付	開講式・オリエンテーション	【施策説明】 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省初等中等教育国際教育課 日本語指導係長 木下 雅仁	休憩	講義1 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 目白大学 学長 佐藤 郡衛	昼食	講義2・事例協議1 「学校における日本語教育プログラム～個別の指導計画を立てるために～」 【講義】 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 【事例発表】 広島市立基町小学校 日本語指導担当講師 中村 清夏 板橋区立板橋第二中学校 教諭 竹市 久美	休憩	班別演習1 「情報交換による課題の共有」	◎目的：班別に情報交換を行うことで、外国人児童生徒等教育の課題の明確化、共有化を図るとともに、本研修での目的を明確にする。
	2日目	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:00	14:10	16:30	16:45
6月21日(水)	管理者用コース	講義3 「『特別の教育課程』を踏まえた指導・支援体制づくりの課題と可能性」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	事例協議2 「～指導・支援体制における連携と協働～外国人児童生徒等教育の先進的な取組」 【事例発表】 兵庫県教育委員会事務局 人権教育課長 村松 好子 元長野市教育委員会学校教育部 指導主事 塩澤 正男 大阪市立南小学校 校長 山崎 一人 【進行】 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美	昼食	班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美 兵庫県教育委員会事務局 人権教育課長 村松 好子 元長野市教育委員会学校教育部 指導主事 塩澤 正男 大阪市立南小学校 校長 山崎 一人	昼食	講義4 「外国人児童生徒等のためのJSL対話型アセスメントDLA～日本語能力の評価の在り方～」 東京外国語大学 副学長 伊東 祐郎 【DLAの取組事例発表】 箕面市教育委員会子ども未来創造局 人権施策課 参事 指導主事 五十嵐 直人	講義3 「日本語能力測定方法の演習」 東京外国語大学 副学長 伊東 祐郎 東京外国語大学 名誉教授 小島 幸江 東京外国語大学 准教授 菅長 理恵 同志社大学 准教授 櫻井 千穂	閉講式	◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について先進的な地域の取組の理解を深める。
	実践先進校視察 Aコース（四日市市立笹川東小学校） 8:30 四日市駅（集合） Bコース（三重県立飯野高等学校） 8:30 白子駅（集合） Cコース（初期適応支援教室「いっぽ」） 8:30 松阪駅（集合）	日本語指導者用コース	◎目的：三重県内の外国人児童生徒等教育に係る実践先進校や初期適応支援教室において実施されている、JSLカリキュラムを活用した授業や日本語初期指導を参観し、地域の実態に応じた取組や具体的な指導等について、フィールドワークを活用した研修をとらえて学ぶ機会とする。	情報共有	休憩	◎目的：文部科学省開発の「JSL対話型アセスメント」の考え方とその日本語測定方法の概要を知り、日本語指導の内容や方法の決定への生かし方について学ぶ。	休憩	◎目的：DLA（日本語能力測定方法）について、実際に体験しながら理解を深める。		

8:30	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
初期指導プログラム [講義・演習]					
<p>講義 「日本語初期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」</p> <p>波多野ファミリースクール 愛知県豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 桑植 博子</p> <p>学監 大藏 守久 教授 齋藤 ひろみ 教授 今澤 悌 指導主事 大菅 佐紀子</p>	<p>休憩</p>	<p>演習 「日本語初期指導の活動計画の実践」</p>	<p>屋食</p>	<p>休憩</p>	各ユニットでプログラム内容の共有
中期・後期指導プログラム [講義・演習]					
<p>講義 「日本語中期・後期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」</p> <p>東京女子大学 教授 石井 恵理子 港区立筈小学校 主任教諭 花島 健司</p> <p>◎目的：日常会話ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語プログラムの内容と指導方法について知り、事例をもとに授業の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習 「日本語中期・後期指導（主に読む力、書く力を高める指導）の実践」</p>	<p>屋食</p>	<p>休憩</p>	各ユニットでプログラム内容の共有
教科指導実践プログラム [講義・演習]					
<p>講義 「JSLカリキュラムの授業づくり」</p> <p>東京学芸大学 甲府市立大国小学校 京都市教育委員会</p> <p>◎目的：日常会話ができる児童生徒を対象とした「JSLカリキュラム（教科と日本語の統合型の学習プログラム）」の内容と方法について知り、事例をもとに指導計画の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習 「JSLカリキュラムの実践」</p>	<p>屋食</p>	<p>休憩</p>	各ユニットでプログラム内容の共有
◎目的：JSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実践する力を高める。					

4 日 目

8:30	3 プログラム共通	12:00	13:00	14:45	15:00	
<p>6 月 23 日 (金)</p>	<p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>波多野ファミリスクール 外国児童生徒教育相談員 大蔵 守久 愛知県豊橋市教育委員会 学監 大蔵 博子 東京女子大 教授 石井 恵理子 港区立筈小学校 主任 花島 健司 東京学芸大 教授 齋藤 ひろみ 甲府市立大岡小学校 教授 齋藤 佛 京都市教育委員会 指導主事 齋藤 佐妃子</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>講義 5 「外国児童生徒等教育を推進するリーダーとして～研修成果の活用に向けて～」 東京学芸大 教授 齋藤 ひろみ</p>	<p>各ユニットで プログラム内 容の共有</p>	<p>閉講式</p>
	<p>◎目的：各プログラムの代表班の学習指導計画についての発表をもとに、子供たちの言語習得・認知発達・社会的等の側面から、日本語指導の内容と方法についての理解を更に深める。</p>	<p>◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。</p>				

I 研修概要

研 修 名	小学校における外国語教育指導者養成研修									
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課 調査企画係									
研 修 目 的	小学校の外国語教育を担当する教諭、指導主事等に、新学習指導要領における外国語活動及び外国語科の実施に向けた推進方策について理解を深めるとともに、教員の外国語教育を円滑に進めるための方策等を総合的に習得させることを通じて、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。									
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び小学校における外国語教育推進の指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生									
開 催 期 日	平成30年2月28日（水）～平成30年3月2日（金）					3日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	182	人	参加率	151.7%		
開 催 場 所	福井県教育総合研究所（福井県坂井市）									

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計		
	大変有意義		概ね有意義								
人数 (人)	174	95.6	8	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	182
割合 (%)	182		100.0								

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・外国語が教科化されるにあたっての心構えや、現行の指導要領との違いなど、理論的な部分を分かりやすく説明していただけたことや、新教材の特色や扱い方、さらには何を大事にして授業を行ってほしいか等、国の思いも教えていただくことができた。また午後からの研究授業参観においては、直山先生から教えていただいた理論の部分と実践を結び付けることができた。 ・平成32年度全面実施に向けて、(どのように)どのような所が外国語活動、外国語科と違うのか明確になった。4技能5領域をこの2年間で少しずつ慣れさせていきたいし、チーム学校でとりくんでいきたい。 ・全国各地の代表の方から、その地域や地域でのとりくみをきけたこと、一緒に知恵をしばったことは、有意義だった。この研修の会場である施設をもっとじっくり見たかった。一教員として、参加させていただいたこの3日間で学んだことを、どう伝えられるか、日々の多忙感にこの使命感が殺されないよう、ベストをつくしたい。 ・経験豊富な先生方にまねていただいて、場違いながらも大変勉強になった。研究公開や出前授業等で、今回教えていただいたことを生かし、そして広めたいと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の利便性を考慮し、福井駅から研修会場の送迎を行うこととした。 ・新学習指導要領の実施に向け、現在の移行期で活用する小学校外国語教育に係る教材『We can!』を活用した講義、演習を実施した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会場の収容人数を踏まえた講義及び演習を実施する。 ・授業参観での協議がスムーズにいくための協議内容や指導助言の観点の事前提示をするなど更なる充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度小学校における外国語教育指導者養成研修 日程表

【1日目】	9:30	10:00	10:30	12:00	14:00	16:50			
2月28日(水)	受付	オリエンテーション 開講式	講義1 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性Ⅰ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：学校教育における外国語活動の現状と課題を踏まえ、新学習指導要領における外国語教育の在り方を理解する。	昼・食 休・憩	研究授業参観・研究協議 外国語活動の充実及び、外国語教育の今後のために求められること 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 教授 山下 邦幸 教授 細瀬 弘幸 教授 伊藤 正起 主任 水上 直子 主任 上田 外史彦	各ユニットで内容の共有			
【2日目】	8:30	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
3月1日(木)	受付	講義2 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性Ⅱ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：「研究授業参観・研究協議」の整理を通して、新学習指導要領における外国語教育の具体について理解する。	休憩	講義3 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅰ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 学校支援課 指導主事 山田 誠志 徳島県鳴門市林崎小学校 教諭 坂田 美佳 岐阜県多治見市立笠原小学校 教諭 勝部 佳純 ALT Robert Middleton ◎目的：新教材の特色を知り、その活用の具体について理解する。	昼・食 休・憩	講義4 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅱ 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 学校支援課 指導主事 山田 誠志 徳島県鳴門市林崎小学校 教諭 坂田 美佳 岐阜県多治見市立笠原小学校 教諭 勝部 佳純 ALT Robert Middleton ◎目的：新教材の特色を知り、その活用の具体について理解する。	休憩	演習1 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅲ 指導助言者 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 学校支援課 指導主事 山田 誠志 ◎目的：外国語科の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法を班別協議を通して深める。	各ユニットで内容の共有
【3日目】	8:30	9:00	10:50	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45	
3月2日(金)	受付	演習2 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅳ 発表準備 代表班を4つ選出 移動 代表班の発表 講評	講義5 外国語教育を推進するための指導者として 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：本研修を振り返り、成果等をまとめるとともに、研修講師となるための課題を整理する。	昼・食 休・憩	閉講式 各ユニットで内容の共有				

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子供達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を習得させる。（JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（ALT）に対する来日直後オリエンテーション（一般財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手（ALT）						
開 催 期 日	(4月期) 平成29年 4月10日 (月)				1日間		
	(A日程) 平成29年 7月24日 (月)				1日間		
	(B日程) 平成29年 7月31日 (月)				1日間		
	(第2次) 平成29年 8月31日 (月)				1日間		
受 講 人 数	定員 (計画 人数)	4月期	1,600 人	受講者数	56 人	参加率	—
		A日程			828 人		—
		B日程			803 人		—
		第2次			26 人		—
		計			1,600 人		計
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町（東京都千代田区） A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル（東京都新宿区）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義で なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義		おおむね有意義						
人数 (人)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
割合 (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・（学習指導要領等の説明では）教育に関する法律について知識を得ることができた。 ・（学習指導要領等の説明では）日本の英語教育プログラムの基本的な目標について聞くことができた一方で、特別支援学校のカリキュラムについて、もっと聞きたかった。 ・ALTと日本人教諭のペアが概要や自身の経験についての話が良かった。 <p>この分科会で、ALTとしてできる自分の役割についてより明確になった。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行う必要がある。 ・「特別支援教育の現状」のコマを導入した。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

2017 Post-Arrival Orientation (April) Schedule
 平成29年度来日直後オリエンテーション（4月）開催日程

時間	内容								Location
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食								Emerald エメラルド
9:00 - 9:20	Opening Ceremony / 開会式								Marble マーブル
9:20 - 9:35	Break for moving between rooms / 移動								
時間	英語圏ALT分科会	場所	中国語圏ALT分科会	場所	韓国語圏ALT分科会	場所	時間	CIR分科会	場所
9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明	Sapphire サファイア	JETプログラムに関する重要事項の説明(日本語)	Ruby ルビー	JETプログラムに関する重要事項の説明(日本語)	Ruby ルビー	9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(日本語)	Ruby ルビー
9:55 - 10:10	Break / 休憩								
10:10 - 10:55	ALTの心得と任用団体が期待すること	Sapphire サファイア	ALTの心得と任用団体が期待すること 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	ALTの心得と任用団体が期待すること 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	10:00 - 11:00	CIRとしての基礎知識 CIRの心得と任用団体が期待すること	Ruby ルビー
10:55 - 11:10	Break / 休憩								
11:10 - 12:00	文部科学省 学習指導要領の説明	Sapphire サファイア	文部科学省 学習指導要領の説明 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	文部科学省 学習指導要領の説明 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	11:10 - 12:00	CIR業務について 「イベント企画・実施」	Ruby ルビー
12:00 - 13:15	Lunch / 昼食								Marble マーブル
13:15 - 14:15	ALTに役立つ情報 (小学校・中学校)	Sapphire サファイア	ALTに役立つ情報 (小学校・中学校) 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	ALTに役立つ情報 (高校) 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Garnet ガーネット	13:15 - 14:40	CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	Ruby ルビー
	ALTに役立つ情報 (高校)	Garnet ガーネット	ALTに役立つ情報 (高校) 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Garnet ガーネット					
14:15 - 14:30	Break / 休憩								
14:30 - 16:15	文部科学省 チーム・ティーチングデモン ストレーションと効果的な授業計画 (中学校・高校)	Sapphire サファイア	文部科学省 チーム・ティーチングデモン ストレーションと効果的な授業計 画 (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	文部科学省 チーム・ティーチングデモン ストレーションと効果的な授業計 画 (韓国ALT向け)	Sango サango	14:40 - 14:50	Break / 休憩	
	文部科学省 チーム・ティーチングデモン ストレーションと効果的な授業計画 (小学校)	Garnet ガーネット							
16:15 - 16:30	Break / 休憩								
16:30 - 17:15	ALTのためのマナーと 社会人としての常識	Sapphire サファイア	ALTのためのマナーと 社会人としての常識 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	ALTのためのマナーと 社会人としての常識 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	15:40 - 15:50	Break / 休憩	
15:50 - 17:15							15:50 - 17:15	CIRとしての基礎スキル 「日本のビジネスマナーの基礎」	Ruby ルビー
17:15 - 18:30	Break / 休憩								
18:30 - 20:00	Welcome Reception / 歓迎夕食会								Marble マーブル
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食								Marble マーブル
時間	英語圏ALT分科会	場所	中国語圏ALT分科会	場所	韓国語圏ALT分科会	場所	時間	CIR分科会	場所
9:00 - 10:30	パネルディスカッション: 小学校・中学校	Sapphire サファイア	先輩からのアドバイス (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	先輩からのアドバイス (韓国ALT向け)	Sango サango	9:00 - 10:25	CIRとしての基礎スキル 「通訳」	Ruby ルビー
	パネルディスカッション: 高校	Garnet ガーネット							
10:30 - 10:45	Break								
10:45 - 11:30	文部科学省分科会 ① (小)	Lyscale レスカル	文部科学省分科会 ① (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	文部科学省分科会 ① (韓国ALT向け)	Sango サango	10:40 - 11:30	CIRとしての基礎知識 「地方自治体の行政機構」	Ruby ルビー
	文部科学省分科会 ① (中・高)	Sapphire サファイア							
11:30 - 12:45	Lunch / 昼食								Marble マーブル
12:45 - 13:30	文部科学省分科会 ② (小)	Lyscale レスカル	文部科学省分科会 ② (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	文部科学省分科会 ② (韓国ALT向け)	Sango サango	12:45 - 13:15	防災について	Ruby ルビー
	文部科学省分科会 ② (中・高)	Sapphire サファイア							
13:30 - 13:40	Break								
13:40 - 14:25	文部科学省分科会 ③ (小)	Lyscale レスカル	文部科学省分科会 ③ (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	文部科学省分科会 ③ (韓国ALT向け)	Sango サango	13:25 - 14:55	パネルディスカッション	Ruby ルビー
	文部科学省分科会 ③ (中・高)	Sapphire サファイア							
14:25 - 14:35	Break								
14:35 - 15:20	文部科学省分科会 ④ (小)	Lyscale レスカル	文部科学省分科会 ④ (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	文部科学省分科会 ④ (韓国ALT向け)	Sango サango	15:10 - 16:00	CIR業務について 「外国語講座」	Ruby ルビー
	文部科学省分科会 ④ (中・高)	Sapphire サファイア							
15:20 - 15:30	Break								
15:30 - 16:00	防災について	Sapphire サファイア	防災について (日本語版)	Topaz トパーズ	防災について (日本語版)	Topaz トパーズ			
16:00 - 16:15	Break								
16:15 - 17:05	Host Prefecture/Designated City Meeting / 取りまとめ団体ミーティング								Marble/Garnet マーブル・ガーネット
17:05 - 17:15	Survey Completion & Submission / アンケート記入・提出								Marble マーブル
6:45 - 9:00	Breakfast								Marble マーブル
~ 11:00	Departure for Host Prefecture/Designated City / 出発								

平成29年度来日直後オリエンテーション (A・B日程)・案						
1日	時間	内容			会場	
	7:00 - 8:30	朝食			花(4F)・エミネス(5F)	
	9:00 - 9:20	開会式			コンコード(5F)	
	9:20 - 9:35	休憩・移動				
	時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場
	9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(英語)	コンコード(5F)	9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(日本語)	スターライト(43F)
	9:55 - 10:10	休憩			休憩	
	10:10 - 10:55	ALT全体会 「ALTの心得と任用団体が期待すること」	コンコード(5F)	10:00 - 11:00	CIRとしての基礎知識 「CIRの心得と任用団体が期待すること」	スターライト(43F)
	10:55 - 11:10	休憩			休憩	
	11:10 - 12:00	文部科学省(MEXT) 「学習指導要領等の説明」	コンコード(5F)	11:10 - 12:00	CIRとしての基礎知識 「地方自治体の行政機構」	スターライト(43F)
	12:00 - 13:15	昼食			花(4F)・エミネス(5F)	
	13:15 - 14:15	ALTIに役立つ情報(小中学校)	コンコードD(5F)		CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	スターライト(43F)
		ALTIに役立つ情報(高校)	コンコードE(5F)			
	14:15 - 14:30	休憩			休憩	
	14:30 - 16:15	文部科学省(MEXT) 「ティームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画」		13:15 - 14:40	CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	スターライト(43F)
		高校(クラス1)	錦(4F) 200人			
		高校(クラス2)	鳳(4F) 200人			
		中学校(クラス3)	花A(4F) 150人			
		中学校(クラス4)	花B(4F) 150人			
		中学校(クラス5)	花C(4F) 150人			
小学校(クラス6)	花D(4F) 150人					
16:15 - 16:30	休憩			休憩		
16:30 - 17:15	ALTのためのマナーと 社会人としての常識	エミネス(5F)	14:50 - 15:40	CIR業務について 「イベント企画・実施」	スターライト(43F)	
		錦(4F)	休憩			
		鳳(4F)	15:50 - 17:15	CIRとしての基礎スキル 「日本のビジネスマナーの基礎」	スターライト(43F)	
17:15 - 18:30	歓迎夕食会			コンコード(5F)		
18:30 - 20:00	朝食			花(4F)・エミネス(5F)		
2日	時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場
	9:00 - 10:30	パネルディスカッション 小学校中学校(クラスA) コンコードD(5F) 高校(クラスB) コンコードE(5F) 私立学校(クラスC) 錦(4F)		9:00 - 10:30	パネルディスカッション	スターライト(43F)
	10:30 - 10:45	休憩			休憩	
	10:45 - 11:25	文部科学省(MEXT)ワークショップ①		10:40 - 11:30	CIR業務について「学校訪問」	スターライト(43F)
		高校(クラス1)	錦(4F) 200人			
		高校(クラス2)	鳳(4F) 200人			
		中学校(クラス3)	花A(4F) 150人			
		中学校(クラス4)	花B(4F) 150人			
		中学校(クラス5)	花C(4F) 150人			
	小学校(クラス6)	花D(4F) 150人				
	11:25 - 12:40	昼食			コンコード・エミネス(5F)	
	12:40 - 13:20	文部科学省(MEXT)ワークショップ②		12:45 - 14:10	CIRとしての基礎スキル 「通訳」	スターライト(43F)
		高校(クラス1)	錦(4F) 200人			
		高校(クラス2)	鳳(4F) 200人			
		中学校(クラス3)	花A(4F) 150人			
		中学校(クラス4)	花B(4F) 150人			
		中学校(クラス5)	花C(4F) 150人			
	小学校(クラス6)	花D(4F) 150人				
	13:20 - 13:35	休憩			休憩	
	13:35 - 14:15	文部科学省(MEXT)ワークショップ③		14:10 - 14:25	休憩	
高校(クラス1)		錦(4F) 200人				
高校(クラス2)		鳳(4F) 200人				
中学校(クラス3)		花A(4F) 150人				
中学校(クラス4)		花B(4F) 150人				
中学校(クラス5)		花C(4F) 150人				
小学校(クラス6)	花D(4F) 150人					
14:15 - 14:30	休憩			休憩		
14:30 - 15:10	文部科学省(MEXT)ワークショップ④		14:25 - 15:15	CIR業務について「外国語講座」	スターライト(43F)	
	高校(クラス1)	錦(4F) 200人				
	高校(クラス2)	鳳(4F) 200人				
	中学校(クラス3)	花A(4F) 150人				
	中学校(クラス4)	花B(4F) 150人				
	中学校(クラス5)	花C(4F) 150人				
小学校(クラス6)	花D(4F) 150人					
15:10 - 15:30	休憩			休憩		
15:30 - 16:00	防災について	コンコード(5F)	15:30 - 16:00	防災について	スターライト(43F)	
16:00 - 16:15	休憩・移動					
16:15 - 17:05	取りまとめ団体別ミーティング			錦・鳳・花A(4F)・エミネス(5F)		
17:05 - 17:15	アンケート記入・提出			錦・鳳・花A(4F)・エミネス(5F)		
17:15 - 20:00	集荷			花BCD(4F)		
3日	6:30 - 9:00*	朝食			コンコードC(5F)・錦・鳳(4F)	
	7:00 - 9:00	朝食			錦・鳳(4F)	
	~11:00	出発			花ABC(4F) コンコードAB(5F)	

平成29年度来日直後オリエンテーション (C日程)・案								
時間								
7:00 - 8:30		朝食					会場	
9:00 - 9:20		開会式					館	
9:20 - 9:35		休憩・移動						
時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場	時間	SEA分科会	会場
9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(英語)	館	9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(日本語)	あさひ(47F)	9:35 - 9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(英語)	館
9:55 - 10:10	休憩		9:55 - 10:00	休憩		9:55 - 10:10	休憩・移動	
10:10 - 10:55	ALT全体会 「ALTの心得と任用団体が期待すること」	館	10:00 - 10:50	CIRとしての基礎知識 「地方自治体の行政機構」	あさひ(47F)	10:10 - 10:55	SEAの職務について	あけぼの(47F)
10:55 - 11:10	休憩		10:50 - 11:00	休憩		10:55-11:05		
11:10 - 12:00	MEXT「学習指導要領の説明」	館	11:00 - 12:00	CIR業務について 「イベント企画・実施」	あさひ(47F)	11:05-12:00	SEAの基礎スキル	あけぼの(47F)
12:00 - 13:15	昼食					館		
13:15 - 14:15	ALTIに役立つ情報(小中学校)	館(4F)	13:15 - 14:40	CIRとしての基礎スキル 「日本のビジネスマナーの基礎」	あさひ(47F)	13:15-14:45	学校訪問・部活見学	あけぼの(47F)
	ALTIに役立つ情報(高校)	けやき(4F)						
14:15 - 14:30	休憩							
14:30 - 16:15	MEXT「チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画」							
	高校	かつら(4F)						
	中学校	館(4F)						
	小学校	けやき(4F)	14:40 - 14:50	休憩		14:45 - 14:50	休憩	
15:30 - 15:45	休憩		14:50 - 17:15	関連機関訪問	東京都庁	14:50 - 17:15	関連機関訪問	東京都庁
16:30 - 17:15	CLAIR「日本で働く上でのマナー」	館(4F)	歓迎夕食会					
17:15 - 18:30								
18:30 - 20:00								
7:00 - 8:30 朝食								
時間	ALT分科会	会場	時間	CIR分科会	会場	時間	SEA分科会	会場
9:00 - 10:30	パネルディスカッション		9:00 - 10:25	CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	あさひ(47F)	9:00 - 10:30	パネルディスカッション	あさひ(47F)
	小中学校	館(4F)						
	高等学校	けやき(4F)	休憩			10:30-10:40	休憩	
10:30 - 10:45	休憩		10:25 - 10:35	休憩		10:30-10:40	休憩	
10:45 - 11:25	MEXTワークショップ①		10:40 - 11:25	CIR業務について 「学校訪問」	あさひ(47F)	10:40-11:25	SEAのための日本語学習	あけぼの(47F)
	小学校	けやき(4F)						
	中高等学校	館(4F)						
11:25 - 12:40	昼食					館		
12:40 - 13:20	MEXTワークショップ②		12:45 - 14:10	CIRとしての基礎スキル 「通訳」	あさひ(47F)	12:45-15:15	日本における スポーツ指導の現状	あけぼの(47F)
	小学校	けやき(4F)						
	中高等学校	館(4F)	休憩					
13:20 - 13:35	休憩		14:10 - 14:20	休憩				
13:35 - 14:15	MEXTワークショップ③		14:20 - 15:20	CIR業務について 「外国語講座」	あさひ(47F)			
	小学校	けやき(4F)						
	中高等学校	館(4F)						
14:15 - 14:30	休憩		15:20 - 15:30	休憩		15:15 - 15:30	休憩・移動	
14:30 - 15:10	MEXTワークショップ④		15:30 - 16:00	災害に備えて(日本語)	あさひ(47F)	15:30 - 16:00	災害に備えて	館(4F)
	小学校	けやき(4F)	休憩・移動					
	中高等学校	館(4F)	取りまとめ団体別ミーティング					
15:10 - 15:30	休憩		アンケート記入・提出					
15:30 - 16:00	災害に備えて(英語)	館(4F)	朝食					
16:00 - 16:15								
16:15 - 17:05								
17:05 - 17:15								
7:00 - 9:00	朝食							
~11:00	出発							
	コンコードC							

※今後の調整により、研修時間・内容を変更する場合があります。

I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修支援係							
研 修 目 的	各地域において、英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じ、指導力の向上及び確かな知識の習得を図り、その成果を各学校や地域における研修の講師や企画・立案等に活かし、グローバル化に対応する指導者を養成する。							
受 講 対 象	以下の者であって、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者(年齢は平成29年度末現在) ④過去に文部科学省又は教育研修センターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者							
開 催 期 日	別紙のとおり			別紙のとおり				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	20	人	受講者数	23	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

人数 (人)	割合 (%)	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
21	91.3	2	8.7	0	0.0	0	0.0	23
23		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修カリキュラムは、プレゼンを数多くこなしたり意見交換が頻繁に行えたので、英語の指導法の改善及び課題の解決にとっても有意義でした。実際の教科書（日本）を使つての講義もありがたかった。 ・週に1回以上、公開授業や指導案作成などがあり、授業で学んだことをすぐに実施できる環境にあったため、とても効果的な研修カリキュラムであった。 ・大学での授業内容は、教育学的・アメリカについて、4技能それぞれにフォーカスした活動、フィールドトリップなど内容は多岐に渡り豊富であった。 ・大学での授業は、アメリカにおけるESLを学ぶにとどまっていたが、できれば、アメリカと全く状況の違う日本において、どのような指導法が効果的かを考える実践的な研究がしたかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリス・アメリカそれぞれの大学の研修内容を基にして「研修テーマ」を決定したいとの意見から、前年度の研修成果報告書を参加者決定通知時に送付し、テーマ決定の参考として活用してもらった。 ・事前研修会の「研修主題協議・情報共有」に入る前に、自己紹介や顔合わせをする時間があると本来の課題に入りやすいとの意見から、各自自己紹介シートを事前に作成し、大学別「研修主題協議・情報共有」時に配付し、スムーズに協議に入れるようにした。 ・大学研修で、授業が母国教育としての英語教育が中心で、それをどのように日本の教室で応用するかの議論が不足している。また、第二言語習得理論等、第二言語教育や外国語教育専門の講師の講義が増えると良いとの意見から、第二言語として英語を教える教授法等が更に充実するような改善を図った。 ・研究主題を大学研修に入る前に提出してあるが、授業内容に反映されていないとの意見から、研究主題を活用した内容の講義及び主題に向き合う時間を設けるような授業も組み込むように改善した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加決定から事前研修会までの期間が短いと、「研修主題の設定」に係る時間が充分に取れず、研修で取組みたい課題等を絞りきれないとの意見から、英語教育海外派遣研修実施についての通知を12月中旬、参加決定を2月下旬にするよう事務を進める。 ・「研修主題」については、新学習指導要領との関連、どの部分にスポットを当てた研究テーマ・主題にしているのか、項目を明確にすると良いとの意見から、「研修主題の設定理由及び研修成果の活用方策」の様式を改定し、新たに「研修主題と学習指導要領との関連」を記述するように項目を追加する。 ・研修成果報告書は、研修内容の活用事例が核となる。実践された授業の学習指導案を研修成果報告書に別途添付し、指導案集となるようにすると研修成果としての還元構想となるのではないかと意見から、学習指導案の書式設定をすることとした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	12	5/8(月)~9(火) 教職員支援機構 (茨城県つくば市)	6/24(土)~8/21(月)	59	11/9(木)~10(金) 教職員支援機構 (茨城県つくば市)
アメリカ	デンバー大学	11		7/9(日)~9/5(火)	59	
計		23				

I 研修概要

研 修 名	体力向上マネジメント指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	本研修では、校長のリーダーシップの下、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした、各学校や地域の実態等に即した体力向上を図るための手法等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭並びに教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年6月20日（火）～平成29年6月23日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	188	人	参加率	94.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	113	59	0	0	2	14	188
割合 (%)	64.9	33.9	0.0	0.0	1.1	7.4	
	172	98.9					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の教育活動において、「体力向上」という視点が必要なこと、それに向けた取り組みの必要性・重要性を学ぶことができた。 ・体力向上マネジメントの必要性について、指導要領を基に、学校組織マネジメント、カリキュラムマネジメントの手法で体力向上につなげていく手法について深く学べた。 ・新しい学習指導要領が告示されたこのタイミングで、本研修において最新の情報を得られたり、内容を深めたりすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また異校種の取組も聞かせて頂き、勉強になりました。同僚の先生と一緒に（巻き込みながら）カリキュラムマネジメントに取り組んでいきたいと思えます。 ・学校全体の取り組みで体力向上を考えていくためのマネジメントの考え方を学ぶことができよかったです。次年度以降は体力という教育活動を学校全体で行う必要を、他教科や現場の教員が認識していくことが必要であると思うので、対象の教員をより明確に求めていかなければいけないと思います。保体の先生だけでなく、他教科の先生方にもどんどん参加していただきたいと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体をとおした子どもの体力向上を図る研修とするため、マネジメントを中心とする内容に刷新した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体育・保健を中心としたカリキュラム・マネジメント」に関する講義を実施する予定

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度体力向上マネジメント指導者養成研修 日程表

6月20日(火)

10:00		10:30		11:00		12:30		13:30		15:00		15:15		17:00			
第1日目		受付	オリエンテーション	講義1(90分)				昼食	講義2(90分)				休憩	講義3(105分)			
				子供の体力の向上を図るための指導者の役割 スポーツ庁政策課 教科調査官 高橋 修一 ・指導者の役割、学習指導要領改訂のポイントや体力の向上の在り方について理解を深める。					学校組織マネジメントの在り方 国士舘大学 教授 北神 正行 ・学校組織マネジメントの発想・枠組み及び効果的な学校組織マネジメントの在り方について理解を深める。					学校運営におけるカリキュラム・マネジメントの在り方 千葉大学 特任教授 天笠 茂 ・学校運営におけるカリキュラム・マネジメントの役割とその在り方について理解を深める。			

6月21日(水)

9:00		10:00		10:10		11:10		11:20		12:20		13:20		15:10		15:25		17:00		
第2日目	講義4(60分)				講義5(60分)				講義6(60分)				事例発表・協議(110分)				演習1-1(95分)			
	体育活動中の事故防止について 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ・体育活動中に起こりがちな事故の安全かつ適切な指導の在り方について理解を深める。		休憩		適切かつ効果的な幼小における体育的活動の充実と中高における運動部活動の推進について 桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊 ・体罰の根絶・科学的な指導内容や方法等の基本的な考え方や留意点を学び、適切かつ効果的な活動の在り方について理解を深める。		休憩		学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 日本女子体育大学 特任教授 畑 攻 ・学校全体で取り組む体力向上のマネジメントの在り方について理解を深める。		昼食		学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの実践と課題 【幼稚園部会】 名古屋学院大学 准教授 中野 貴博 昭島市教育委員会 指導主事 美越 英宣 <発表者> 東郷町施設サービス株式会社 TIS健康事業部長 果立 隆宏 【小学校部会】 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 北九州市教育委員会 指導主事 辻 健一郎 <発表者> 東京都大田区池雪小学校 主任教諭 原田 宏之 教諭 小笹 周矢 【中学校部会】 群馬大学 准教授 鬼澤 陽子 高槻市教育委員会 副主幹 岩佐 知美 <発表者> 石川県立金沢市立浅野川中学校 教諭 酒井 博長 【高等学校部会】 順天堂大学 准教授 鈴木 宏哉 石川県立工業高等学校 教諭 石川 貴之 <発表者> 茨城県教育委員会 保健体育課 指導主事 栗山 貴浩 ・学校全体で体力向上を推進するための効果的な組織マネジメント及びカリキュラム・マネジメントの在り方について、先行事例の取組を通じてその方法と課題について理解を深める。				学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 【幼稚園部会】 名古屋学院大学 准教授 中野 貴博 昭島市教育委員会 指導主事 美越 英宣 【小学校部会】 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 北九州市教育委員会 指導主事 辻 健一郎 【中学校部会】 群馬大学 准教授 鬼澤 陽子 高槻市教育委員会 副主幹 岩佐 知美 【高等学校部会】 順天堂大学 准教授 鈴木 宏哉 石川県立工業高等学校 教諭 石川 貴之 ・学校全体で体力向上を推進するための効果的な組織マネジメント及びカリキュラム・マネジメントの在り方について、班別演習を通じて理解を深める。			

6月22日(木)

9:00		12:00		13:00		17:00			
第3日目	演習1-2(180分)				昼食	演習1-3(240分)			
	学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 【幼稚園部会】 名古屋学院大学 准教授 中野 貴博 昭島市教育委員会 指導主事 美越 英宣 【小学校部会】 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 北九州市教育委員会 指導主事 辻 健一郎 【中学校部会】 群馬大学 准教授 鬼澤 陽子 高槻市教育委員会 副主幹 岩佐 知美 【高等学校部会】 順天堂大学 准教授 鈴木 宏哉 石川県立工業高等学校 教諭 石川 貴之					学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 【幼稚園部会】 名古屋学院大学 准教授 中野 貴博 昭島市教育委員会 指導主事 美越 英宣 【小学校部会】 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 北九州市教育委員会 指導主事 辻 健一郎 【中学校部会】 群馬大学 准教授 鬼澤 陽子 高槻市教育委員会 副主幹 岩佐 知美 【高等学校部会】 順天堂大学 准教授 鈴木 宏哉 石川県立工業高等学校 教諭 石川 貴之			

6月23日(金)

9:00		12:00		13:00		14:30			
第4日目	演習2(180分)				昼食	講義7(90分)			
	部会別演習の成果発表 ・部会別演習での成果について、代表班による発表を通じ、体力向上を推進するための効果的な組織マネジメント及びカリキュラム・マネジメントの在り方について理解を深める。					子供の体力の向上を図るための指導者として～研修講師・企画者としての心構えと留意点 スポーツ庁政策課 教科調査官 高橋 修一 ・研修内容を振り返るとともに、研修講師等として活動するために留意すべきポイントを整理する。			

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実等について、必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各学校や地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年9月19日（火）～平成29年9月22日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	245	人	参加率	122.5%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	219	23	0	0	3	0	245
割合 (%)	89.4	9.4	0.0	0.0	1.2	0.0	
	242	98.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習とバランスよく組んでいただき、知識の習得、授業、研修会の立案ができるような研修であった。 ・保健主事としての役割や研修の進め方など、大変勉強になった。演習が多く、主体的に学ぶことができた。特に指導案検討では様々な意見が出て良かった。 ・他県の学校の様子なども聞くことができ、執務上の違いはありますが、子供たちの健康のためにグループで討議して意見を交わし、健康教育のためのよりよい方法を考えていく時間がとても充実していました。 ・毎日がアクティブ・ラーニングで、いつも頭をフル回転させて、とても楽しかったです。立場の違う先生方と1つの目的に向けて討論できたのは、本当に良い経験になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習4について、救急処置と児童虐待の2テーマを設定し、受講者が希望するテーマを受講できるようにした。 ・①部会について、「心の健康」、「医薬品・喫煙・禁酒・薬物乱用」、「現代的な疾病の予防」の3課題を設定し、受講者が希望する課題で演習に取り組めるようにした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容の高度化を図るため、実施要項に、指導案を作成する演習を含むことをあらかじめ明記することを検討。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度健康教育指導者養成研修 日程表

9/19 (火) 第1日目	受付	オリエンテーション 開講式	9:00	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
			講義1 (55分)	講義2 (55分)	講義3 (55分)	講義4 (55分)	講義・演習1 (105分)							
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方	保健管理の在り方	保健教育の在り方	学校保健マネジメント	子供の心のケア							
			◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する	◎目的: 保健管理は、学校保健安全法等により規定されており、全職員の共通理解のもとに実施されるものであることを理解する。	◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める	◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める	◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルス及び発達障害等に関する現状を理解するとともに、その対応方法について学ぶ							
			スポーツ庁 教科調査官 森 良一	文部科学省 健康教育調査官 松崎 美枝	横浜国立大学 准教授 物部 博文	筑波大学 教授 柳沢和雄 福岡県教委 甲斐田 修	FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男							

9/20 (水) 第2日目	受付	部会別演習	8:15	8:30	12:00	13:00	17:00
			講義・演習2-1 (210分)	講義・演習2-2 (240分)			
			①保健教育の在り方	①保健教育の在り方			
			◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ	◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ			
			心の健康 横浜国立大学 准教授 物部 博文 愛知県鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 医薬品・喫煙、文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 青森県平内町立小湊小学校 教頭 越田 強 現代的な疾病 東海大学 教授 岡崎 勝博 の予防 栃木県教育委員会 指導主事 吉川 真弓	心の健康 横浜国立大学 准教授 物部 博文 愛知県鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 医薬品・喫煙、文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 青森県平内町立小湊小学校 教頭 越田 強 現代的な疾病 東海大学 教授 岡崎 勝博 の予防 栃木県教育委員会 指導主事 吉川 真弓			
			②学校保健マネジメント	②学校保健マネジメント			
			◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ			
			筑波大学 教授 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修	筑波大学 教授 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修			
			③保健管理の在り方(健康観察の実際)	③保健管理の在り方(学校における児童生徒の健康課題解決の基本的な進め方)			
			◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ	◎目的: 学校における児童生徒の健康課題解決の基本的な進め方(教職員等の果たす役割、組織での支援等)について学ぶ			
			名古屋市教育委員会 主任指導主事 山口 純枝	びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科 特任准教授 岩崎 信子			

9/21 (木) 第3日目	受付	部会別演習	8:15	8:30	11:30	12:30	15:00	15:15	17:00
			講義・演習2-3 (180分)	講義・演習2-4 (150分)	講義・演習3 (105分)				
			①保健教育の在り方	①保健教育の在り方	①保健教育の在り方				
			◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ	◎目的: 課題別演習の成果発表を通じて、保健教育について理解を深める	◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める				
			心の健康 横浜国立大学 准教授 物部 博文 愛知県鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 医薬品・喫煙、文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 青森県平内町立小湊小学校 教頭 越田 強 現代的な疾病 東海大学 教授 岡崎 勝博 の予防 栃木県教育委員会 指導主事 吉川 真弓	心の健康 横浜国立大 物部 博文 鳴海高校 丸山 洋生 医薬品・喫煙、文部科学省 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 小湊小学校 越田 強 現代的な疾病 東海大学 岡崎勝博 の予防 栃木県教委、吉川真弓	学校における感染症対策の在り方				
			②学校保健マネジメント	②学校保健マネジメント	②学校保健マネジメント				
			◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ	◎目的: 部会別演習における成果発表を通じて望ましい組織体制についての理解を深める	◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める				
			筑波大学 教授 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修	筑波大学 柳沢 和雄 福岡県教育委員会 指導主事 甲斐田 修	社会福祉法人 恩師財団 済生会支部 大阪府済生会中津病院 臨床教育部部長兼感染管理室室長 安井 良則				
			③保健管理の在り方(事例検討会の進め方)	③保健管理の在り方(疾病管理)	③保健管理の在り方(疾病管理)				
			◎目的: 学校における事例検討会の進め方や指導助言のあり方を学ぶ	◎目的: 学校における疾病管理と地域の関係機関との連携について学ぶ	◎目的: 学校における疾病管理と地域の関係機関との連携について学ぶ				
			【小学校】滋賀県長浜市立神照小学校 校長 伊部 加代 【中学校】高知県安芸市立井ノ口小学校 校長 大城 由美 【高等学校】跡見学園女子大学 教授 松崎 くみ子	公益財団 日本学校保健会 専務理事 弓倉 整					

9/22 (金) 第4日目	受付	部会別演習	8:15	8:30	11:45	12:45	15:00	15:15
			講義・演習4 (195分)	講義・演習5 (135分)				
			A.学校における救急処置に関する研修の在り方	健康教育の指導者として				
			◎目的: 学校における救急処置に関する校内研修の企画や、シミュレーションによる研修の進め方について学ぶ	◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める				
			兵庫県姫路市立高浜小学校 養護教諭 三村 理加	文部科学省 健康教育調査官 松崎 美枝				
			B.児童虐待への対応					
			◎目的: 児童虐待への気づきのポイント、その後の対応、支援について事例を通して学ぶ					
			児童心理治療施設 静岡県立吉原林間学園 治療指導課長兼治療班長 市原 真記					

I 研修概要

研 修 名	食育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県及び市町村教育委員会の指導主事等であって、食に関する指導を担当する者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 栄養教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年10月10日（火）～平成29年10月13日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	141	人	参加率	117.5%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	125	15	1	0	0	0	141
割合 (%)	88.7	10.6	0.7	0.0	0.0	0.0	
	140	99.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・専門的に学ぶことができ、かつ演習では実践につながる計画・授業の工夫について考えることができ、大変有意義な研修でした。 ・栄養教諭だけでなく指導主事の先生等、多職種の方が集まって同じ目標に向かって研修できたことは、大変有効であった。 ・研修で学んだことを栄養教諭等の研修で伝え、魅力のある食育を推進できるように努力したい。食育は“楽しい”ものだとこのことを大切にしていきたい。 ・いつもは現場があるため慌しく、このようにじっくりと全体計画から指導案まで向き合うことがなかったので、大変有意義な時間でした。また、一人職種のため、仲間とともに1つのものを作り上げられたことも、心強さや苦しさの中の楽しさを知る機会となりました。 ・指導案について、食育の視点や観点、評価規準についてじっくり学ぶことができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の学びをより深くするために、部会の分け方、発表方法を変更した。 ・教諭と栄養教諭、指導主事をバランスよくグループ分けすることで、それぞれの職についての課題を共有して解決を図れるようにした。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントについて理解し、教科横断的な視点から食育を捉えることができるよう、「体育、保健体育」「家庭」「総合的な学習の時間」「特別活動」についてすべての教科領域の食育に関わる指導のポイントの講義を受講者全員が参加できるようにする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度食育指導者養成研修 日程

10月10日(火)	9:00	受付	オリエンテーション	10:00	11:10	11:20	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
			講義1 学校における食育の推進 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋 剛 ◎学校における食育の果たす役割や食育を推進するための基本的な考え方を理解する	休憩	講義2 学校給食を活用した食育の推進 文部科学省初等中等教育局 学校給食調査官 齊藤 るみ	昼食・休憩	講義3 食に関する指導に係る全体計画の作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋 剛 ◎食に関する指導に係る全体計画について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める	休憩	演習1 各学校や地域の実情に応じた「食に関する指導に係る全体計画」の作成 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋 剛 ◎班別演習を通して、自己の学校や地域の実情を踏まえた「全体計画」の在り方について知る		
10月11日(水)	8:30	受付	講義4 カリキュラム・マネジメントの進め方 甲南女子大学 教授 村川 雅弘 ◎新学習指導要領の趣旨に基づき、食育推進のためのカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00	
			講義5-1 各教科等における食に関する指導のポイント ◎総合的な学習の時間 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 渋谷 一典 ◎特別活動 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 安部 恭子 ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	休憩	講義5-2 各教科等における食に関する指導のポイント ◎家庭、技術・家庭 横浜国立大学 教育学部長 杉山 久仁子 ◎体育、保健体育 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 森 良一 各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	昼食・休憩	講義6 食を推進するための指導者として 文部科学省 初等中等教育局 食育調査官 横嶋 剛 研修内容をふりかえり、指導者として必要な内容を整理する	演習2【班別別】 各教科等における食に関する指導についての検討 ◎家庭、技術・家庭 水戸市立城東小学校 教頭 猪野 典子 ◎体育、保健体育 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 上園 竜之介 ◎総合的な学習の時間 愛知淑徳大学文学部 准教授 加藤 智 ◎特別活動(学級活動) 藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦			
10月12日(木)	8:30	受付	演習3【班別別】 各教科等における食に関する指導についての検討 ◎家庭、技術・家庭 水戸市立城東小学校 教頭 猪野 典子 ◎体育、保健体育 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 上園 竜之介 ◎総合的な学習の時間 愛知淑徳大学文学部 准教授 加藤 智 ◎特別活動(学級活動) 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 ◎班別演習をとおして、各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深める	12:00	13:00	14:30	15:00	17:00			
			演習4 「家庭、技術・家庭科」、「体育、保健体育科」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」における「食に関する指導例」の発表 ◎家庭、技術・家庭 水戸市立城東小学校 教頭 猪野 典子 ◎体育、保健体育 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授 上園 竜之介 ◎総合的な学習の時間 愛知淑徳大学文学部 准教授 加藤 智 ◎特別活動(学級活動) 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 ◎各教科等における食に関する指導の在り方について、理解を深める	12:20	13:20	14:30	17:00				
10月13日(金)	8:30	受付	閉講式	14:30	17:00						

I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における生活安全・交通安全・災害安全に関し、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の園長、副園長、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年9月11日（月）～平成29年9月15日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	167	人	参加率	104.4%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	146	15	0	0	4	2	167
割合 (%)	88.5	9.1	0.0	0.0	2.4	1.2	
	161	97.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校事故被害事例報告での遺族の方の話は、非常に心を痛めた。命より重いものはないことをしっかりと受け止め、学校で研修を実践できるように、自分自身スキルアップを図っていききたい。 ・学校安全について多くの知見を得ることができると共に、演習ではこれから自校で学校安全計画を作成したり、実践したりするための手法や考え方を身につけることができた。 ・学校安全計画を地域・学校の実態に合ったもの、教科横断的な視点でじっくり見直し、作成する作業を通して”わがこと感”の大切さがわかった。このことをぜひ、周知していきたい。 ・教諭や教頭という立場の方々、指導主事の方々と構成された班での研修は、自分の認識等を広げ、現状を見つめる大変有意義な機会だった。また、今後の実践交流も行い、互いに高め合えることに感謝したい。 ・講義も素晴らしかったが、チーム内での実践交流・他校種・他県との実践交流がとても有意義でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全領域」に関わる具体的な指導方法について、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校種別に演習を行った。 ・学校安全にかかるカリキュラム・マネジメントの講義を行い、学校全体で取り組む学校安全の年間指導計画の作成に教科横断的な視点を取り入れることを図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種別の協議時間の充実を図り、「交通安全」「生活安全」「災害安全」の各領域の指導体制や具体的な指導方法について充実を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度学校安全指導者養成研修 日程表

第1日

9月11日(月)	受付	開講式・オリエンテーション	講義1 「学校安全の現状と課題 研修の全体構成説明」 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:学校安全の現状等について理解するとともに、本研修の全般的構成について理解する。	休憩	講義2 「学校安全の基礎」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。	屋食・休憩	講義・演習1 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について(学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手大学 准教授 森本 晋也 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種ごとに情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導するための指導者としてのポイントを整理する。
----------	----	---------------	---	----	--	-------	--

第2日

9月12日(火)	講義・演習2 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について(学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手大学 准教授 森本 晋也 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種ごとに情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導するための指導者としてのポイントを整理する。	屋食・休憩	講義・演習3 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について(学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手大学 准教授 森本 晋也 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種ごとに情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導するための指導者としてのポイントを整理する。
----------	--	-------	--

第3日

9月13日(水)	講演1 学校事故事例報告① ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	休憩	講演2 学校事故事例報告② ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	休憩	講義3 第2次学校安全の推進に関する計画について 文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:講演を踏まえ、今後の学校安全の推進方策について理解する。	屋食・休憩	講義・演習① 「災害安全危機管理体制の現状と課題」 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 大川小事故検証の講演:80分 質疑応答:10分 ノンテクニカルスキルの解説:15分 クロスロード体験:35分 ◎目的:災害安全危機管理体制の現状と課題について講義・演習等を通して理解を深める。	休憩	講義4 「カリキュラム・マネジメントとは」 千葉大学 特任教授 天笠 茂 ◎目的:「学校安全計画」を作成するに当たり、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。
----------	--	----	--	----	---	-------	---	----	---

第4日

9月14日(木)	演習② 「学校安全計画」の作成～安全教育に関する年間指導計画作成～ ◎目的:各講義・演習の内容を共有するとともに、「学校安全計画」の作成を通して、安全に関する指導のカリキュラム・マネジメントについて理解する。	屋食・休憩	演習③ 「学校安全計画」の作成～安全教育に関する年間指導計画作成～ ・部会内発表と代表班決定 ◎目的:各講義・演習の内容を共有するとともに、「学校安全計画」の作成を通して、安全に関する指導のカリキュラム・マネジメントについて理解する。	休憩・移動	・振り返り
----------	---	-------	---	-------	-------

第5日

9月15日(金)	演習④ 「学校安全計画」の作成と研修企画 ・代表班の発表と講評 ・研修企画 ◎目的:学校種ごとの班により作成した「学校安全計画」の発表を通して、情報や課題の共有を図る。また、作成した「学校安全計画」を踏まえ、地域の実態等に応じた研修企画の立て方について理解する。	休憩	講義5 学校安全教育を推進するリーダーとして 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:研修全体を振り返り、安全教育の推進者としての自覚を促す。	屋食・休憩	閉講式
----------	--	----	--	-------	-----

I 研修概要

研 修 名	言語活動指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課 調査企画係							
研 修 目 的	学習指導要領に基づいて、児童生徒の発達の段階を踏まえた言語能力の育成を図るために、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じた言語活動の充実に向けて取り組むべき方策や最新の情報について必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等（特に研究主任や研修主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年10月10日（火）～平成29年10月13日（金）					4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	157	人	参加率	98.1%
開 催 場 所	秋田県総合教育センター（秋田県潟上市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	142	15	0	0	0	0	157
割合 (%)	90.4	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実の大切さを実感することができました。早速、学校に戻って日々の授業や教育課程の中にしっかり位置づけていく方策を考えていきたいと思います。グランドデザインは、校長からおろされるものではなく、全職員で、枠の中に何をかくべきかから検討していくことに意義があると分かりました。 ・3・4日目のカリキュラム作成を通して、学校全体（職員全体）で学校のスタンスを共有するためには、活動を通して、様々なアイディアを出し合うことが大事だと確認することができた。また、成果物は、土台として活用できるものに仕上がったので、所属校で、機会をとらえ、提案等できればいいと考えている。 ・教諭という立場で参加だったが、指導主事の立場の方の“生”の声が聞けてよかった。指導助言のポイントのおさえ方がさすが上手で、よく分かった。移行措置に入る前に研修に参加できてよかった。やはり、言語活動の充実はとても重要であり、その必要性を改めて確認することもでき、また、現場の先生方に伝えたいと思った。 ・言語活動の充実が図られている意図等、本質の部分を教えていただいた上で、学校での実際の授業を参観させていただいた事で、視点をもって授業を見る事ができた。また、言語活動の充実の視点から、学習指導計画を作成する事で、理論と実践をつないで考える事ができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の一環として、昨年度に引き続き、秋田県にて実施し、具体的な言語活動の充実を実践した授業の視察をした。 ・実施要項・日程表において、次期学習指導要領の示された内容に沿った講義・演習の内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修初日に学校視察し、その後、協議のスケジュールを行う。 ・主体的、対話的、深い学びのツールとしての言語活動の充実したコマを作る。 ・研修企画案を協議するコマを作る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成29年度言語活動指導者養成研修 日程表

		両コース共通				
		13:50	14:20	14:50	15:50 16:00	17:00
10月10日(火)	10月11日(水)	受付	開講式	オリエンテーション	休憩	講義 「新学習指導要領における言語活動の充実について」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室長 白井 俊
10月11日(水)		受付	講義 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局 視学官 大滝 一登	講義 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局 視学官 大滝 一登	休憩	講義 「新学習指導要領及び新学習指導要領における言語活動について理解を深める。」 ◎目的 新学習指導要領及び新学習指導要領における言語活動について理解を深める。

		両コース共通					
		8:30	10:00 10:15 10:30 10:45	11:50	13:00 13:30	17:00	
10月11日(水)	10月12日(木)	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ・小学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 菊池 英慈 ・中学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 杉本 直美 ・高等学校部会 文部科学省初等中等教育局 視学官 大滝 一登	事前説明及び事前協議 「言語活動の充実による授業改善の在り方について」 移動・休憩 全体説明 秋田県教育庁義務教育課 秋田県教育庁高校教育課	授業研究会及び協議 「言語活動の充実による授業改善について」 小学校：潟上市立追分小学校 中学校：潟上市立天王南中学校 高等学校：秋田県立秋田高等学校 秋田県教育庁義務教育課 秋田県教育庁高校教育課	移動 ※移動する学校により、移動の開始時刻は若干異なります。	移動 ※移動する学校により、移動の開始時刻は若干異なります。	
10月12日(木)		受付	移動・休憩	移動・休憩	移動	移動	

		コース別演習					
		8:30	12:00	13:00	17:00		
10月12日(木)	10月13日(金)	受付	【各教科等の学習指導計画作成コース】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課	【言語活動の充実を位置づけたカリキュラム・マネジメントのプラン作成コース】 〔初等分科会〕金沢大学 富土市立吉永第二小学校 校長 折川 弘志 教授 中村 弘志	【中等分科会】 横浜国立大学 横浜国立大学附属鎌倉中学校 神奈川県教育局指導部高校教育課 指導主事 高木 展郎 米持 正伸 松澤 直子	休憩	
10月13日(金)		受付	【各教科等の学習指導計画作成コース】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課 文部科学省初等中等教育局教育課程課	【国語】 【国語】 【国語】 【社会】 【算数】 【数学】	【国語】 【国語】 【国語】 【社会】 【算数】 【数学】	休憩	

第 4 日 目	10 月 13 日 (金)	8:30	コース別演習	11:30	12:30	14:00	14:15
	受 付	全体会 「コース別演習の発表」 講師：コース別演習の担当講師	休 憩	講義及び協働 「言語活動を推進するリ ーダーとなるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 杉本 直美	閉 講 式		

◎目的：第3日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充
実方策について理解を深める。

◎目的：各自が本研修の成果等及び
授業研究会における講師を
通して、研修講師となるた
めの知識・方法等を得るす
るとともに知見を深める。

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開催期日	平成29年5月15日（月）～平成29年5月19日（金）					5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	258	人	参加率	129.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	235	20	0	0	3	0	258
割合 (%)	91.1	7.8	0.0	0.0	1.2	0.0	
	255						
	98.8						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・どの講義・演習も身になるもので、これから様々な場所で広げていこうと思います。また、今回の研修を自分のものになるように再度学び直しをしていきたいと思っています。 ・道徳教育についてじっくりと考えることのできる大変有意義な時間（週間）となりました。「道徳科」について、また、指導要領改訂の経緯も含め、とても分かりやすく学ぶことができました。地域に戻り、存分に教えて頂いたことを発信したいと思っています。 ・講義はもちろんだが、たくさんの研修生の先生方と対話したり、協働的に指導案を作成したりすることで、道徳教育の在り方・道徳の授業づくりについて学ぶことができました。本研修をきっかけとし、今後も道徳教育について学び続けていきたい。今後の指導・助言に生かしていきたい。 ・教科化される道徳の授業、評価について、確認することができました。今、現場の先生方が知りたいことや、また、困っていることに対して行政の立場で、しっかり応えていきたいです。調査官との交流・他都道府県の方々との交流、とても有意義な研修となりました。これから、道徳推進のために頑張っていきたいと思っています。 ・来週から早速校内研究会の指導助言があります。参加することで助言の視点、授業を見る視点等が理解できたと思います。もう一度自分の中にかみ砕いて、より理解を深めたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 ・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 ・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）

日程表

【1日目】	9:00	9:30	10:00	11:30	11:40	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
		受付	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 主任学校教育官 小野 賢志	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 浅見 哲也 文部科学省初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 澤田 浩一	屋食・休憩	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 浅見 哲也 文部科学省初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 澤田 浩一	休憩	演習1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題－情報交換・課題の共有－」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	
5月15日(月)										

【2日目】	8:30	10:50	11:00	12:30	13:30	15:20	15:30	17:00
	受付	事例発表・協議・講義 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」【授業づくりの要点1】 〈講師〉 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子 〈事例発表〉 京都市立松陽小学校 校長 前田 学	講義2 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」【授業づくりの要点2】 帝京大学大学院 教授 赤堀 博行	屋食・休憩	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：京都市立光徳小学校 教頭 岩岡 洋史 中学校：豊島区立西池袋中学校 主幹教諭 楠川 希三子	休憩	【小・中学校部会】 講義3口 「特別の教科「道徳」の実施に向けた指導と評価」 【授業づくりの要点3】 帝京大学大学院 教授 赤堀 博行 ◎目的：「特別の教科「道徳」の実施に向けて指導方法と評価について理解する」 【高等学校部会】 講義3口 「高等学校における道徳教育の充実に向けて」 国立音楽大学 教授 及川 良一	◎目的：道徳的実践の場としての特別活動の実践から、特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解を深める
5月16日(火)								

【3日目】	8:30	9:25	9:35	10:45	11:00	12:30	13:30	15:55	16:10	17:00
	小・中学校部会	受付	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり(体験活動、「わたし(私)たちの道徳」の生かし方も含めて)ー協議・課題解決策の検討ー」 【授業づくりの要点4】 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深め、課題とその解決策を探る	休憩	講義4 「『道徳の授業』の充実を図るために」【授業づくりの要点5】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的：「道徳の授業」について理解を深め、授業改善への視座を得る。	屋食・休憩	演習3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価ー協議・課題解決策の検討ー」 【授業づくりの要点6】 ◎目的：魅力的な教材の開発と活用等、「道徳の授業」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る	休憩	演習3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価ー協議・課題解決策の検討ー」 【授業づくりの要点6】 ◎目的：魅力的な教材の開発と活用等、「道徳の授業」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る	17:00
5月17日(水)	8:30	10:00	10:15	11:30	12:30	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00
	高等学校部会	受付	演習4 「人間としての在り方生き生き方に関する教育の展開」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き生き方に関する教育の実践と課題」 群馬県立渋川青翠高等学校 教諭 寺島 寿 ◎目的：具体的事例を通して、高等学校における道徳教育の充実に向けた新たな視点と学びとともに、課題をもつ	屋食・休憩	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き生き方に関する教育の展開ー協議・課題解決策の検討ー」 <指導助言者> くらしき作陽大学 群馬県立大間々高等学校 広島経済大学経済学部教養学部 准教授 ◎目的：全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休憩	演習3 「人間としての在り方生き生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践ー協議・課題解決策の検討ー」 教授 秋山 博正 教諭 飯塚 秀彦 准教授 胤森 裕暢	17:00
5月18日(木)	8:30	8:40	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00	17:00	17:00	17:00
	小・中学校部会	受付	演習4-1 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅰー学習指導案の作成・検討ー」 ◎目的：「道徳の授業」における学習指導案作成等に取り組み、創意工夫を生かした授業づくりや各学校・地域における指導助言の在り方について学ぶ <演習4-1・4-2指導助言者> 大田区教育委員会指導課 指導主事 中治 謙一 葛飾区教育委員会指導室 指導主事 田中 博 聖徳大学大学院職域研究科 教授 吉本 恒幸 元東京家政学院大学 教授 秋山 博正 北区立飛鳥中学校 校長 飯塚 秀彦 豊島区立西池袋中学校 校長 胤森 裕暢	屋食・休憩	演習4-2 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅱー模擬授業の発表・協議ー」 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、創意工夫を生かした「道徳の授業」や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める	会場準備	演習4-2 「人間の在り方生き生き方に関する教育の事例の発表・協議ー」 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、創意工夫を生かした「道徳の授業」や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める	休憩	演習4-2 「人間の在り方生き生き方に関する教育の事例の発表・協議ー」 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、創意工夫を生かした「道徳の授業」や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める	17:00

【4日目】	8:30	9:25	9:35	10:45	11:00	12:30	13:30	15:55	16:10	17:00
	小・中学校部会	受付	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり(体験活動、「わたし(私)たちの道徳」の生かし方も含めて)ー協議・課題解決策の検討ー」 【授業づくりの要点4】 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深め、課題とその解決策を探る	休憩	講義4 「『道徳の授業』の充実を図るために」【授業づくりの要点5】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的：「道徳の授業」について理解を深め、授業改善への視座を得る。	屋食・休憩	演習3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価ー協議・課題解決策の検討ー」 【授業づくりの要点6】 ◎目的：魅力的な教材の開発と活用等、「道徳の授業」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る	休憩	演習3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価ー協議・課題解決策の検討ー」 【授業づくりの要点6】 ◎目的：魅力的な教材の開発と活用等、「道徳の授業」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る	17:00
5月18日(木)	8:30	8:40	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00	17:00	17:00	17:00
	高等学校部会	受付	演習4-1 「人間の在り方生き生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の改善策・展開例の検討ー」 <指導助言者> くらしき作陽大学 群馬県立大間々高等学校 広島経済大学経済学部教養学部 ◎目的：全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る	屋食・休憩	演習4-2 「人間の在り方生き生き方に関する教育の事例の発表・協議ー」 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、創意工夫を生かした「道徳の授業」や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める	会場準備	演習4-2 「人間の在り方生き生き方に関する教育の事例の発表・協議ー」 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、創意工夫を生かした「道徳の授業」や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める	休憩	演習4-2 「人間の在り方生き生き方に関する教育の事例の発表・協議ー」 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、創意工夫を生かした「道徳の授業」や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める	17:00

【5日目】

5	8:30	<p style="text-align: center;">休憩</p>	11:30	12:30	15:00
5月19日(金)	受付	<p>演習 4-3 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅲ」代表班一代表班による模擬授業の発表・協議一」</p> <p>文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也</p> <p>文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一</p> <p>(小中部会)◎目的：各分科会の代表班が模擬授業を行い、「道徳の授業」の充実に向けた指導の展開方策や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める (高校部会)◎目的：小・中学校における「道徳の授業」の実際について理解を深める</p>	<p style="text-align: center;">昼食・休憩</p>	<p>講義 5 「道徳教育を推進するリーダーとして」</p> <p>文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也</p> <p>文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一</p> <p>◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める</p>	<p style="text-align: center;">閉講式</p>

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者 当機構と連携協定を締結している教職大学院等の学生							
開催期日	平成29年8月28日（月）～平成29年8月30日（水）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	116	人	参加率	116.0%
開催場所	ホテルメトロポリタン盛岡（岩手県盛岡市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	99	15	0	0	1	1	116
割合 (%)	86.1	13.0	0.0	0.0	0.9	0.9	
	114	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・正直、道徳に対して及び腰だった3日前でしたが、分かりやすく、具体的・実践的な内容で、自信ができました。自分で伝講した時、初めて本当に力になるとは思いますが、推進役として、多くの先生に道徳で子どもを変えていきたいと思ってもらえるよう、この3日間で得たことを伝えたいです。 ・道徳教育の大きな流れのお話から、実際の演習も入れていただいて、とてもわかりやすく助かりました。大事なところ、評価については繰り返し出して頂き、理解できました。今後、どう生かしていくか、しっかり伝えられるように努めたいと思います。 ・とても楽しくて仕方ありませんでした。道徳を推進する立場にならせて頂いたことに「使命感」と共に「教師になったことや生きている喜び」に繋がります。評価等について「光」が見え、他の先生との関わりから「自信」を得ました。もっともっと勉強したい、もっと道徳を広げたい、と思いました。 ・高校における道徳教育の充実を目指すためには、小・中での取組を理解することが不可欠。そういう意味では、道徳の教科化という新しい流れの中で、小・中・学校段階でどのような指導がなされてくるのか、その理念や実践事例を学ぶ良い機会となった。今後は道徳教育の視点をもとに、学校全体の在り方や授業改善等に取り組み、本研修会での成果を活かしていきたいと考えている。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 ・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 ・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【北海道・東北ブロック】

日程表

8月28日(月)	9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」	昼食・休憩	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
					文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 梶濱 真	休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
						休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
						講義1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」	休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	14:00	15:40	15:50	17:00
						休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
						事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」	休 憩	盛岡市立河北小学校 教諭 加美山 悦子 中学校：久慈市立長内中学校 教諭 藤森 崇浩	14:00	15:40	15:50	17:00
								◎目的：実践事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	14:00	15:40	15:50	17:00

8月29日(火)	9:00	10:00	10:10	11:40	12:40	12:45	13:30	14:45	15:30	15:40	17:00	
		受付	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた指導と評価」	講義(小・中②) 「『道徳の授業』の充実を図るために」	昼食・休憩	講義2 「『道徳の授業』の指導の工夫—学習指導案の作成・検討—」	休 憩	14:45	15:30	15:40	17:00	
			帝京大学大学院 教授 赤堀 博行	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	14:45	15:30	15:40	17:00	17:00	
			◎目的：『特別の教科 道徳』の実施に向けて、指導方法と評価について理解する。	◎目的：『道徳の授業』について理解を深め、授業改善への指針を得る	14:45	15:30	15:40	17:00	17:00	17:00	17:00	
					◎目的：『道徳の授業』における学習指導案の作成及び部委内で発表を行うことを通じて、前職工夫をかけた授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	14:45	15:30	15:40	17:00	17:00	17:00	
						事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」	休 憩	岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 田代 英樹 県南教育事務所 指導主事 正木 啓一 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 小松山 浩樹 岩手県立総合教育センター 研修指導主事 早川 真之	14:45	15:30	15:40	17:00
						講義2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」	休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小泉 博明	14:45	15:30	15:40	17:00
						◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の検討及び発表を通して、道徳教育を充実するための知識・方法を習得	14:45	15:30	15:40	17:00	17:00	

8月30日(水)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
		受付	講義2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」	講義3 「道徳教育の効果的な推進策—研修プランの作成—」	昼食・休憩	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」	閉 講 式	17:00
			文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	休 憩	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一		17:00
			◎目的：道徳的実践の学習活動の場としての特別活動の実践から、特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	◎研修成果の全体を理解するとともに、講習成果の生かし方について理解を深める	17:00	17:00		17:00
						◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる		17:00

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者 当機構と連携協定を締結している教職大学院等の学生							
開催期日	平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	132	人	参加率	132.0%
開催場所	ホテル信濃路（長野県長野市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	105	25	0	0	2	0	132
割合 (%)	79.5	18.9	0.0	0.0	1.5	0.0	
	130						
	98.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳が教科化するにあたって疑問だったところやつかえていたことが、とてもすっきりしました。内容や目標、指導方法の工夫、評価を様々な見方から教えていただき、とても有意義でした。自分が理解したことを広めていけるようにしたいと思います。 ・教科化に向け、どんな風に考えていけばよいか分からなかった現状だったが、考え方を明確にすることができました。 ・恥ずかしいくらいに自分が道徳科に対して不勉強だったことを思い知らされた3日間だった。しかし、3日間の講義や演習を通して、我々教師がしっかりと道徳に向き合い、子どもたちに道徳性を育てていく必要性を感じることができた。ここで研修したことはこの3日間で終わりにするのではなく、H30の教科化に向けて、校内をはじめ、他校にも広めていきたいと思っている。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 ・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 ・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【関東・甲信越ブロック】

日程表

9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
	受付	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」	講義1 「道徳教育の現状と課題について」	演習1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」	休 憩	休 憩	休 憩	
8月7日（月）	文部科学省 初等中等教育局 主任学校教育官 小野 賢志	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也	長野市立通明小学校 教諭 宮下 尊教 上田市立第三中学校 教諭 召田 幸司
			◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	◎目的：「道徳の授業」について理解を深め、授業改善への指路を得る	◎目的：「道徳の授業」の指導の工夫—学習指導案の作成・検討—について理解を深める	◎目的：実践事例から、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題をもつ	◎目的：実践事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ				

9:00	10:00	10:10	11:40	12:40	12:45	12:45	15:30	15:40	17:00
受付	講義（小・中①） 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた指導と評価」	休 憩	講義（小・中②） 「『道徳の授業』の充実を図るために」	昼食・休憩	演習2 「『道徳の授業』の指導の工夫—学習指導案の作成・検討—」	演習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」	演習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」	演習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」	
小・中学校部会	秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威		文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 浅見 哲也		北信教育事務所 指導主事 野田 久美子 中信教育事務所 指導主事 下條 拓也 東信教育事務所 指導主事 高柳 司 南信教育事務所 指導主事 宮下 健治	群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦	群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦	群馬県立大間々高等学校 教諭 飯塚 秀彦	
	◎目的：「特別の教科 道徳」の実施に向けて、指導方法と評価について理解する。		◎目的：「道徳の授業」について理解を深め、授業改善への指路を得る		◎目的：「道徳の授業」における学習指導案の作成及び部内で発表を行うことを通じて、前職工夫を活かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	◎目的：「道徳の授業」に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—について理解を深める	◎目的：「道徳の授業」に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—について理解を深める	◎目的：「道徳の授業」に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—について理解を深める	

9:00	10:30	10:45	12:30	15:00	15:15	17:00
受付	講義2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」	休 憩	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」	閉 講 式	閉 講 式	
元文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 八岐	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一		文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	
◎目的：道徳的実践の学習活動の場としての特別活動の実践から、特別活動の指貫を生かした道徳教育の展開や役割について理解する	◎目的：道徳教育の全体を理解するとともに、道徳教育の生かし方について理解を深める		◎目的：道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—について理解を深める	◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者 当機構と連携協定を締結している教職大学院等の学生							
開催期日	平成29年10月25日（水）～平成29年10月27日（金）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	111	人	参加率	111.0%
開催場所	三重県総合文化センター（三重県津市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	93	16	0	0	1	1	111
割合 (%)	84.5	14.5	0.0	0.0	0.9	0.9	
	109	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新しく教科化に向けて参加したつもりだったが、それだけでなくこれまでの道徳への取り組み方の甘さ、不勉強を痛感した研修会でした。今回学んだことをぜひ広め、教師全員でさらに力を入れていかなければならないと強く思うことが出来ました。 ・小・中・高・特別支援の様々な校種の先生方が集まってきて、各立場の意見を聞くことが出来て良かったです。学習指導要領の改訂と道徳教育の充実の必要性・方向性がよくわかりました。 ・道徳科への経緯、求められる道徳教育、そのための授業改善、評価といった一連の講義を通して、その理解を深めることができました。また、多くの方の意見をお聞きする機会もあり、自分の考えを再構築することもできました。 ・道徳教育推進教師となり、正直とても気が重く、指導要領や関係する本等を読んでも疑問が多かったが、今回本研修に参加させて頂き、何が求められているのか、今後どのように取り組んで行けばよいのかを具体的に考え、理解を深めることができ、前向きな気持ちになりました。 ・普段これほどじっくり時間をかけて研修を受ける機会がないので、本当に勉強になりました。話を聞くだけでは自分のものにならないと思うので、今回のinputを受けてoutputできるように、また推進教師としてアナウンスしていこうと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 ・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 ・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【東海・北陸ブロック】

日程表

9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
10月25日(水)	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 課長補佐・学校教育官 降旗 友宏	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	講習1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	休 憩	休 憩	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 小学校：桑名市立星見ヶ丘小学校 校長 山田 芳昭 中学校：四日市市立大池中学校 教諭 北村 美紀 室谷 ひと美 四日市市教育委員会指導課 指導主事 伊藤 知敬	17:00

9:00	9:00	10:00	10:10	11:40	12:40	15:30	15:40	17:00		
10月26日(木)	受付	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた指導と評価」 織央大学 教授 島 恒生	休 憩	講義(小・中②) 「『道徳の授業』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	講習2 「『道徳の授業』の指導の工夫 —学習指導案の作成・検討—」 <指導助言者> 新藤市立桜島小学校 教諭 奥山 博之 室長 森田 久 四日市市教育委員会指導課 指導主事 伊藤 知敬 伊勢市教育委員会学校教育部 指導主事 中井 一裕	休 憩	発表・協議	17:00	

9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月27日(金)	受付	講義2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	休 憩	講習3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼食・休憩	閉講式	17:00

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者 当機構と連携協定を締結している教職大学院等の学生							
開催期日	平成29年8月2日（水）～平成29年8月4日（金）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	144	人	参加率	144.0%
開催場所	ホテルリガーレ春日野（奈良県奈良市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	104	32	0	0	5	3	144
割合 (%)	73.8	22.7	0.0	0.0	3.5	2.1	
	136						
	96.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科のこれからについて、たくさん学べました。また、研修の企画・運営面からも学ぶことが多かったです。ありがとうございました。 ・教科化の経緯を改めて確認できた。具体的にどのような指導をするべきか、どのような意識で学校教育全般で指導していくべきか、という視点でも多くの知識を得ることができました。 ・3日間を通して、今までの学習を再確認することができたり、新たに学ぶことが多くあり、とても勉強になりました。これから、今回の研修をもとに実践につなげていきたいと思えます。 ・具体的な演習や他府県の先生方との意見交流は、本当に有意義でした。講義はもう一度勉強し直し、理解を深めたいと思えます。また、悩んでいる内容も似たものが多く、これからどんなふう、何をしていくべきなのかが少しわかってきたように思えます。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 ・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 ・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【近畿ブロック】

日程表

8月2日(水)	9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 主任学校教育官 小野 賢志	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	講習1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	休憩	講習2 「『道徳の授業』の指導の工夫—学習指導案の作成・検討—」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	休憩	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 小学校：大和高田市立廣西小学校 教諭 木村 優希 中学校：奈良県立青羽高等学校 教諭 木南 俊亮	17:00

8月3日(木)	9:00	10:00	10:10	11:40	12:40	12:45	13:30	15:30	15:40	17:00
	受付	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的：「特別の教科 道徳」の実施に向けて、指導方法と評価について理解する。	休憩	講義(小・中②) 「『道徳の授業』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	講習2 「『道徳の授業』における学習指導案の作成及び部委内で発表を行うことを通して、前職工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める」 ◎目的：「道徳の授業」における学習指導案の作成及び部委内で発表を行うことを通して、前職工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	講習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ◎目的：「道徳の授業」における学習指導案の作成及び部委内で発表を行うことを通して、前職工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	講習3 「道徳教育の効果を高めるための研修—方法を知る」 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	17:00

8月4日(金)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	受付	講義2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子 ◎目的：道徳的実践の学習活動の場としての特別活動の実践から、特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	講習3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎研修成果の全体を理解するとともに、講習成果の生かし方について理解を深める	昼食・休憩	講習3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	17:00	

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者 当機構と連携協定を締結している教職大学院等の学生							
開催期日	平成29年8月16日（水）～平成29年8月18日（金）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	101	人	参加率	101.0%
開催場所	サンラポーむらくも（島根県松江市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	81	18	0	0	2	0	101
割合 (%)	80.2	17.8	0.0	0.0	2.0	0.0	
	99	98.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳教育の基本的なことから学習指導要領の改訂、具体的な授業の組み立て方等に至るまで、詳細に教えて下さり、大変学び多い3日間となりました。また、多くの経験を有する先生方と共に受講させていただくことにより、たくさんの刺激を受けることができました。

・道徳の教科化についての背景や、これからの推進の仕方・ポイント等、詳しく押さえることができました。自分の中にきちんと落とし込んで、勤務校の職員に還元したいと思います。他県の実力者の先生方と交流できて、とても有意義でした。

・3日間の研修はとても充実しており、自分自身学びの多いものだった。特に、道徳科として大切にしていかなければいけないこと、評価の在り方、リーダーとしてどのように働きかけていけばよいのか等、講師の先生方の話を聞くことで理解することができたように思う。3日間で学んだことを1つ1つを自分のものとし、校内に、各地に広げていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【中国・四国ブロック】

日程表

9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
8月16日(木)	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」	昼食・休憩	演習1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」	休憩	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」	休憩	17:00
	小・中学校部会	帝京大学大学院 赤堀 博行 教授	文部科学省 初等中等教育局長 小野 賢志 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	小学校：江津市立郷田小学校 眞鍋 純子 中学校：益田市立益田中学校 嶋山 智晴	◎目的：具体的な事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	

9:00	10:00	10:10	11:40	12:40	12:45	15:30	15:40	17:00
8月17日(木)	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた指導と評価」	講義(小・中②) 「『道徳の授業』の充実を図るために」	講義2 「『道徳の授業』の指導の工夫—学習指導案の作成・検討—」	演習2 「『道徳の授業』における学習指導案の作成及び授業を行うことを通して、前職工夫をかけた授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める」	演習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」	昼食・休憩	演習3 「道徳教育の効果的な推進策—研修プランの作成—」	17:00
	高等学校部会	帝京大学 丸山 誠 教授	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	◎目的：「特別の教科 道徳」の実施に向けて、指導方法と評価について理解する。 ◎目的：「道徳の授業」について理解を深め、授業改善への視座を得る。 ◎目的：「道徳の授業」における学習指導案の作成及び授業を行うことを通して、前職工夫をかけた授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	◎目的：「道徳の授業」における学習指導案の作成及び授業を行うことを通して、前職工夫をかけた授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	◎目的：「道徳の授業」における学習指導案の作成及び授業を行うことを通して、前職工夫をかけた授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	

9:00	10:30	10:45	12:30	15:00	15:15
8月18日(金)	講義2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」	講義3 「道徳教育の効果的な推進策—研修プランの作成—」	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」	閉講式	17:00
	高等学校部会	文部科学省 初等中等教育局長 安部 恭子 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	文部科学省 初等中等教育局長 浅見 哲也 教科調査官	◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（九州・沖縄ブロック）							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科 道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者 当機構と連携協定を締結している教職大学院等の学生							
開催期日	平成29年10月10日（火）～平成29年10月12日（木）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	119	人	参加率	119.0%
開催場所	別府国際コンベンションセンター（B-CON PLAZA）（大分県別府市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 981 人、参加率 122.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	110	8	0	0	1	0	119
割合 (%)	92.4	6.7	0.0	0.0	0.8	0.0	
	118	99.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科に向けて、道徳教育と道徳科の講義や演習に参加させていただき、多くの質問が解けた。また、他県の指導法を知ることができたのもよかった。参加させていただいたことに感謝しています。 ・これまで学んできたことを基に、自分の考え・意見を演習・協議で話すことができた一方で、実践事例や講義を通して新たな気づきや理解を深める場がたくさんありました。道徳教育に携わっていく立場として、成長と課題をはっきりと感じることのできた研修会でした。 ・道徳の教科化の背景から流れ、そして、道徳教育・道徳科を運営・経営する際のポイントについて整理して説明していただき、大変わかりやすかった。また、評価については、他の教職員からも質問の多い項目であったので、帰校後、すぐに説明会を行いたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施に向けて必要な知識等を習得し、各学校等での指導者となれるような講義や演習の講義題、目的とした。 ・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にした。 ・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう講義目的に記載した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施の年度であることを踏まえ、「評価」についての協議時間導入し、そのほかの演習や協議の時間を増やし、学校や地域において研修内容を生かしやすいように工夫する。 ・協議を充実させるため、グループの人数をできる限り少人数で編成する。 ・内容の重なりについての意見を踏まえ、講師に講義内容を確認する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【九州・沖縄ブロック】

日程表

	9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
10月10日(火)		受付	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 梶濱 真	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
				休憩	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 梶濱 真	休憩						
10月11日(水)	受付											
10月12日(木)	受付											

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	学校教育の情報化指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。 本研修では、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（学校教育の情報化のための整備活動に関わる者を含む）であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成30年1月29日（月）～平成29年2月2日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	125	人	参加率	125.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	107	15	0	0	0	3	125
割合 (%)	87.7	12.3	0.0	0.0	0.0	2.4	
	122						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・教育の情報化について体系的に研修でき、また、研修方法も具体的な方法を知ることができました。今後の業務に活かすことができます。 ・次期学習指導要領での情報活用能力の上げられ方について漠然としていましたが、周辺の事柄も含めてどのようにつながっているのかが理解できました。 ・学校教育の情報化に向けた国の動向を知ることができた。また、演習を通して具体的な運用・指導法を考えることができ、各学校に反映していける研修内容となった。 ・自分の地域がまだまだ遅れていることがわかった。教育の情報化を推進するために、自分にできることを考えることができた。ぜひ実践につなげていきたい。 ・情報化が必要…というざっくりとした感覚から、何をどうすべきなのか、そう進めればよいのか、という具体的な意識に変わりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティに関する研修を重点的に取り入れることを予定していたが、コマは設けず、文部科学省講師からの講義に「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」（平成29年10月）に関する説明を含めた。 ・定員人数が増えたため演習時に部屋を分けることを検討したが、タブレット機器とネットワークの設定に課題が生じるため部屋を分割することは見送り、会場を変更するとともに、グループ編成を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用するタブレット機の台数が増えたため、ネットワークへの接続トラブルが生じた。研修を十全に行えるよう、タブレット機器及びネットワークの設定を検討する。 ・演習時に部屋を分けることについて、受講者の意見を踏まえて、引き続き検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 学校教育の情報化指導者養成研修 日程表

1日目

9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	17:00
平成30年 1月29日 (月)	受付	開 講 式 ・ オ リ エン テー ション	<p>講義 1 「新しい時代における学校教育の情報化」</p> <p>◎目的：教育改革の方向性を見据え、現状と課題とを踏まえた学校教育の情報化推進方策の全体像を捉える。</p> <p>文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室室長 (併)初等中等教育局 視学官 安彦 広斉</p>	昼休み	<p>講義 2 「次期学習指導要領を踏まえた学校教育の情報化」</p> <p>◎目的：次期学習指導要領を踏まえた学校教育の情報化を推進する上での重要なポイントを理解する。</p> <p>東北大学教授 堀田 龍也</p>	休 憩	<p>講義 3 「国内外における学校教育の情報化の取組」</p> <p>◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例などともあわせて学校教育の情報化を推進する上での重要なポイントを理解する。</p> <p>東北大学教授 堀田 龍也</p>	休 憩	<p>演習 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」</p> <p>◎目的：各地域における学校教育の情報化に関する取組について情報交換をすることにより、課題を共有する。</p>

2日目

8:30				12:30	13:30				17:00
平成30年 1月30日 (火)	事 務 連 絡	<p>講義・事例発表・演習 1 「情報活用の実践力を育む学習活動の設計」</p> <p>◎目的：情報活用の実践力をさまざまな教科・単元で育成する方法を考え、児童・生徒のICT活用を含めてどのような学習活動を設計すればよいのか検討する。</p> <p>東北学院大学教授 稲垣 忠 (事例発表) 仙台市立片平丁小学校教諭 安部 智和</p>			休 憩	<p>講義・事例発表・演習 2 「情報の科学的な理解を深める指導」</p> <p>◎目的：情報の科学的な理解を育むことの重要性について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。</p> <p>国立教育政策研究所教育課程調査官 (併)文部科学省生涯学習政策局教科調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官 鹿野 利春 (事例発表) 埼玉大学教授 山本 利一 大阪市立苗代小学校教諭 金川 弘希</p>			

3日目

8:30				12:00	13:00	14:00	14:15			17:00
平成30年 1月31日 (水)	事 務 連 絡	<p>講義・事例発表・演習 3 「分かりやすい授業づくりのための教科指導におけるICT活用」</p> <p>◎目的：各教科等の目的の実現に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の考え方も踏まえ、効果的かつ計画的なICT活用による授業改善について検討する。</p> <p>東京学芸大学准教授 高橋 純</p>			休 憩	<p>講義・事例発表 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」</p> <p>◎目的：校務の情報化の目的と、それによって教員の業務だけでなく教育活動がどのように変化するかを知り、校務の情報化を推進する方策について検討する。</p> <p>宮崎大学教授 新地 辰朗 (事例発表) 北海道教育庁総務政策局教育政策課主幹 田嶋 直哉 佐世保市立宮小学校教頭 金子 敏之</p>			休 憩	

4日目

8:30				12:00	13:00	14:00	14:15			17:00
平成30年 2月1日 (木)	事 務 連 絡	<p>講義・事例発表・演習 4 「情報社会に主体的に参画する態度を育む指導」</p> <p>◎目的：情報社会に主体的に参画する態度を育む指導を行うために、学校の組織的な対応や発達段階に応じた体系的な情報モラル教育のカリキュラムの策定、地域・家庭との連携のあり方について具体的なイメージを持つ。</p> <p>金城学院大学教授 長谷川 元洋 (事例発表) 創造教育研究所代表 尾崎 廉</p>			休 憩	<p>講義・演習 「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運営」</p> <p>◎目的：教科指導におけるICT活用に関する校内研修リーダー養成研修の企画・運営を例として、学校教育の情報化の推進に資する研修の企画・運営能力を身に付ける。</p> <p>愛知教育大学教授 江島 徹郎 愛知教育大学准教授 梅田 恭子 愛知教育大学准教授 齋藤 ひとみ</p>			休 憩	

5日目

8:30				11:30	12:30			14:00	14:10	15:10	15:25
平成30年 2月2日 (金)	事 務 連 絡	<p>講義・事例発表・演習 5 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」</p> <p>◎目的：本研修における講義や演習の全体を踏まえ、学校教育の情報化を推進するための学校の体制づくりと戦略を考える。学校改革のためのICT活用戦略を考案、発表し、協議する。</p> <p>横浜国立大学教授 野中 陽 (事例発表) 春日井市立出川小学校校長 水谷 年孝</p>			休 憩			<p>課題協議 「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」</p> <p>◎目的：学校教育の情報化を推進するリーダーとなるための力量と姿勢を改めて確認する。</p> <p>薩摩川内市立川内中央中学校校長 辻 慎一郎</p>		休 憩	開 講 式

I 研修概要

研修名	人権教育指導者養成研修							
担当グループ	研修事業課 研修プロデュース室							
研修目的	<p>学校教育には、児童生徒に人権感覚を身につけさせ、人権意識を尊重して行動できるような教育を実施することが求められており、各学校においては、「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」の提言を踏まえ、人権教育の指導方法等の改善・充実を図ることが求められている。</p> <p>本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（人権教育担当者を含む）</p> <p>幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者（人権教育の指導的立場を担う者）</p> <p>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生</p>							
開催期日	平成29年7月11日（火）～平成29年7月14日（金）					4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	136	人	参加率	113.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	108	24	0	0	2	2	136
割合 (%)	80.6	17.9	0.0	0.0	1.5	1.5	
	132	98.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育とは、といった基本的な内容や理念、拉致問題・LGBTといった個別の問題について理解することができた。 ・グループワークを通して、人権問題（課題）の地域差、取組の温度差などがよく分かった。そんな中でも共通課題を見だし、1つのものを作り上げる活動は大変有意義だった。 ・2日目までの講義や配布資料を参考に、班の成果物作成・発表を行い、最後に十分な振り返りをするという、自然で無理のない研修構成になっている。 ・人権について理念として理解はしていたが、様々な課題があったことを改めて認識することができた。もっと人権感覚を磨いていかなければならないと感じた。 ・一般的な講義もよいが、2日目に合ったような全国の学校の実践発表の場がもう少しあると、自校へのヒントを効果的に得ることができるのではないかと感じる。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院の院生受入の関係により4日間の研修へ移行した。 ・事前課題を協議する時間を新たに設置した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の協議が、研修3日目～4日目のグループワークへと接続するよう、趣旨を明確化し協議内容を検討し直す。 ・事例発表の校種を、講義で扱う校種と重複しないよう選定するとともに、校内の連携、地域との連携、学校間の連携の視点から選定することで、多面的多角的な検討を行えるようにする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 人権教育指導者養成研修 日程表

	9:00	9:20	9:30	9:50	10:50	11:00	12:00	13:00	15:10	15:25	17:00
7月13日 (火)	受 付	開 講 式	オ リ エン テー ション	講義 「人権教育を取り巻く国の動向等について」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐 生方 裕	休 憩	講義 「北朝鮮当局による拉致問題等について」(30分) 内閣官房拉致対策本部事務局 参事官補佐 郷路 健二 「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律について」(30分) 法務省人権擁護局付 栢分 宏和	昼 休 憩	講義・課題協議1 「国内外の動きと学校における人権教育」 上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授 梅野 正信	休 憩	演習1 「人権教育推進上の課題と改善策等について」『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえてー 指導助言 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実	休 憩 (15分)

	8:30	10:00	10:15	12:15	13:15	17:00
7月12日 (水)	講義 「学校で配慮と支援が必要なLGBTの子どもたち」 宝塚大学 看護学部 教授 日高 庸晴	休 憩	講義・課題協議2 「みんながつくるみんなの学校」 元大阪市立大空小学校校長 木村 泰子	昼 休 憩	事例発表・協議・演習 「人権教育推進上の課題と改善策等について」『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえてー 事例発表 熊本県上天草市立上小学校 教頭 河野 満理 岡山県立玉野高等学校 校長 福本 まゆみ 指導助言 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実	休 憩 (15分)

	8:30	12:00	13:00	15:10	15:25	17:00
7月13日 (木)	演習2-1 「学校における人権教育の改善・充実について」『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえてー (指導助言者) Aグループ 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 東京学芸大学 准教授 林 尚示 Bグループ 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 Cグループ 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実 鳴門教育大学 准教授 井上 奈穂	休 憩 (15分)	昼 休 憩	休 憩 (15分)	休 憩 (15分)	

	8:30	12:00	13:00	15:00	15:15	
7月14日 (金)	演習2-2 「学校における人権教育の改善・充実について」全体発表・協議・まとめー 指導助言 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 東京学芸大学 准教授 林 尚示 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実 鳴門教育大学 准教授 井上 奈穂	休 憩 (15分)	昼 休 憩	課題協議 「人権教育を推進するリーダーとしてー研修講師、企画・運営に向けてー」 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 阿南市青少年健全育成センター 所長 稲村 健一 大阪教育大学教職研究センター 教授 森 実	休 憩 (15分)	開 講 式

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修(第1回)							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課 調査企画係							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年8月28日（月）～平成29年9月1日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	104	人	参加率	104.0%
開 催 場 所	パレブラン高志会館（富山県富山市）							

※ 全体標準定員 200 人、受講者数 194 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義		概ね有意義						
人数 (人)	96	8	0	0	0	0	0	0	104
割合 (%)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	104		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高それぞれで、その時期にしかできないこと、また、キャリアパスポートをどうしていくのがよいか具体案を出し合うことがとても有効だった。子どもの中をつなぐ、教師間をつなぐ意味で、さらに「キャリア」の視点を共有することで、特に中高はカリマネにもつながることが見えてきた。 ・話し合いに企業の方が入られるのはとてもよいアイデアだと思った。学校側が企業に気を使っていて、企業はもっとたよってほしいと思っている両者のギャップを実感できた。 ・年間指導計画を採択するという活動を通して、年間指導計画を作成する際の視点とそれをブラッシュアップしていく手法を学んだ。目の前の子どもの状況をふまえ、より具体的な目標のもと計画を作成できるよう助言に生かしていきたい。 ・架空の学校のキャリア計画を使い、その課題や目標から、身に付けさせたい力と評価を班で作り上げた。同じ学校のものでも、班によって身に付けさせたい力や評価が随分異なっていた。また評価の方法、時期も各学校の実態に沿って適正になさなければならないと感じた。 ・メンバーの教科に偏りもあり、さらに高校のカリキュラムを知らなかったこともあって、大変苦労した。だからこそ、専門外との横の連携や縦の連携の重要性を認識させられた。 ・個別的な支援・指導の在り方を同じ校種で考えてみると、共通の方法や、視点を変えた方法が分かり、視野が広まりました。4日間、キャリア教育の「全体」について学んできた分、「個別」に目を向けるのが新鮮な気持ちになった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の一環として、平成29年度より全2回の研修を独立行政法人教職員支援機構と富山県教育委員会で実施することとし、会場をパレブラン高志会館で実施した。 ・キャリア教育が、小中高で連携して進められることが必要であるため、受講者の演習の班編制をいわゆる義務（小・中学校）と中等（中・高等学校）に分け、研修の狙いを明確にした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修2日目午後の富山県の事例協議について、学校におけるキャリア教育の取り組みを発表することとする。 ・昨年度に引き続き、各回共通で演習に富山県のPTAや企業の関係者が協議をする際の班に、1人は入るような形で実施する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

【第3日目】	8:30	10:00	10:15	12:00	13:00	17:00
	同コース共通					
8月30日 (水)	8:30	10:00	10:15	12:00	13:00	17:00
	講義・演習 「キャリアアカウンセンシングの基礎としてのコミュニケーションスキルの向上」 講師 追手門学院大学 教授 三川 俊樹 目的: キャリア・カウンセンシングの理論と具体について体得する。	休 憩	演習 「カリキュラムマネジメント①キャリア教育推進のためのプログラム開発」 指導助言者 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 (義務) 文部科学省 初等中等教育局 大阪府教育委員会 事務局 市町村教育局 川崎市教育委員会 高崎市教育委員会 沖縄県立西原高等学校 目的: 児童生徒の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を学ぶ。	休 憩	休 憩	休 憩

【第4日目】	8:30	10:00	10:10	10:50	11:00	17:00
	同コース共通					
8月31日 (木)	8:30	10:00	10:10	10:50	11:00	17:00
	講義 「発達段階に応じたキャリア教育⑥企業や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 清川メック工業株式会社 専務取締役兼総務部長 清川 卓二 目的: 先進事例等から、効果的にキャリア教育を進めるための企業や行政との連携方法を学ぶ。	休 憩	講義・演習 「キャリア教育の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を学ぶ。」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 目的: キャリア教育の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を学ぶ。	休 憩	講義・演習 「キャリア教育の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を学ぶ。」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 目的: キャリア教育の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を学ぶ。	

【第5日目】	8:30	12:00	13:00	15:00	15:15
	同コース共通				
9月1日 (金)	8:30	12:00	13:00	15:00	15:15
	講義・演習 「個別的な支援・指導の在り方」 講師 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 目的: キャリア教育における個別支援の必要性を知り、その具体について体得する。	休 憩	講義・演習 「カリキュラムマネジメント③PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 指導助言者 初等中等教育局 文部科学省 国立大学法人筑波大学人間系 関西大学 足立区立六甲中学校 児童生徒課 児童生徒課 教授 長田 徹 (初等) 藤田 晃之 (中等) 川崎 友嗣 (義務) 佐藤 学 (義務) 主任教諭 長田 徹 目的: 全体計画と年間指導計画を評価し、改善につなぐ。本研修を通じて進めてきたカリキュラム・マネジメントをまとめる。	休 憩	講義・実践応答 「本研修の振り返り」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 足立区立六甲中学校 主任教諭 佐藤 学 目的: 本研修の5日間を振り返り、研修内容等について整理するとともに、各地域での研修講師を務めるに当たっての留意事項等の情報交換を行う。

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修(第2回)							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課 調査企画係							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年10月23日（月）～平成29年10月27日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	90	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	パレブラン高志会館（富山県富山市）							

※ 全体標準定員 200 人、受講者数 194 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	82	7	0	0	1	1	90
割合 (%)	92.1	7.9	0.0	0.0	1.1	1.1	
	89						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・目的に向かってグループで充実した話し合いをすることができた。他のグループが整理した課題を共有する時間がもてたのもよかった。
 ・企業の方の話しが聞けたことは貴重だった。どうしても教員としてのとらえ方になりやすかったが、さまざまな角度からの検証はたいへん有意義であった。
 ・PDAC→改善が思うようにいっていないのは、評価の部分に課題があり、具体的に評価の項目を挙げてみてむずかしいことにあらためて気づいた。
 ・高校生の内容に戸惑うこともありましたが、作業が進むにつれ、教科のつながりや、目標との関連、評価など考慮すべき点が見えてきました。
 ・具体的なケーススタディの協議が、とても有効だった。困り感のある児童に対する生産性のある時間を過ごすことによる自己肯定感の高め方や、自分の状況の自己理解を進めるための方策について理解を深めることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・地方創生の一環として、平成29年度より全2回の研修を独立行政法人教職員支援機構と富山県教育委員会で実施することとし、会場をパレブラン高志会館で実施した。
 ・キャリア教育が、小中高で連携して進められることが必要であるため、受講者の演習の班編制をいわゆる義務（小・中学校）と中等（中・高等学校）に分け、研修の狙いを明確にした。

次年度に向けて

・研修2日目午後の富山県の事例協議については、学校におけるキャリア教育の取り組みを発表することとする。
 ・昨年度に引き続き、各回共通で演習に富山県のPTAや企業の関係者が協議をする際の班に、1人は入るような形で実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 キャリア教育指導者養成研修（第2回） 日程表

9:30 10:00 面コース共通		12:30 13:30		14:45 15:00		17:00	
【第1日目】 10月23日 (月)	開講式	講義 「キャリア教育の現状と課題」 「本研修の進め方」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	講義 「新学習指導要領とキャリア教育①特別活動」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 事例 前佐賀市立小中一貫校美登校 石原 紳一郎 前兵庫県立東灘高等学校 井上 珠郁 兵庫県立神出学園 主任専門指導員	休 憩	講義 「発達段階に応じたキャリア教育②縦の連携を意識して」 講師 国立教育政策研究所 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 事例 高知県立山田高等学校 教頭 正木 章彦	事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育①縦の連携を意識して」	
		目的：キャリア教育の背景や必要性に加え、キャリア教育の推進に関する最新の動向を理解するとともに本研修の5日間の見通しを持つ。	目的：新学習指導要領におけるキャリア教育の方向性を確認するとともに、「キャリア教育の中核の時間となる「特別活動」」について理解を深める。		事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育③横の連携を意識して」		目的：キャリア教育における校種連携について考え、課題を整理する。

8:30 10:25 面コース共通		12:00 13:00		14:15 14:30		17:00		
【第2日目】 10月24日 (火)	事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育②縦の連携を意識して」 講師 国立教育政策研究所 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝	講義 「発達段階に応じたキャリア教育③」 講師 国立大学法人 上越教育大学大学院 准教授 山田 智之	講義 「発達段階に応じたキャリア教育④地域と協働して進めるキャリア教育の必要性」 講師 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	休 憩	事例発表・協議 「発達段階に応じたキャリア教育⑤横の連携を意識して」 ○小学校部会 講師 秋田県教育委員会 生涯学習課 副主任 佐藤 深 事例 高岡市教育委員会 学校教育課 指導主事 教次 秀美 ○中学校部会 講師 横浜市教育委員会 教育政策推進課 主任指導主事 熊切 隆 事例 富山県教育委員会 小中学校課 主任指導主事 中林 直紀 ○高等学校部会 講師 立命館宇治中学校・高等学校 教諭 酒井 淳平 事例 富山県教育委員会 県立学校課 指導主事 牧田 洋一郎	休 憩		
		目的：キャリア教育における校種連携について考え、課題を整理する。	目的：キャリア教育の理論と発達段階に応じた指導の必要性と具体を知る。	目的：学校と地域が協働したキャリア教育の具体について考える。		目的：校種別に学校と地域の協働によるキャリア教育の具体を考え、成果と課題を整理する。		

【事例発表・協議「発達段階に応じたキャリア教育⑤横の連携を意識して」協議参加者】

○小学校部会 高岡市教育委員会 伝統工業高岡銅器振興協同組合 中村美術工業代表 (有)武蔵川工屋 (公財)高岡地域産業センター 高岡市立能町小学校	学校教育課長 鳥内 慎久 理事 梶原 壽治 鏑金家 中村 壽久雄 螺鈿師 武蔵川 義則 銅器技師 斎藤 翔太 教頭 倉谷 尚宏	会 長 水谷 千乃夫 副 長 庄司 昌弘 代表取締役 黒田 保弘 代表取締役 福崎 秀樹 代表取締役 稲垣 英優 代表取締役社長 芹田 稔	○中学校部会 富山県PTA連合会 富山県PTA連合会 ケイ・ディック 株式会社 フクール 株式会社 ビュア・ハウジング 株式会社 ビッグエッグ	○高等学校部会 富山経済同友会特別幹事／教育問題委員会元委員長／朝日建設㈱ 代表取締役社長 林 和夫 富山経済同友会常任幹事／教育問題委員会元委員長／大高建設㈱ 代表取締役社長 大橋 聡司 富山経済同友会幹事／教育問題委員会委員長／アイティオ㈱ 代表取締役社長 伊東 潤一郎 富山経済同友会／教育問題委員会委員／北陸建工グループ 代表取締役 酒井 洋 富山県立富山東高等学校PTA 副会長 五十田 利昭 富山県立高岡南高等学校PTA 副会長 早木 廣満
---	--	--	---	--

【第3日目】 10月25日 (水)	8:30	10:00	10:15	12:00	13:00	17:00
	面コース共通	10:00		12:00	13:00	17:00
	講義・演習 「キャリアアカウンセンシングの基礎としてのコミュニケーションスキルの向上」 講師 追手門学院大学 教授 三川 俊樹 目的: キャリア・カウンセンシングの理論と具体について体得する。	休 憩	演習 「カリキュラムマネジメント①キャリア教育推進のためのプログラム開発」 指導助言者 生徒指導調査官 長田 徹 大阪府教育委員会事務局 小中学校課 主任指導主事 竹中 重雄(義務) 川崎市教育委員会 市町村教育室 担当課長 安藤 勉(中等) 高槻市教育委員会 教職員人事課 副主幹 山本 佐和子(義務) 立命館宇治中学校・高等学校 教育管理部 総務課 教諭 酒井 淳平(中等)	屋休み	休 憩	休 憩
	講義・演習 「発達段階に応じたキャリア教育⑥企業や行政との協働体制の構築とキャリア教育の創造」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼総務部長 清川 卓二 目的: 先進事例等から、効果的にキャリア教育を進めるための企業や行政との連携方策を学ぶ。	休 憩	課題協議 「新学習指導要領とキャリア教育②キャリア・パスポート」 講師 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之	屋休み	講義・演習 「P D C A サイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 関西大学 教授 川崎 友嗣 目的: キャリア教育の視点からP D C A サイクルの理論と具体を知り、カリキュラム・マネジメントのまとめにつなぐ。	17:00

【第4日目】 10月26日 (木)	8:30	10:00	10:10	10:50	11:00	17:00
	面コース共通	10:00		10:50	11:00	17:00
	講義・演習 「カリキュラムマネジメント②各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 指導助言者 初等中等教育局 児童生徒課 教授 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 兵庫県教育委員会 義務教育課 副課長 初田 幸隆(中等) 高知県教育委員会 高等学務課 指導主事 村田 かおり(義務) 仙台市立高砂小学校 教頭 小井 崇(義務)	休 憩	屋休み	屋休み	屋休み	17:00
	講義・演習 「個別的な支援・指導の在り方」 講師 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 目的: キャリア教育における個別支援の必要性を知り、その具体について体得する。	休 憩	屋休み	屋休み	屋休み	17:00

【第5日目】 10月27日 (金)	8:30	10:00	10:15	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	面コース共通	10:00		12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	講義・演習 「カリキュラムマネジメント③P D C A サイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 指導助言者 初等中等教育局 児童生徒課 教授 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣(中等) 仙台市立高砂小学校 教頭 小田 晁 目的: 全体計画と年間指導計画を評価し、改善につなぐ。本研修を通じて進めてきたキャリア・マネジメントをまとめる。	休 憩	屋休み	屋休み	屋休み	屋休み	屋休み	17:00
	講義・演習 「本研修の振り返り」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 教授 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 仙台市立高砂小学校 教頭 小田 晁 目的: 本研修の5日間を振り返り、研修内容等について整理するとともに、各地域での研修講師を務めるに当たっての留意事項等の情報交換を行う。	休 憩	屋休み	屋休み	屋休み	屋休み	屋休み	17:00

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	幼児教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	研修事業課 研修プロデュース室							
研 修 目 的	子ども・子育て支援新制度の施行を踏まえ、質の高い幼児教育を全国の全ての子供に保障するため、幼児教育を担当する指導主事等に対し、幼児教育の指導の充実や小学校教育との円滑な接続、評価を含めたカリキュラム・マネジメントの適正な実施など、幼児教育の指導者として必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市の幼児教育担当指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（認定こども園、保育所の指導・助言を行う者を含む） 国公立幼稚園・保育所・認定こども園の教職員であって、各学校や地域における本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生							
開 催 期 日	平成29年10月31日（火）～平成29年11月2日（木）					3日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	111	人	参加率	111.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	80	30	1	0	0	0	111
割合 (%)	72.1	27.0	0.9	0.0	0.0	0.0	
	110	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

・教育要領が新しくなるこのタイミングで受講出来て、大変ありがたかったです。幼児期の学びを理解することが円滑な幼少接続につながると感じました。
 ・幼児教育の現状に直接関わられている講師の方々のお話はどれも内容も多く、普段の勤務の中では得られないことばかりで、非常に有効であった。
 ・幼小接続・子育て支援・地域との連携・幼稚園を取り巻く環境の変化・国の動向等、いろいろな視点から幼児教育を考える機会をいただいた。
 ・演習を通して、他県のような立場の方々とのコミュニケーションをとりながら問題解決し、主体的な研修ができました。
 ・どの講義も盛りだくさんで駆け足でしたので、もっとお聞きしたかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ	<ul style="list-style-type: none"> 一部講義を、幼小接続の観点から、小学校の先生方に対して、幼児教育の動向、重要性を伝える内容とした。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 内容を精選し、1コマの講義時間を延ばす予定。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 幼児教育指導者養成研修 日程表

10月31日(火)	9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	15:45	16:00	17:00
		受付 開講式	オリエンテーション	行政説明 「幼児教育行政の最新の動向」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 先崎 卓歩	昼食 休憩	講義・演習① 「新しい幼稚園教育要領、学習指導要領について(特に幼小接続について)」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官 降旗 友宏	休憩	講義・演習② 「社会との連携・協働による教育課程の実現について」 京都教育大学 准教授 古賀 松香
会場 独立行政法人教職員支援機構								

11月1日(水)	9:00	10:30	10:40	12:15	13:15	15:45	16:00	17:00
		受付	講義・演習③ 「乳幼児理解(特に0~2歳)と保育者の援助の在り方について」 大妻女子大学 教授 阿部 和子	休憩 昼食	講義・演習④ 「幼児理解(3~5歳)と指導の在り方等について」 國學院大學人間開発学部 教授 神長 美津子	休憩	講義・演習⑤ 「幼小接続を重視した指導案の作成」 國學院大學人間開発学部 教授 神長 美津子	講義・演習⑥ 「乳幼児期における子育ての支援、家庭や地域との連携について」 和洋女子大学 教授 矢萩 恭子
会場 独立行政法人教職員支援機構								

11月2日(木)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:30	14:45	
		受付	講義・演習⑦ 「幼児期の教育の質向上の重要性について」 国立教育政策研究所 幼児教育研究センター 掘越 紀香	休憩	講義・演習⑧ 「新しい時代に対応した教員研修の在り方」 次世代型教育推進センター 大杉 昭英 上席フェロー	昼食 休憩	講義・演習⑨ 「幼児教育を推進するリーダーとして 研修の企画・立案の在り方」 松蔭大学 教授 山下 文一	閉講式
会場 独立行政法人教職員支援機構								

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A-1）「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」							
担当グループ	調査企画課							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成29年7月31日（月）～平成29年8月4日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	13	人	参加率	-
開催場所	クリエイト浜松（静岡県浜松市）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	13	0	0	0	0	0	13
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・教えやすそう、授業が楽しそうな科目ですが、担当すると困ることが多かった科目2つについてより詳しく学べたので、これから授業で教えるべきこと、伝えるべきこと、体験するべきことが見えてきた。全国には農業といろいろなことをコラボしたりイノベーションして取り組んでいることを知ることができただけでも勉強になった。農業は今、まさに転換期であることを生徒に伝えて、魅力を広めたい。</p> <p>・初めて「生物活用」「グリーンライフ」の教科としての目標を明確にすることができた。自分の教科指導に足りない部分があり、これからの授業の進め方を再確認できた。農福連携の実際を学ぶことができ、是非、生徒に伝えたい。</p> <p>・グリーンツーリズム、6次産業化、農産物のブランド化など具体例を見聞きし、取り組みのヒントをいただいた。</p> <p>・新しく学ぶことや発見が多くあった。他県の先生方と交差し、情報交換ができた。生物活用・グリーンライフを担当していないので、研修内容を自分の科目に生かせるように工夫していきたい。</p> <p>・普段学校であったり、県の教育委員会の研修で受講する内容では、文科省からの通達ばかりで、外の様子がさっぱりわからない。最新の知見を盛り込んだこのような研修が、もっと受講しやすければ、現場のモチベーションは、比較にならないほど高まると思います。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成29年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 特定非営利法人 しずおかユニバーサル園芸ネットワーク

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
2017/7/31 (月)			開講式	【研究協議】 自己紹介・交流プログラム紹介 (久保田・1)	【演習】 目標と課題を明確化する (久保田・1)	昼休み	【講義】 農産物のブランド化とは (岩崎・2)	【講義】 生物活用・グリーンライフの現状と課題 (田畑・2)			諸連絡
2017/8/1 (火)	【講義】 6次産業化の実際 (伊藤・1.5)	【講義】 交流プロジェクトのマネジメント (久保田・1.5)	【演習】 園芸の特性と活用 (久保田・1.5)	【演習】 園芸の特性と活用 (豊田正・1)	昼休み	【講義】 新しい農業の可能性 (加藤・2)	【演習】 交流プログラムの指導案 (久保田・2)				諸連絡
2017/8/2 (水)	【講義】 園芸の特性と活用 (豊田正博・2)	【演習】 園芸の特性と活用 (豊田正・1)	【演習】 園芸の特性と活用 (豊田正・1)	【演習】 園芸の特性と活用 (豊田正・1)	昼休み	【講義】 未定 ()	【講義】 農業とリハビリテーション (建木・2)				諸連絡
2017/8/3 (木)	【講義】 グリーンツーリズムについて (豊田由美・1.5)	【実習】 観光農園の実際 (スマイルベリー・1.5)	【実習】 観光農園の実際 (スマイルベリー・1.5)	【演習】 園芸の特性と活用 (久保田・1)	昼休み・移動	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	【実習】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・1.5)				諸連絡
2017/8/4 (金)	【講義】 生物活用・グリーンライフの可能性 (久保田・2)	【演習】 園芸の特性と活用 (久保田・1)	【演習】 園芸の特性と活用 (久保田・1)	【演習】 園芸の特性と活用 (久保田・1)	閉講式						諸連絡

実施会場： クリエイト浜松、京丸園、スマイルベリー (静岡県浜松市)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B-1）「教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年8月21日（月）～平成29年8月25日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	26	人	参加率	-
開 催 場 所	金沢工業大学扇が丘キャンパス（石川県野々市市）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	26	0	0	0	0	0	26
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	26	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・PBLのような考え方ややり方があり、自分の知らないことを、またひとつ知ることができ有意義だった。また、PBLの中で同じことについて同年代の方々と議論することができ、自分の教育に対するモチベーションも上げることができた。 ・授業の展開方法としてのPBLの実践、評価方法であるルーブリックの作成演習を通して、これからの授業作りや成績評価について考えるよい機会となった。特に同じ班で活動した先生からの情報提供も頂き、どのように実践していけばよいかのイメージを描くことができた。所属校に戻った際にはぜひ授業計画に取り入れ、多くの先生方にも紹介し広めていきたい。ありがとうございました。 ・PBLについて、実際に時間を作っていただき、生徒役として体験できた事で、生徒達が行う作業の一連の流れが理解できた。また、実践時に生徒達が困りそうな所を想像できるようになり、助言もどういった声かけが有効なのか考えることができとても有意義だったと感じた。ありがとうございました。 ・これまでの教育活動において、アクティブラーニングの意義や効果的な手法をよく理解しないまま行ってきたが、今回PBLを学ぶことで、教育的アプローチや理論に触れ、体験することができた。また、それを評価する方法としてルーブリックの考え方を学ぶことができ、今後の教育活動に大変有用な知識を得ることができたと思う。 ・他府県の先生方と交流でき、様々な情報交換をできたのはとても良かったです。また、PBLを実践している大学と高校の先生方から実例を示していただけたのは大変参考となりました。バインダーやUSBメモリの配布、PCの借し出しなどは研修を有意義に行うために大変助りました。また、朝早くから夕方遅くまで場所を提供いただけたのも有難かったです。大学の先生方から評価をいただくという貴重な機会を持つことができたことで、意欲的に取り組むことができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成29年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業, B-1)

団体名: 金沢工業大学

時 限	1 時 限 8:40~10:10	休 憩	2 時 限 10:30~12:00	屋 休 み	3 時 限 13:00~14:30	休 憩	4 時 限 14:50~16:20	自主活動時間 16:40~18:00
日 時	8:40 9:00 10:00	11:00	12:00 13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
8月21日 (月)	開講式 オリエン テーション 約20分	休 憩	(講義) PBL 概論 PBL 教育と技術者倫理	屋 休 み	(講義) プロジェクトデザイン教育① 金沢工業大学のPBL教育 高校現場でのPBL実践例 (仮題)	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ①	
8月22日 (火)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ②	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ③	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ④	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ⑤	
8月23日 (水)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ①	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ②	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ③	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ④	
8月24日 (木)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑤	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑥	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ①	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ②	
8月25日 (金)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ③	休 憩	(討 議) プロジェクトデザイン教育② 受講者と講師陣による 意見交換とまとめ	閉講式 12:00 ~12:40	プロジェクト活動Ⅰ: テーマの発見・気づきに至る、情報収集・分析を通してのテーマの絞り込み活動を体験し、その 難しさを体験。 プロジェクト活動Ⅱ: 取り組む内容が具体的になった段階のプロジェクトテーマから、コンセプトを示す何らか のモノを試作し、外部アピールまでを体験。 プロジェクト活動Ⅲ: 工業高校で適用する場面の評価方法について、ルーブリックを作成し相互に評価を体験。			

実施会場: 金沢工業大学扇が丘キャンパス (石川県野々市市)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C-1）「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した教科「商業」における授業改善に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年7月31日（月）～平成29年8月4日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	37	人	参加率	-
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	31	6	0	0	0	0	37
割合 (%)	83.8	16.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	37		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・会計的な講義が多かったので、もっと色々な分野の話も聞きたい。最後のグループ発表には教職過程の授業を選択している学生にも見学をさせたらどうか。 ・「商業教育は楽しいのか」「資格取得に力を入れ過ぎてないか」等の言葉で始まった研修でした。この研修で、アイデア創出、グループワークショップ、ディベート、ジグソー法等たくさんの授業方法を学ぶことが出来、有意義な研修であった。その中でも授業の「ねらい、目標、何の為に」が必要であり、企業経営の観点から考察させることが大切であることを知った。そして、先生方一人ひとりの意識や向上心の大切さを改めて知り、研修で学んだ事を自分で進化し、活かしていきたいと思いました。 ・ほとんどの研修はとても参考になり、地元に戻った後実践したいことが多かったので大変有意義でした。しかし、研修時間が長く、もう少し余裕のある時間構成にしてもらえると、1つ1つの研修の内容をしっかりと振り返ることが出来るのではないかと思います。5日間ありがとうございました。 ・研修を通して今まで取り組んだことのない手法を学び、体感することができた点が有意義であった。グループでの指導案作成も活発に意見交換でき良かった。情報処理系の（プログラミングの）講義も含まれていると、個人的にはもっと良かった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度産業・情報技術者等指導者養成研修日程

(商業、C-1)

団体名：千葉商科大学

日時	9:00	10:00	11:00	12:10	13:10	14:00	15:00	16:00	17:00
7月31日 (月)	1限(9:00~10:30)	9:30受付 10:00開 始	開会式	休	3限(13:10~14:40)	3限(13:10~14:40)	休	4限(14:50~16:20)	5限(16:30~18:00)
			西村先生	近藤説明	昼休み	フアシリテーション能力の 向上 (後藤) 90分		ワークショップ・デザイン (後藤) 90分	商業教育の課題 【ワールド・カフェ実践】 (近藤・後藤) 90分 テーマについてワールド・カ フェ形式で話し合い
8月1日 (火)		アイデア創出の指導① (石井) 90分	アイデア創出の指導② (石井) 90分		昼休み	アイデア創出の指導③ (石井) 90分		流通業から見た商業高校の 商品開発 (未定) 90分	グループ活動① 【自己紹介・振り返り】
8月2日 (水)		商業高校におけるケースメ ソッドの利用① 【ケースメソッド実践】 (未定) 90分	商業高校におけるケースメ ソッドの利用② 【ケースメソッド実践】 (未定) 90分			ディベートの指導法① (未定) 90分		ディベートの指導法② (未定) 60分	グループ活 動② 【振り返 り】
8月3日 (木)		ケーススタディを取り入れた 財務諸表分析の指導① 【実践事例など】 (未定)	ケーススタディを取り入れた 財務諸表分析の指導② 【ケーススタディ実践】 (未定)			知識構成型シグソフ法を取り 入れた科目「ビジネス基礎」 の授業展開 (未定) 90分		思考力・判断力・表現 力等を育む授業展開① 【事例など】 (笠木) 60分	グループ活 動③ 【振り返 り】
8月4日 (金)		会計教育 (未定)	商業高校卒 業者の公認 会計士試験 合格体験講 話 (未定)			グループ発表 【教材研 究】 30分		近藤 総評等 時間調 整含む	
						グループ発表 【教材研究】 授業案の発表 60分		閉会式	16:00終了予定

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産D-1）水産物の品質管理と衛生管理に関する講義と演習							
担当グループ	調査企画課							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成29年8月7日（月）～平成29年8月10日（木）			4日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	13	人	参加率	-
開催場所	大日本水産会（東京都港区）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	11	2	0	0	0	0	13
割合 (%)	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ HACCPについて再確認できました。テキストも、厚くなっている分、調べやすくなっていて良いと思います。本校でも、HACCPの認定を目指したいと考えています。 ・ 将来的な義務化に向けて、教育現場への導入から、HACCPの基礎まで、大変充実した内容であった。実際にHACCPチームをつくり、HACCPの立ち上げを行う演習や、HACCPの認定工場見学もあり、実践向けの経験を積むことができた。 ・ 平成8年から既に160回以上（約6,000人の受講者）開催されている講習で内容も洗練されており、とても有意義であった。個人的には、前提条件プログラム（SSOP）について、もう少し詳しく学んでみたかった。 ・ 少ない時間設定の中で、詰めて指導して頂きありがとうございました。しかし、私の努力不足もあり、全てが新鮮で全てが重要に感じ、どれを特に覚えた方が良いのか、分からず、途中から線を引くのに一生懸命になっていたと思います。テストの時は、どこに載っているのかふせんだらけで分かりませんでした。今は落ち着いて資料を見ると何となく思い出して理解できています。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成29年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(水産, D-1)

団体名 一般社団法人大日本水産会

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
8/7 (月)		開 校 式 (講義) HACCP概論・前提条件ブ ログラムの講義		昼休み		水産食品安全ハザード・準備段階・ハザード分析・CCP の決定等の講義					
8/8 (火)		ハザード分析作成の グループ演習		昼休み		ハザード分析作成の グループ演習					管理基準の設定・モニタリング手 順の設定・修正措置の講義
8/9 (水)		検証・記録の講義		昼休み		HACCP計画作成のグループ演習					
8/10 (木)		HACCP導入済み工場見学 (9:30出発、11時到着) 株式会社横浜食品サービス 横浜南部ペスカメルカード		昼休み		HACCP導入済み工場見学 (13~15時まで工場見学、15時30分現地解散) 株式会社横浜食品サービス 横浜南部ペスカメルカード					

実施会場：一般社団法人大日本水産会 大会議室

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習」							
担当グループ	調査企画課							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成29年8月7日（月）～平成29年8月10日（木）			4日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	24	人	参加率	-
開催場所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区）、杉野服飾大学（東京都品川区）、東京誠心調理師専門学校（東京都大田区）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	23	1	0	0	0	0	24
割合 (%)	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自分が授業を行う上で、また生徒の進路、生活を考える上で為になる点が多かった。高校生の可能性を引き出す視点、工夫、情熱について考えさせられた。完全に「学ぶ立場」として過ごすのが久しぶりで、とても貴重な時間であった。 ・4日間という長い時間、多くの分野について講義・演習を受けることは大学生以来で、大変充実した毎日を過ごすことができました。また、地方も違う先生方との交流は大変意義深い貴重な機会となりました。参加させていただいて良かったです。 ・4日間でしたが、どの位分の勉強をさせて頂いたかと思う位濃い内容でした。現任校11年目で、このような機会に参加できた事は本当にラッキーだったと思います。今現在担当していない分野も多く、この先の異動で不安があるのですが、今現在の主流が分かったような気がします。又、現在の指導の中での工夫ができる内容も多くありましたので、早速2学期から入れたいと思います。又、県による取組の違いも多くあることに気づきました。他県の良いところ（システム・研究ノート・プロジェクト等）の共有もあると良いと思います。（1個人ではできないもの）お願いします。この後県への伝達がありますので、良い所を他の先生方にも報告させて頂きます。4日間ありがとうございました。 ・もう少し、調理実習は何をやっているかとか、住居は何をやっているかとか、普通科の授業数の少ないという同じ悩みを抱えている先生との、情報交換の場が自分で持てなかったことに悔いが残ります。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭科 E-1)

全国高等学校校長協会家庭部会

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時30分)		午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		実施会場
	9:30	10:00	11:00	12:00	13:30	15:00	16:00		
8月7日 (月)	【開講式】 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 「地域と共に歩む家庭科教育」 元校長 宮入 千恵子	12:30 昼休み	【講義】授業実践事例 「デザイン思考を取り入れた指導法の工夫」 兵庫県立西脇高等学校 主幹教諭 藤原 容子	【講義・演習】 「住居分野における指導の工夫」 学芸大学 名誉教授 小澤 紀美子	15:00	16:00	会議室(千代田区) 全国高等学校校長協会
8月8日 (火)	【講義】 「繊維・アパレル産業の動向と ファッションビジネス」(仮) 杉野服飾大学 講師 五月女 由紀子	【講義・演習】 「新素材の紹介」(仮) 「博物館見学」 杉野服飾大学 教授(博物館長) 鈴木美和子	【講義・演習】 「色彩に関する演習」(仮)	12:30 昼休み	【講義・演習】 「デザインに関する演習」(仮)	【講義・演習】 「字サインの発想や表現法」(仮) 杉野服飾大学 教授 肉丸美香子	15:00	16:00	(品川区) 杉野服飾大学
8月9日 (水)	【講義】 「現代の食生活の課題やトレンド、 フードビジネス等」(仮) 東京誠心調理師専門学校 講師 竹森 美佐子	【実習】 「おいしさの科学と調理」(仮) 東京誠心調理師専門学校 講師 藤田 真弘	【講義・演習】 「盛り付けのテクニクと テーブルコーディネート」(仮) 東京誠心調理師専門学校 講師 河嶋 宏朗	12:30 昼休み	【講義・演習】 「盛り付けのテクニクと テーブルコーディネート」(仮) 東京誠心調理師専門学校 講師 河嶋 宏朗	【講義・演習】 「盛り付けの実践」(仮) 「施設見学」 東京誠心調理師専門学校 講師 河嶋 宏朗	15:00	16:00	東京誠心調理師専門学校 (大田区)
8月10日 (木)	【講義・演習】授業実践事例 「保育の指導法の工夫 ～保育技術検定を取り入れて～」 栃木県立宇都宮中央女子高等学校 教諭 飯田 みゆき	【講義】 「消費者市民を育む消費者教育の実践につ いて」(仮) 消費者教育支援センター 総括主任研究員 柿野 成美	【まとめ・研究協議】 「研修のまとめ」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	12:30 昼休み	【まとめ・研究協議】 「研修のまとめ」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【閉講式】	15:15	15:45	会議室(千代田区) 全国高等学校校長協会

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F-1）「保健医療福祉の変化に対応し、生徒の基礎的・基本的看護実践力を育成する授業に関する講義と演習」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）			3日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	17	人	参加率	-
開 催 場 所	茨城県立医療大学（茨城県稲敷郡阿見町）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	17	0	0	0	0	0	17
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義だけでなく、演習をくり返すことで、参加しよう、という気持ちが強くなった。自身が教員の立場になれば、生徒達の主体性をどう引き出すことができるのか、考える要素をもつことができた。他校でも同じように悩みや課題があること、そして課題解決に向けての取り組みを知ることができ改めて、“やっぴいこう”という気持ちがあると共に、仲間がいると思えることが支えになる。 ・小児看護学で授業でロールプレイングをしていましたが、今回のアクティブラーニングで新たに学びがありました。事例の設定もいつも頭を悩ませていましたが、学生の目標を考える事で考え直してみようと思いました。全国の専攻科や高校の先生方と現状を話しあう事ができてよかったです。不安がとれました。 ・コミュニケーション、アクティブラーニング（シュミレーション教育）、地域包括ケアシステムという講義のテーマ全てが、現在、自分自身が学びを深めなければならないと感じているものだったため。また他校の先生方とお話できたことが大変良い機会となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(看護, F-1)

日時	9:00	10:30	13:00	14:00	15:00	17:00		
8月7日 (月)	受付	開講式	(講義・演習1) 「コミュニケーション技術の教授 法ー演習を通じた学習方法ー」	昼食 (交流会)	(演習2) 「コミュニケーション まとめと発表」	(講義) 「看護教育の現 状と課題」	休憩	(講義) 「本学付属病院の 取り組みについて」 *付属病院看護部の 概要と医療大の実習 病院としての取組
8月8日 (火)	(講義1) 「アクティブラーニ ングによる魅力あ る授業の取り組 み」	休憩	(講義2) 「アクティブラー ニングによる魅 力ある授業の取 り組み」	昼食	(講義3・演習) 「アクティブラーニングによる魅力ある授業の取り組み」			
8月9日 (水)	(講義1) 「地域包括ケアシ ステムについて」	休憩	(講義2) 「地域包括ケアシ ステムについて」	昼食	研修全体の 振り返り・	(講義) 福村 (文科省) 「今後の 看護教育に ついて」	閉講式	

実施会場：茨城県立医療大学 (茨城県稲敷郡阿見町)

(

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「次期学習指導要領に対応したプログラミング及び教科「情報」の授業改善に関する講義と実習」							
担当グループ	調査企画課							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成29年7月31日（月）～平成29年8月4日（金）			5日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	19	人	参加率	-
開催場所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	16	3	0	0	0	0	19
割合 (%)	84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程が次期学習指導要領の三つの柱①主体的・対話的で深い学び②カリキュラム・マネジメント③学びの地図を見据えた内容で連携・構成されていた。各コマの講師がSPHや教育課程指定事業など、現場の先生方で展開されていたため、授業・講座に直結する講義・演習内容となっていた。研修テーマ、演習内容に応じて、ベストな教材・端末・研修室で受講できた。各コマが体験を通じて学べるよう配慮されていたため、講義内容の知識の定着が深まった。全てのコマで、新しい発見や授業へのヒントがあり、今後の講座運営に向けてのモチベーションにつながった。 ・学習指導要領改訂により「情報」がどのように変わるのかを学べた。専門科目の情報との関係はこれから学んでいくが、小学校、中学校で情報が必修になるので今回の研修でそれらのことを知れたのは良かった。情報活用能力を高め、今後の指導に生かしていきたいと思う。 ・とても有意義な機会でした。新しいネットワークが広がり、情報科だけでなく商業科の同期間で開かれていた先生方とも交流ができた。情報教育について、深く話し合うこともでき、これからも広げてゆけるつながりを持た。新しいことも多く学べた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成 29 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:10	13:10	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
7月31日(月)			受付	開講式	講義; 学習指導要領 (文部科学省 教科調査官鹿野利春)	昼 休 み	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善 事例と講義・実習 (聖心女子大学教授 益川弘如) (神奈川県立茅ヶ崎西浜高校教諭 鎌田高德) (東京都立町田高等学校教諭 小原格) (千葉県立袖ヶ浦高等学校教諭 永野直)					
8月1日(火)				ネットワークの基礎・応用 (仁賀保高校教諭 早藤素史)	昼 休 み	Web サーバーと CMS の構築 実機と Cloud の比較 (文部科学省教科調査官 鹿野利春)						
8月2日(水)				コンテンツ分野の実践例と実習 (岐阜県立各務野高校教諭 矢野 祐一郎) (畿央大学客員教授 竹中章勝)	昼 休 み	Web サイトの設計と製作 Cloud 上の CMS の利用 (文部科学省教科調査官 鹿野利春) (畿央大学客員教授 竹中章勝)						
8月3日(木)				計測・制御 (埼玉大学教育学部 山本利一)	昼 休 み	AI プログラミング (京都すばる高校教諭 小西良尚)						
8月4日(金)				プログラムによるデータ解析 (千葉県立千葉高校教諭 大橋真也)	昼 休 み	振り返りと協議 (千葉商科大学教授 永井克昇)						

実施会場: 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉H-1）「実践的介護の知識及び技能の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習）」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年8月16日（水）～平成29年8月18日（金）			3日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	45	人	参加率	-
開 催 場 所	16日・17日サン・エールさがみほら（神奈川県相模原市）18日神奈川県立津久井高等学校（神奈川県相模原市）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	34	10	0	0	0	1	45
割合 (%)	75.6	22.2	0.0	0.0	0.0	2.2	
	44	97.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・生徒と同様に“正解”を求めて参加をした研修でした。福祉現場に正解が少ないことを再認識することのできる研修でした。現在の教育理念である“自ら学び考える”ということが学べるのが福祉であると感じました。そういった生徒を育てていけるよう研鑽したいと思いました。ありがとうございます。</p> <p>・認知症、障害について、どのように教えたらいかがわからなかったのですが、その思いは、他の先生方も同じで、悩みながら、授業されているんだなと思いました。研修中の講義をききながら、（グループワークをしながら）、自分だったら、どう教えるかを、考えることができました。まだまだ試行錯誤だと思いますが、生徒に還元できるように、やれることをやりたいと思います。</p> <p>・ボリュームのある研修内容でしたが、講義や演習をとおしてじっくりと考える機会をいただきました。ゲストスピーカー（ファシリテーター）に障がいのある方が入ってくださったり、障害者施設の方のお話をいただき、リアルに迫った学びができたこと、ありがたく思います。今度、自身の授業について見直し、生徒が考えることのできる授業づくりを行っていき、教員間でもシェアしていきたいです。また、全国から集まった生徒方とお話をしたり、各学校の状況をうかがうことも勉強になりました。横のつながりも大切にして福祉科の教員として研鑽を積んでいきたいです。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成29年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(福祉, H-1)

団体名 全国福祉高等学校長会

日 時	13:00	13:15	16:30
8月16日 (水)		開講式	(講義・演習①・②) 認知症の理解・認知症の介護 会場：サン・エールさがみはら
日 時	9:15	12:30	13:15
8月17日 (木)	(講義・演習③・④) 生活支援技術 会場：サン・エールさがみはら	昼休み	(演習) 障害者平等研修DET 会場：サン・エールさがみはら
日 時	9:30	12:00	12:45
8月18日 (金)	(研究協議) 障害者福祉をどう教えるか 会場：津久井高等学校	昼休み	高校福祉教育の現状と 今後の動向について 会場：津久井高等学校

実施会場：サン・エールさがみはら (神奈川県相模原市)

神奈川県立津久井高等学校 (神奈川県相模原市)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年7月24日（月）～平成29年7月28日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	15	人	参加率	-
開 催 場 所	宮城教育大学（仙台市青葉区）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	1	0	0	0	0	15
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・全ての講義・演習の中で「新学習指導要領」に沿った内容であったため、これからの指導に向けて大変有意義な研修であった。宮城教育大学の先生方の統一感がすごくあらわれていて、わかりやすいものであった。また、他県の技術の先生方との交流は、情報交換ができ、5日間を通して、多く学ぶことができました。研修の内容をもち帰り、自分の学校だけではなく、地域や県全体に広めていく活動をしていきたいと思えます。ありがとうございました。</p> <p>・新学習指導要領についての詳しい解説や意図について話しを聞いたこと、様々な教材・教具を知ることができたことで、今後の自分自身の力になったと思えます。今後、自分自身のためだけでなく、県下に広めていくという責任ももっていかねばならないと感じました。全国の先生方と情報交換できる場だったことも大きな収穫です。機会を与えていただきありがとうございました。</p> <p>・1つの学校に1人しかいない教科であるので、教科のことを話す機会がほとんどない中、全国の先生方と情報交換し合うことができ、自分のためになりました。また、学習指導要領の改訂に伴い、授業づくりをどう変えていけばよいかという点や、これまで自分が実践してきた内容をどう改変していくかなど、講義や実習を通して自分のやりたいことの幅が大きく広がりました。大変お忙しい中だったとは思いますが、有意義な時間をいただき、本当にありがとうございました。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成 29 年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭(技術), I-1)

団体名 宮城教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月24日 (月)	受付 9:00-9:50	開講式 9:30-9:50	(講義) これからの技術教育一 学習指導要領の改訂を 踏まえて一 10:00-11:30	昼休み 11:30-12:20	(講義/実習) 材料と加工の技 術の原理・法則 (加工技術の活 用に関する発 想) 12:20-13:20	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める 題材の検討(鉋の刃研ぎ 治具・木材小作品) 1 13:30-15:30	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める 題材の検討(鉋の刃研ぎ 治具・木材小作品) 2 15:40-17:40		
7月25日 (火)	(講義) 電気エネルギー活用のた めの原理と法則 9:00-10:30	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー 一技術1 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー 術2 13:00-15:00	昼休み	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー 技術2 13:00-15:00	(講義/実習) 課題解決型の制御学習1 15:10-17:10		
7月26日 (水)	(講義) 生活や社会を支える情 報技術(情報モラル・サ イバーセキュリティ) 9:00-10:30	(講義/実習) 情報の技術の授業設計 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 計測・制御のプログラミング 13:00-15:00	昼休み	(講義/実習) 計測・制御のプログラミング 13:00-15:00	(講義/実習) 双方向性のあるコンテンツの プログラミング 15:10-17:10		
7月27日 (木)	(講義) 生物育成分野の目的・作物栽 培技術の基礎 9:00-10:30	(講義/実習) 作物管理実習を通して 作物成長の原理・法則 の理解 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 養液栽培や栽培容器製作によ る育成環境を調節する 方法の 検討 13:00-15:00	昼休み	(講義/実習) 養液栽培や栽培容器製作によ る育成環境を調節する 方法の 検討 13:00-15:00	(講義/実習) 生物育成に関する新しい技術 の理解と活用(パイテク体験 を含む) 15:10-17:10		
7月28日 (金)	(講義/実習) エネルギー変換におけ る力学的な原理・法則 の理解を深める題材の 検討(往復スライダ ク機構) 1 9:00-10:30	(講義/実習) エネルギー変換におけ る力学的な原理・法則 の理解を深める題材の 検討(往復スライダ ク機構) 2 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 新しい発想に基づく 改良と応用(デジタル 工作機械の活用) 13:00-14:30	昼休み	(講義/実習) 新しい発想に基づく 改良と応用(デジタル 工作機械の活用) 13:00-14:30	(講義/実習) 課題解決型の制 御学習2 14:40-15:40	閉講式 15:50-16:20	

実施会場：宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-2）「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年7月31日（月）～平成29年8月4日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	14	人	参加率	-
開 催 場 所	鳴門教育大学（徳島県鳴門市）							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	10	4	0	0	0	0	14
割合 (%)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・内容は大変難しいものばかりだったが、これからの技術教育の方向性のヒントをもらえたこと。各地域の先生方と話をすることで、自分の考えを広める深めることができたこと。</p> <p>・難しいところも多くなりましたが、目先の変化だけでなく、普遍的なことをしっかり理解した上で対応していくことの大切さを改めて感じました。他の先生方からも情報交換もでき、有意義に過ごさせていただきました。</p> <p>・指導要領が新しくなり、それにともなった指導法や教材等を教えていただきたく、この研修会に参加させていただきました。内容が多くなったことで、せまい中で、様々なバリエーションのある教材等をうちだすのはむずかしいと思いますが、「これが一番」といものよりも、「これも考えられる」といったものを複数のマニュアル等で教えていただけると、より良い研修になったと感じています。5日間という長い間、大変お世話になりました。どうもありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成29年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, I-2)

団体名： 鳴門教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
平成29年 7月31日(月)	9:30- 10:00 開 講 式	(講義 10:00-12:00) これからの技術教育 - 学習指導 要領の改訂を踏まえて -	昼休み	(講義 13:00-15:00) 技術と情報の歴史 (計算 機器の変遷を中心として)	(実習 15:00-17:00) 新しい学習指導要領に 対応した技術教材の利用				
8月1日(火)	(実習 9:00-12:00) A班：中学校技術におけるエネルギー変換と材料加工 B班：中学校技術におけるプログラミングの基礎と応用	昼休み		(実習 13:00-17:00) A班：中学校技術におけるエネルギー変換と材料加工 B班：中学校技術におけるプログラミングの基礎と応用					
8月2日(水)	(実習 9:00-12:00) 中学校技術における情報システム構築とネットワーク 利用	昼休み		(実習 13:00-17:00) 中学校技術における情報システム構築とネットワーク利用					
8月3日(木)	(実習 9:00-12:00) A班：中学校技術におけるプログラミングの基礎と応用 B班：中学校技術におけるエネルギー変換と材料加工	昼休み		(実習 13:00-17:00) A班：中学校技術におけるプログラミングの基礎と応用 B班：中学校技術におけるエネルギー変換と材料加工					
8月4日(金)	(研究協議 9:00-12:00) 第1・2・3班：(各班での協議) 技術教育ディスカッション (新しい学習指導要領の実 施に向けて)	昼休み	(研究協議 13:00-15:00) 技術教育ディスカッション (全体発表)	15:00- 15:30 閉 講 式					

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）「技術・家庭科における食育、幼児理解に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成29年7月31日（月）～平成29年8月3日（木）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	24	人	参加率	-
開 催 場 所	横浜国立大学(神奈川県横浜市)							

※ 全体受講定員 245 人、受講者数 247 人、
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	18	6	0	0	0	0	24
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他県の先生方の取り組みについて、日頃だと知る機会が少ない分、実際に話を聞くことは大変勉強になりました。また、新しい学習指導要領について、どんなところが変わるのか具体的に分かることができ、勉強になりました。また、幼児教育、栄養教育の専門の先生の話聞く機会があまりないので、深く学ぶことができました。やはり、専門的すぎて、中学生には…、と思う部分もありましたが、子どもの学びが生涯に生かせるよう+α、先を見通した指導を心がけたいと思います。 ・学習指導要領の最新の情報が勉強でき、とてもよかったです。各講義内容が濃く、時間いっぱいあります。少しまとめる時間が欲しかったです。（となりの人を話す、内容の確認、整理でもいいので） ・家庭科の研修会自体が少なかったり、家庭科の教員が減っていたりする中で、教科についての研修を受けることができ、とても有意義だったと感じています。新学習指導要領についても、最新の情報を知っただけでなく、なぜこのような内容になったのか、ということについて直接話をきくことができたので、学校に戻って授業をする時に、少しでもその思いに近づいて授業ができるよう努力していきます。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成29年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭 : J-1)

団体名 : 横浜国立大学

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月31日 (月)		開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 10:15-10:25 10:35-12:00	(講義)「新学習指導要領に向けた家庭分野における指導の充実」 (担当) 筒井恭子(文部科学省初等中等教育局調査官) 教育学部講義棟7号館311室	昼食	(報告・演習)「家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における食に関する指導の実践事例報告及び演習」 (担当) 築地晶子(横浜国立大学附属横浜西中学校教諭)、大川美子(宇都宮市立省初等中等教育局教科調査官) 教育学部講義棟7号館311室 13:00-14:50	休息十分	(講義)「家庭分野における食育・幼児理解に関する指導の充実」 (担当) 筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育学部講義棟7号館311室 15:00-16:00	休息十分	(演習)「幼児との触れ合い活動に関する情報交換」 (担当) 仲原千鶴子(神奈川県教育委員会指導主事)・山崎幸子(神奈川県教育委員会教育高指導主事) 教育学部講義棟7号館311室 16:10-17:30
8月1日 (火)	(講義・実習)「幼児理解と幼児との触れ合い活動」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育学部講義棟7号館311室 森のルーナ保育園 9:00-12:00	昼食	(演習)「幼児の観察・触れ合い活動のまとめと発表」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育学部講義棟7号館311室 13:00-14:50	休息十分	(講義)「幼児理解につながらる触れ合い活動とは」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育学部講義棟7号館311室 15:00-16:00	休息十分	(演習)「幼児の観察や触れ合い活動における指導の工夫」 グループ討議 16:10-17:10	休息十分	
8月2日 (水)	(講義・演習) 「栄養を考えた献立作成の指導」 (担当) 三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育学部講義棟7号館311室、第1研究棟311室 栄養学実験室 9:00-12:00	昼食	(演習)食の現代的問題1 「環境に配慮した調理」 (担当) 真坂泰子(東京ガス株式会社「食」情報センター) (株)東京ガス横浜ショールーム クッキングスタジオ 13:30-14:55	休息十分	(講義)食の現代的問題2 「食育における食品安全性」 (担当) 山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 研究員) (株)東京ガス横浜ショールーム ホール 15:05-16:30	休息十分	(演習)「献立作成に関する指導の工夫」 グループ討議 16:40-17:30	休息十分	
8月3日 (木)	(実習)「調理科学の視点を重視した実習指導」調理実習 (担当) 杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育学部第1研究棟312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食	(デイスカッション) 「技術・家庭科(家庭分野)における食育・幼児理解に関する指導の充実」 (担当) 杉山久仁子(横浜国立大学教授)、園田菜摘(横浜国立大学教授)、三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育学部講義棟7号館310室 13:00-14:25	休息十分	閉講式 14:35 開会 14:37 挨拶 14:45 修了証授与 14:55 閉会 アンケート回収 諸連絡	休息十分			

実施会場 : 横浜国立大学教育学部講義棟、(株)東京ガス横浜ショールーム

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業）「教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成29年8月21日（月）～平成29年8月25日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	39	人	参加率	—
開 催 場 所	足利工業大学(栃木県足利市)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	34	5	0	0	0	0	39
割合 (%)	87.2	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	39						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの実践活動や、教育についての課題や、今後期待されることなど、幅広いテーマにわたって研修させていただいた。教員が学ぶ姿勢を持ち続け、生徒に率先垂範してみせることで、生徒の能力を引き出せたり、学校の活性化に繋がるため、このような機会を大切にしたいと強く感じた。今回学んだことを自分の中だけにしまわず、積極的に発信していきたい。 ・普段は接しない分野や実験の研修ができてよかった。時間、内容ともにとてもハードでボリュームがあったが、こういう機会がないと、勉強という概念が減ってきているので、良かった。 ・とても充実した研修でした。次の期会もあれば、ぜひまた参加させていただきたいです。足利の地元の産業や歴史の授業やフィールドワークみたいなものがあれば、受けてみたいです。来年の講座でやってほしいです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成29年度 産業教育実習助手研修日程

(工業) 団体名：足利工業大学

日時	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:50
8月21日 (月)	8:30 開講式	9:00～10:30 (講義) 工業科教育法① 工業科学習指導要領	10:40～12:10 (講義) 工業科概論① IoTを支えるセンサ技術	13:00 昼休み	13:00～14:30 (講義) 工業科概論② 技術史	14:40～16:10 (講義) 工業科教育法② 工業教育の現状	16:20～17:50 (講義) 工業科教育法③ 学習と評価				
8月22日 (火)		9:00～10:30 (講義) 工業科実践① 太陽熱利用技術	10:40～12:10 (演習) 工業科実践② ソーラークッカーの製作 と性能評価(1)	13:00 昼休み	13:00～14:30 (演習) 工業科実践③ ソーラークッカーの製作 と性能評価(2)	14:40～16:10 (講義) 工業科概論③ 伝統技法の活用	16:20～17:50 (講義) 工業科概論④ グローバル人材育成				
8月23日 (水)		9:00～10:30 (演習) 工業科実践④ 3Dプリンタ演習(1)	10:40～12:10 (演習) 工業科実践⑤ 3Dプリンタ演習(2)	13:00 昼休み	13:00～14:30 (演習) 工業科実践⑥ 3Dプリンタ演習(3)	14:40～16:10 (講義) 工業科概論⑤ 実習における安全教育 (1)	16:20～17:50 (演習) 工業科概論⑥ 実習における安全教育 (2)				
8月24日 (木)		9:00～10:30 (講義) 工業科教育法④ 学習指導案の作成(1)	10:40～12:10 (講義) 工業科教育法⑤ 学習指導案の作成(2)	13:00 昼休み	13:00～14:30 (講義+演習) 工業科実践⑦ ゲームプログラミング (1)	14:40～16:10 (講義+演習) 工業科実践⑧ ゲームプログラミング (2)	16:20～17:50 (講義) 工業科教育法⑥ アクティブ・ラーニング				
8月25日 (金)		9:00～10:30 (講義) 工業科教育法⑦ 教育相談	10:40～12:10 (講義) 工業科概論⑦ 技術者倫理	13:00 昼休み	13:00～14:30 (講義) 工業科教育法⑧ キャリア教育	14:40～16:10 (講義) 工業科概論⑧ 環境問題と自然エネルギー	16:20～16:50 閉講式				

実施会場：足利工業大学 大前キャンパス(栃木県足利市)

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	調査企画課							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員							
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）			日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	29	人	参加率	—
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学、アイシン精機株式会社ほか							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	23	5	0	0	0	1	29
割合 (%)	82.1	17.9	0.0	0.0	0.0	3.4	
	28	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新たな学科立ち上げに際し、新施設の設計・備品選定やカリキュラム編成において、専門でない分野であったので、今回の研修は渡りに船とばかりの有難さだった。大学ではなく専門学校だったことも、目的に沿っていて大変参考になった。 ・この研修で、実習形式の授業を行うための最適な設定を研究することができたことは、実践的でありとても役に立ちました。また実習形式の教材作成には時間が要するので、このような機会がありとても助かりました。 ・最先端の技術を学ぶとともに大学の講義を受講したり、教授の先生方と話をさせていただいて、今後の教科指導のヒントが得られた。 ・他分野に活かせる技術を研究し身に付けたことで、指導の幅を広げることができた。この度、身に付けた制御技術等を今後課題研究等の授業で生徒に還元し、幅広い分野において生徒が課題解決できるように指導していきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成29年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先	
			所 属	機関名	派遣時期	期間
1	山形県	3	山形県立山辺高等学校	株式会社ジョインセレモニーパレスグランデール	H29.7.21 ~ H29.8.20	2 ヶ月
2			山形県立米沢工業高等学校	山形大学大学院	H29.11.1 ~ H30.1.31	3 ヶ月
3			山形県立置賜農業高等学校	山形県農業総合研究センター	H29.5.1 ~ H29.10.31	6 ヶ月
4	栃木県	4	大田原市立奥沢小学校	宇都宮大学	H29.10.1 ~ H30.3.31	6 ヶ月
5			壬生町立壬生中学校	宇都宮大学	H29.4.1 ~ H29.9.30	6 ヶ月
6			栃木市立東陽中学校	宇都宮大学	H29.4.1 ~ H29.9.30	6 ヶ月
7			栃木県立矢板東高等学校	宇都宮大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
8	群馬県	1	群馬県立前橋清陵高等学校	共愛学園前橋国際大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
9	愛知県	7	愛知県立横須賀高等学校	名古屋大学大学院理学研究科	H29.7.10 ~ H29.12.15	6 ヶ月
10			愛知県立安城農林高等学校	あいち産業科学技術総合センター	H29.5.1 ~ H29.7.31	3 ヶ月
11			愛知県立春日井工業高等学校	株式会社バイナス	H29.6.1 ~ H29.8.31	3 ヶ月
12			愛知県立豊田工業高等学校	アイシン精機株式会社	H29.6.1 ~ H29.8.31	3 ヶ月
13			愛知県立半田商業高等学校	名古屋情報メディア専門学校	H29.9.29 ~ H29.12.28	4 ヶ月
14			愛知県立犬山高等学校	学校法人河合塾学園 トライデントコンピュータ専門学校	H29.9.28 ~ H29.12.27	4 ヶ月
15			愛知県立緑丘商業高等学校	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋コミュニケーションアート専門学校	H29.6.1 ~ H29.8.31	3 ヶ月
16	京都府	2	向日市立西ノ岡中学校	大阪大学大学院	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
17			宇治市立北槇島小学校	大阪大学大学院	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
18	大阪府	2	大阪府立池田高等学校	大阪大学大学院	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 か月
19			大阪府立西野田工科高等学校	大阪教育大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 か月
20	和歌山県	1	和歌山県立和歌山商業高等学校	大原簿記法律&美容製菓専門学校	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
21	岡山県	1	岡山県立岡山南高等学校	岡山大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
22	山口県	1	山口県立宇部工業高等学校	山口大学	H29.7.3 ~ H29.8.31	2 ヶ月
23			(同上)	(同上)	H29.12.1 ~ H29.12.31	1 ヶ月
24	高知県	1	高知県立伊野商業高等学校	高知工科大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 ヶ月
25	福岡県	1	福岡県立須惠高等学校	九州大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 か月
26	佐賀県	2	佐賀県立鳥栖工業高等学校	福岡工業大学	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 か月
27			佐賀県立鳥栖商業高等学校	鳥栖市役所	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 か月
28	熊本県	1	熊本県立熊本農業高等学校	株式会社鶴屋百貨店	H29.4.1 ~ H30.3.31	12 か月
29	札幌市	1	北海道札幌市平岸高等学校	北海道大学大学院	H29.9.15 ~ H29.12.15	4 ヶ月
30	東京学芸大学	1	東京学芸大学附属高等学校	東京大学医科学研究所	H29.8.1 ~ H29.8.31	1 ヶ月